

# 伊万里市都市形成戦略

平成 29 年 3 月

佐賀県伊万里市

# 第1章 はじめに

## 1-1 背景・目的

伊万里市（以下、「本市」とします。）は、天然の良港である伊万里湾を中心に大陸との貿易で発展してきました。江戸時代には「肥前陶磁器」の積出港として「伊万里」の名を世界に広め、大正時代以降は石炭の積出港として繁栄しました。近年では国際物流の日本海側拠点港（国際海上コンテナ拠点港）として位置づけられ、ますますの発展が期待されています。

また、日本磁器の最高峰と称賛される焼き物「鍋島」をはじめ、伊万里ブランドとして伊万里梨や伊万里牛など高品質な特産品が生産されており、全国的に知名度が高く、文化、産業において調和のとれたまちとして成長を続けています。

一方、人口減少や少子高齢化の進行により、生産年齢人口が減少したことに伴う活力の低下や核家族化は、全国的な傾向と同様に本市においてもみられます。空き店舗数が増加していることから、中心市街地におけるかつての賑わいは失われつつある状況です。

さらに、インターネットをはじめとするICTの普及によりSNS等をとおした新しい「つながり」やライフスタイルの変化による個人の価値観の多様化もみられます。

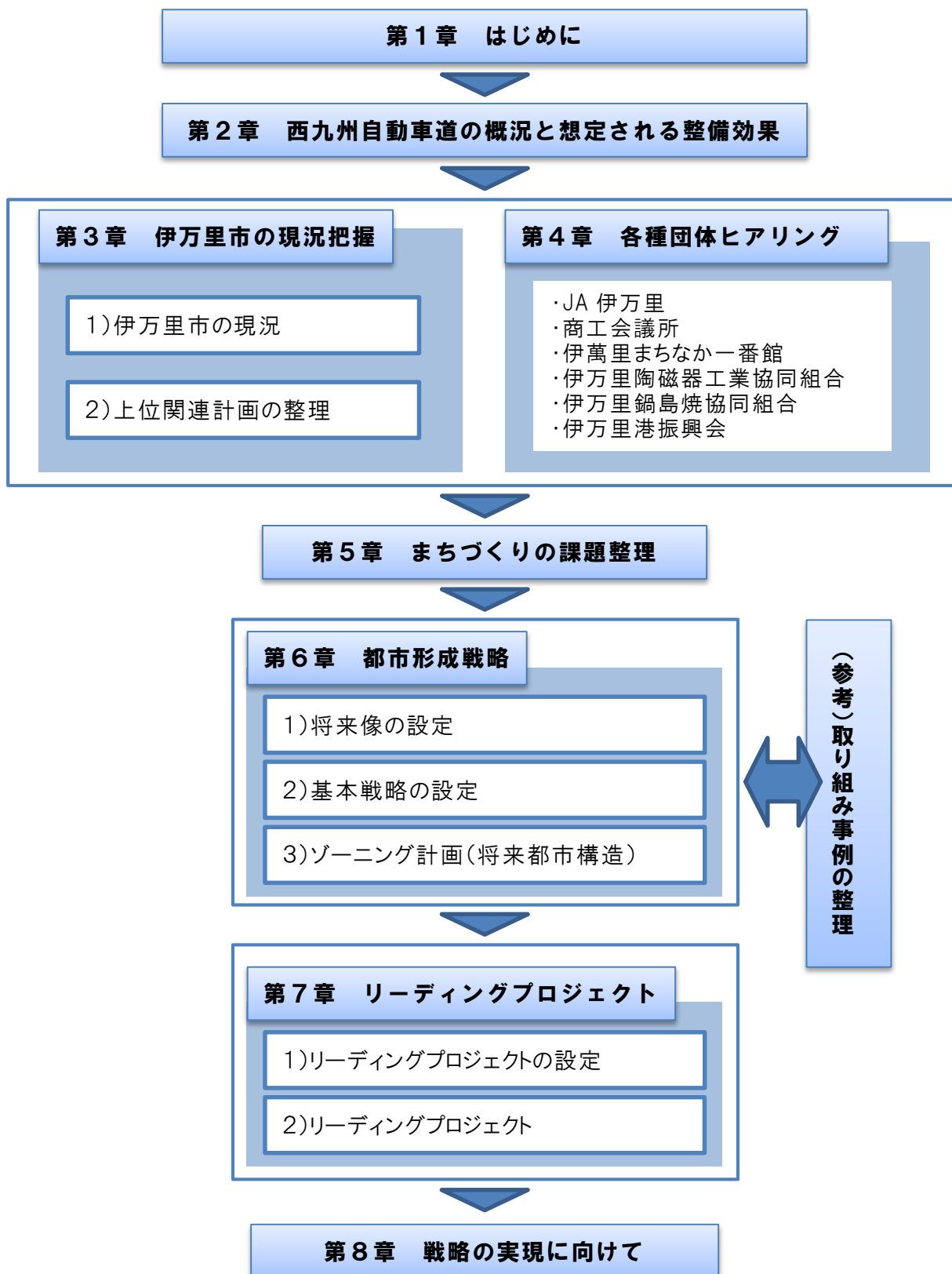
このような社会的動向の中、平成26年度に福岡都市圏からの主要広域交通軸となる西九州自動車道の南波多谷口ICが供用開始されました。平成29年度には伊万里東府招ICが供用開始予定であることから、西九州自動車道の延伸を今後、伊万里港の機能向上や企業活動の促進、雇用拡大、観光客の増加など、本市の産業経済、観光文化の振興・活性化につなげていく必要があります。

以上のような背景を受け、本戦略は、西九州自動車道の沿線で本市の中心部に位置する伊万里中IC（仮称）の供用開始により予想される流入人口の増加や新たな物流のネットワークの構築など、ヒトやモノの動きを踏まえ、伊万里市第5次総合計画の将来都市像である「活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里」の実現に向けて、中長期的なビジョンの策定を行うことを目的とするものです。

## 1-2 策定フロー及び各章の内容

### 1. 策定フロー

以下のフローに基づき本戦略を策定します。



## 2. 各章の内容

各章における内容を以下に示します。

「第2章 西九州自動車道の概況と想定される整備効果」では、本戦略策定の背景となる西九州自動車道整備の全体像を把握し、整備により期待される効果等を整理します。

「第3章 伊万里市の現況把握」では、本市の人口、産業、土地利用動向等の社会経済状況を把握するとともに、上位関連計画における本市のまちづくりの方向性を確認します。

「第4章 各種団体ヒアリング」では、西九州自動車道の開通を控え、各団体が感じている課題や今後の戦略等を把握するためにヒアリングを行います。

「第5章 まちづくりの課題整理」では、第3章および第4章の結果を受け、西九州自動車道整備効果を本市の地域振興につなげていくための課題を整理します。

「第6章 都市形成戦略」では、第5章の結果を踏まえ、本市が目指すべき将来像及びその実現のための基本戦略等を設定します。

「第7章 リーディングプロジェクト」では、第6章の基本戦略を推進するために先導的に取り組むべきものをリーディングプロジェクトとして設定し、具体的な展開方針や取り組み事例等を整理します。

「第8章 戦略の実現に向けて」では、基本戦略及びリーディングプロジェクトの展開スケジュール、実現に向けた基本的な考え方及び具体的実現方策を整理します。

## 第2章 西九州自動車道の概況と想定される整備効果

### 2-1 西九州自動車道の計画の概況

西九州自動車道は、福岡市から唐津市・伊万里市・佐世保市を経て武雄市に至る延長約150kmの自動車専用道路です。今後、東九州自動車道などの整備とあいまって九州の循環型高速道路ネットワークが構築されるほか、九州北西部の地域経済の活性化、高速走行の定時制の確保など様々な効果が期待されます。

佐賀県内の整備状況は、唐津道路が暫定2車線で供用、唐津伊万里道路及び伊万里松浦道路が部分供用となっています。

表 佐賀県内の整備状況

事業箇所名	区間	延長	幅員	車線数
1唐津道路	自：福岡県糸島市二丈鹿家 至：佐賀県唐津市原	L=10.4km (うち佐賀県側 9.4km)	20.5m	4車線 (2/4車線 供用中)
2唐津伊万里道路	自：佐賀県唐津市原 至：佐賀県伊万里市南波多町府招	L=18.1km	20.5m	4車線 (2/4車線 部分供用中)
3伊万里道路	自：佐賀県伊万里市南波多町府招 至：佐賀県伊万里市東山代町長浜	L=6.6km	20.5m	4車線
4伊万里松浦道路	自：佐賀県伊万里市東山代町長浜 至：長崎県松浦市志佐町	L=17.2km (うち佐賀県側 10.1km)	12.0m	2車線 (部分供用中)



図 西九州自動車道全域図

## 2-2 西九州自動車道開通に伴い想定される整備効果

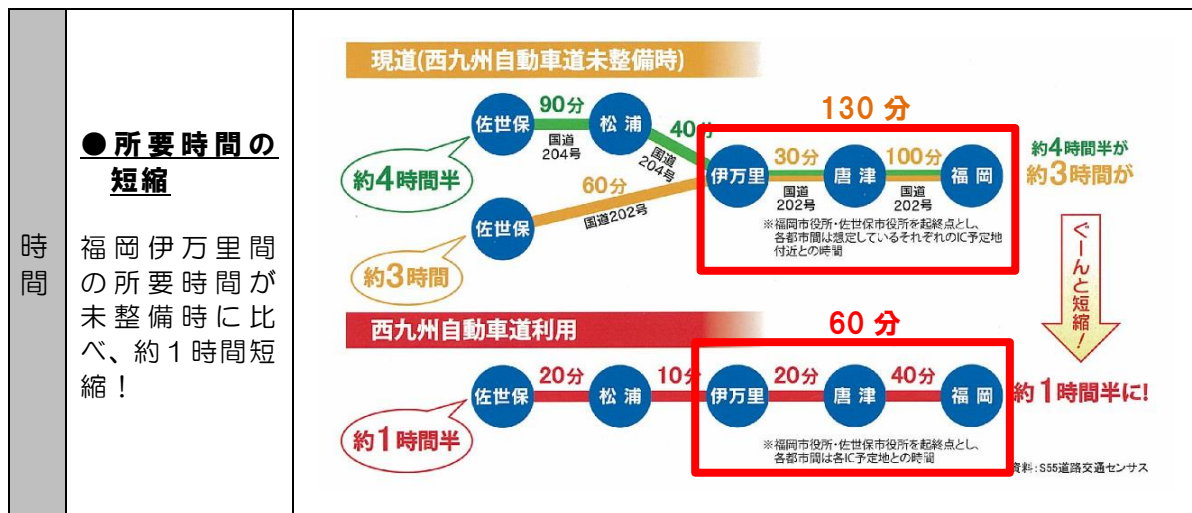
西九州自動車道の開通に伴い、福岡～佐賀～長崎間の移動所要時間の短縮による産業・観光など地域経済の活性化に寄与するほか、医療・防災面など都市の安全性の向上も想定されます。

これらの整備効果は、国土交通省九州地方整備局において公表されている資料より抜粋して整理します。

### 1. 基礎的情報

#### (1) 所要時間短縮

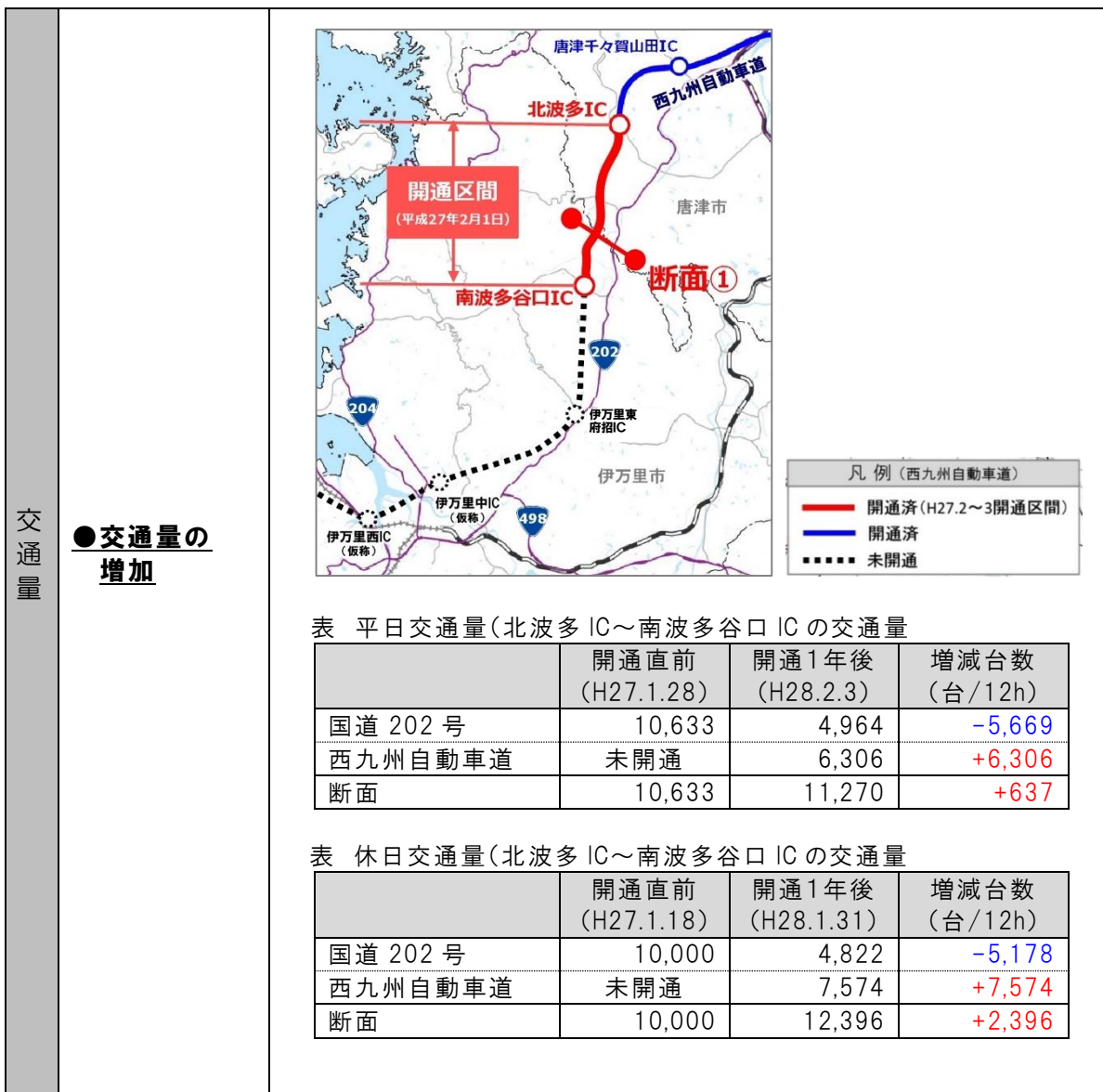
西九州自動車道が全線開通すると、福岡都市圏から伊万里市まで未整備時では130分かかっていた所要時間が60分に短縮されます。



資料：西九州自動車道パンフレット（国土交通省九州地方整備局）

## (2) 開通区間の交通量の変化

参考として、既に通している北波多 IC～南波多谷口 IC 間における開通前後の交通量の変化をみると、平日で約 640 台/12h、休日で約 2,400 台/12h 交通量が増加しています。

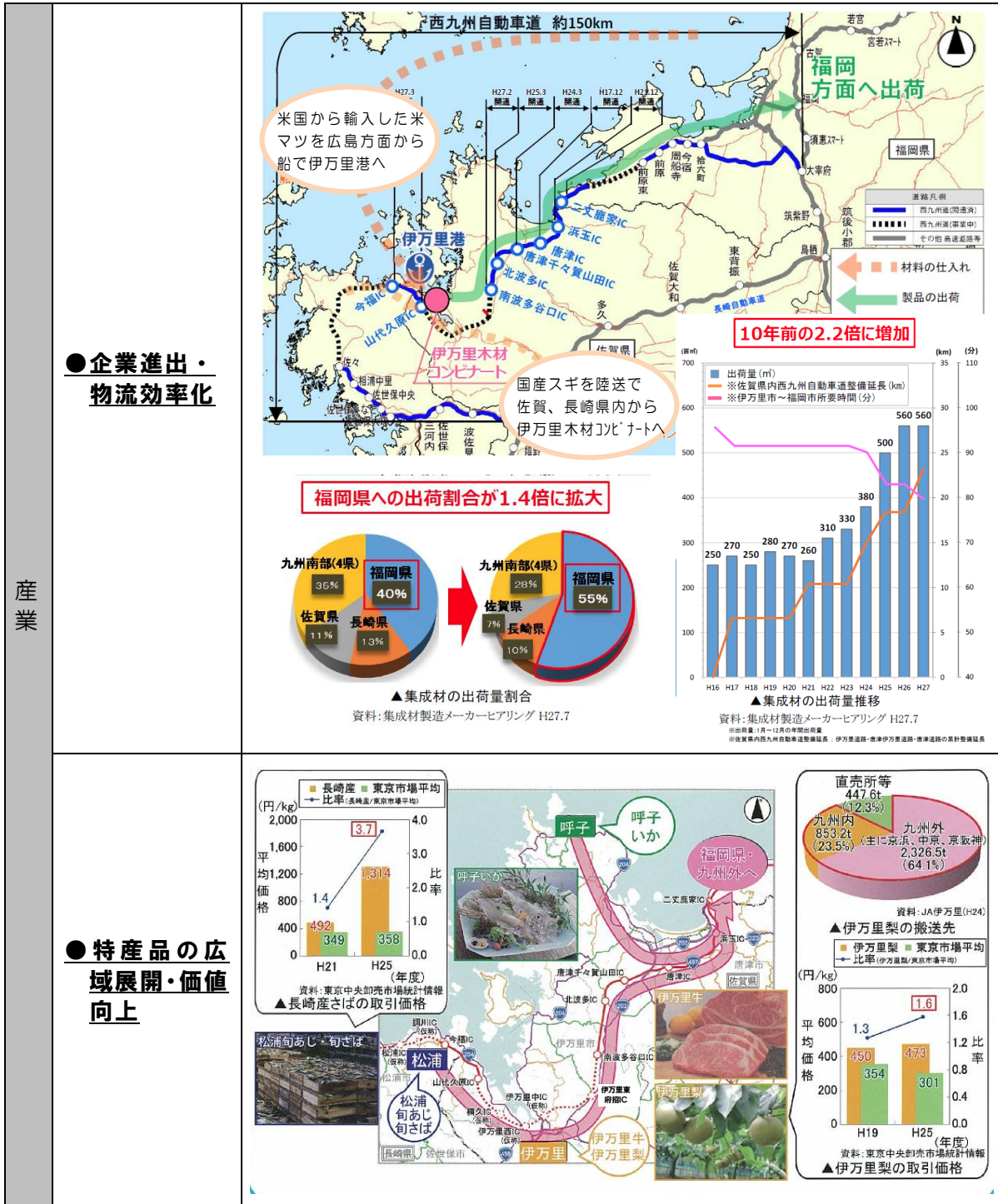


資料：西九州自動車道パンフレット（国土交通省九州地方整備局）  
西九州自動車道北波多 IC～南波多谷口 IC、山代久原 IC～今福 IC 開通 1 年後の整備効果について

## 2. 産業面での効果

集成材生産拠点の伊万里木材コンビナートでは、西九州自動車道の開通とともに輸送時間が短縮し、集成材の福岡県への出荷量が年々増加しています。

伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランドについても、鮮度を保って搬送できていることから、取引価格が上昇しています。



資料:西九州自動車道パンフレット(国土交通省九州地方整備局)

西九州自動車道北波多IC~南波多谷口IC、山代久原IC~今福IC開通1年後の整備効果について



### 3. 観光面での効果

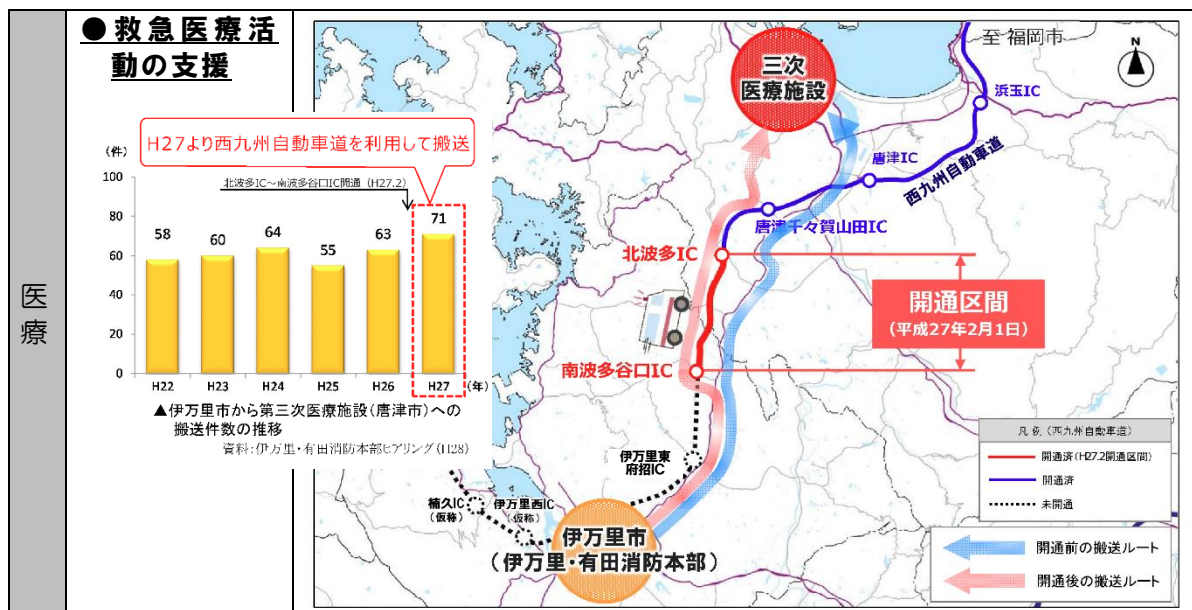
南波多谷口 IC の開通により、道の駅「伊万里」、秘窯の里「大川内山」を訪れる観光客が増加傾向となっています。



資料：西九州自動車道パンフレット（国土交通省九州地方整備局）  
西九州自動車道北波多 IC～南波多谷口 IC、山代久原 IC～今福 IC 開通 1 年後の整備効果について

### 4. 医療面での効果

本市から唐津市の三次医療施設への救急搬送では、北波多 IC～南波多谷口 IC 開通後は、西九州自動車道が利用されるようになり、救急患者を迅速かつ安静に搬送できるようになっています。



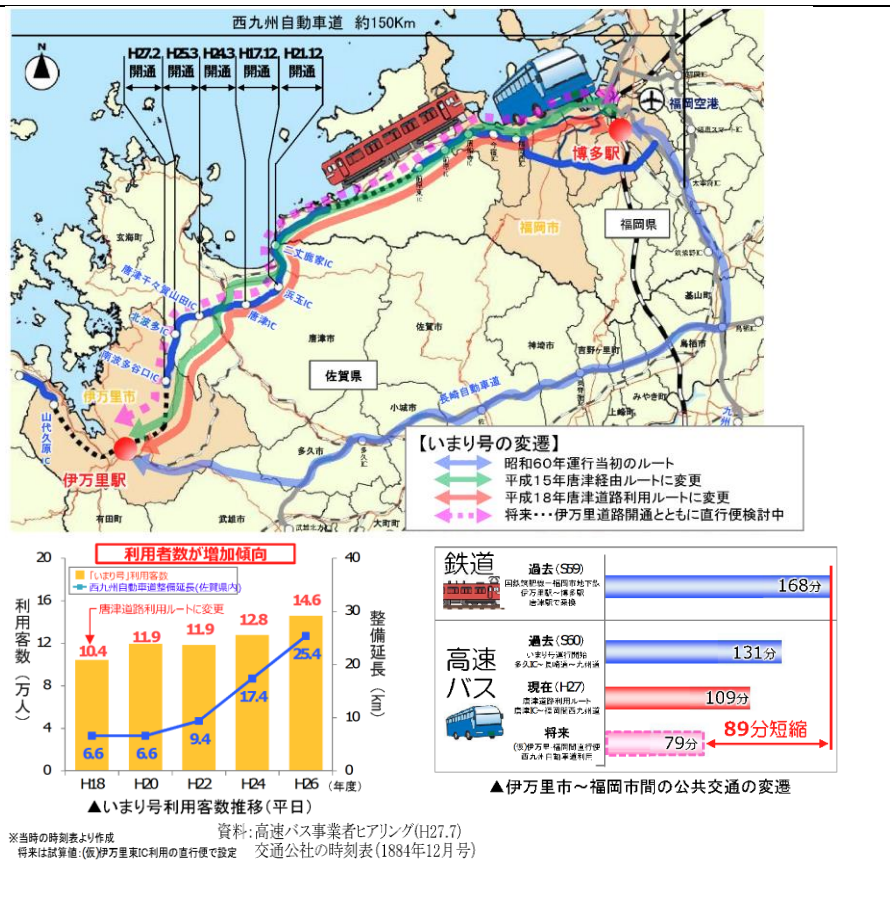
資料：西九州自動車道パンフレット（国土交通省九州地方整備局）  
西九州自動車道北波多 IC～南波多谷口 IC、山代久原 IC～今福 IC 開通 1 年後の整備効果について

### 5. 生活面での効果

本市と福岡市を結ぶ高速バス「いまり号」は、所要時間の短縮により利用者が年々増加傾向にあります。

生活

#### ●生活の利便性が向上

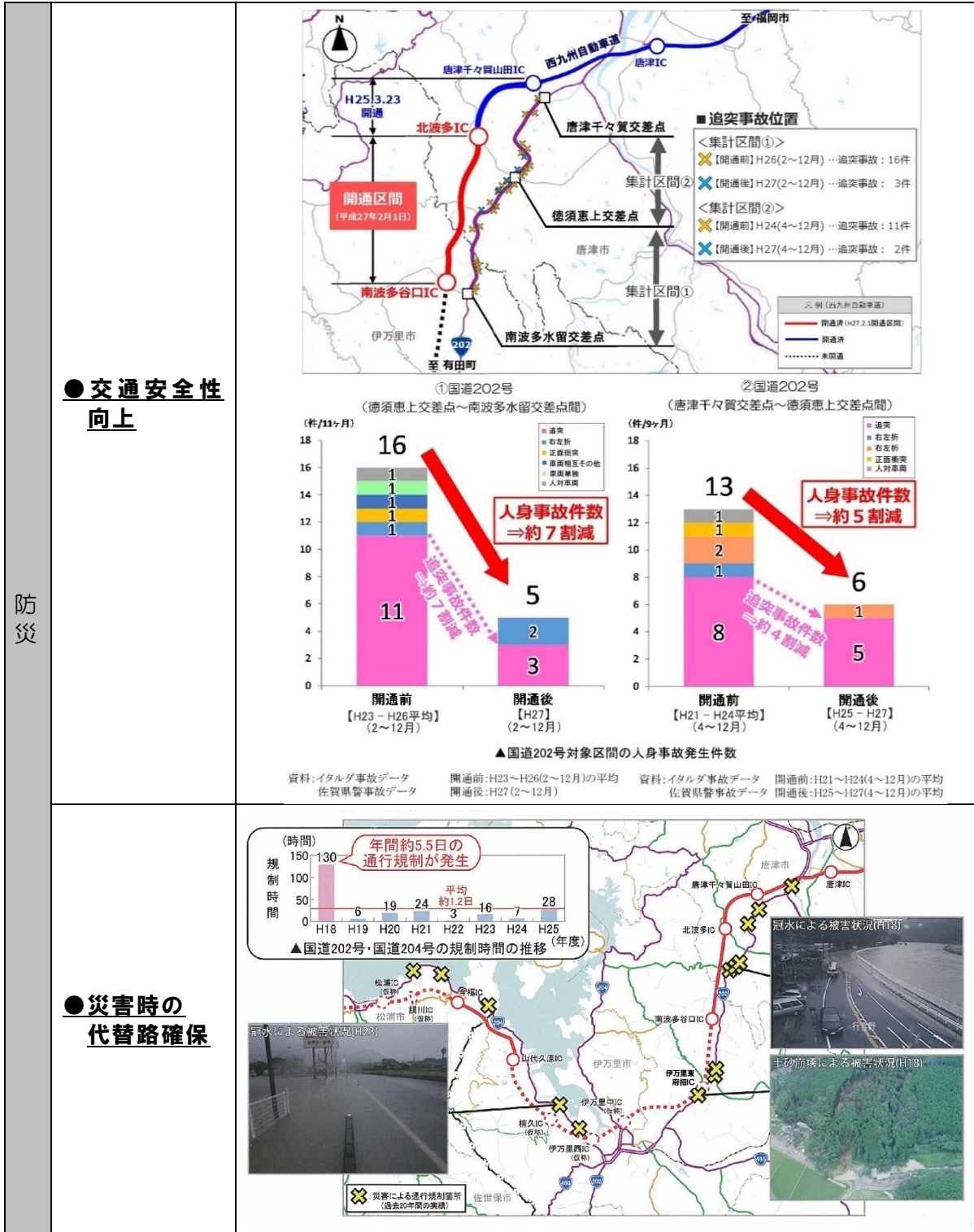


資料：西九州自動車道パンフレット（国土交通省九州地方整備局）  
 西九州自動車道北波多 IC～南波多谷口 IC、山代久原 IC～今福 IC 開通 1 年後の整備効果について

## 6. 防災面での効果

西九州自動車道に交通が転換したことで、国道 202 号の人身事故件数が約 7 割減少し、安全性が向上しています。

冠水や土砂災害等による通行規制時の代替路としての重要性も向上しています。



### 2-3 西九州自動車道開通時の将来交通量

福岡方面から本市への主要幹線道路である国道 202 号の交通量について、平成 21 年交通センサスデータと西九州自動車道が全線開通した後の H42 将来交通量推計結果から比較します。伊万里東府招 IC 付近での国道 202 号の交通量を比較すると、平成 21 年交通センサスでは約 21,100 台/日に対し、平成 42 年推計結果では 7,700 台/日と、約 13,400 台/日の交通量が減少し、他方、開通した西九州自動車道では 23,100 台/日が走行しており、福岡方面からは、国道 202 号から西九州自動車道へシフトし、断面交通量としては 9,700 台/日増加している状況が予測されています。

また、市街地に近い各 IC ランプの交通量をみると、伊万里東府招 IC ランプは 16,600 台/日、(仮称)伊万里中 IC ランプは 8,500 台/日、(仮称)伊万里西 IC ランプは 11,400 台/日となっており、中心市街地に近接する、(仮称)伊万里中 IC の乗降が比較的少ないことが予測されています。

表 各 IC ランプの H42 将来交通量

IC 名称	山代久原 IC	(仮称) 楠久 IC	(仮称) 伊万里西 IC	(仮称) 伊万里中 IC	伊万里東府招 IC	南波多谷口 IC
交通量 (台/日)	3,400	5,300	11,400	8,500	16,600	2,000

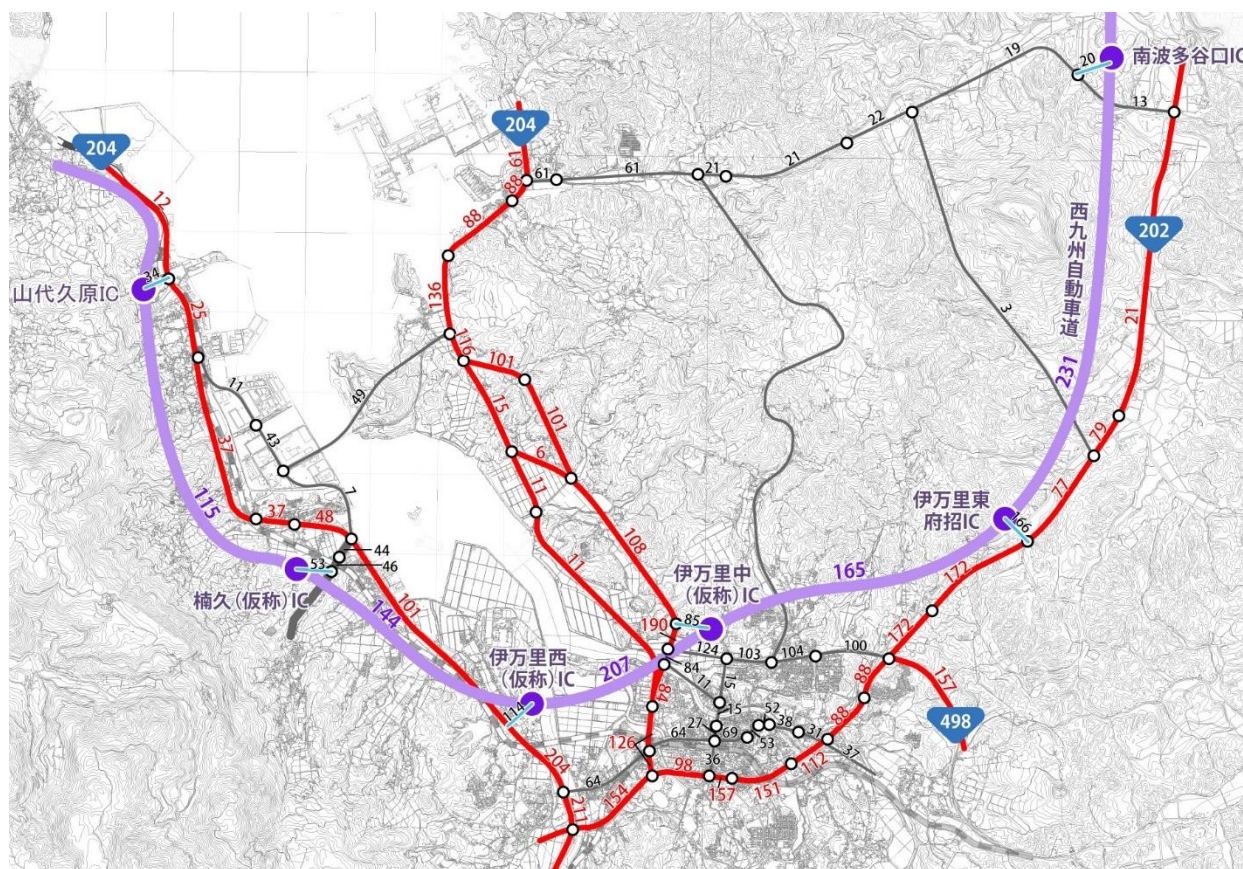


図 H42 将来交通量(単位:百台/日)

資料: 国道 204 号道路橋梁調査委託(ルート協議)報告書(H25.12 月伊万里土木事務所) p.2-20 をもとに作成

表 交通量比較(南波多谷口IC～伊万里東府招ICの交通量)

	H21 センサス OD	H42 将来交通量	増減台数 (台/12h)
国道 202 号	21,100	7,700	-13,400
西九州自動車道	未開通	23,100	+23,100
断面	21,100	30,800	+9,700

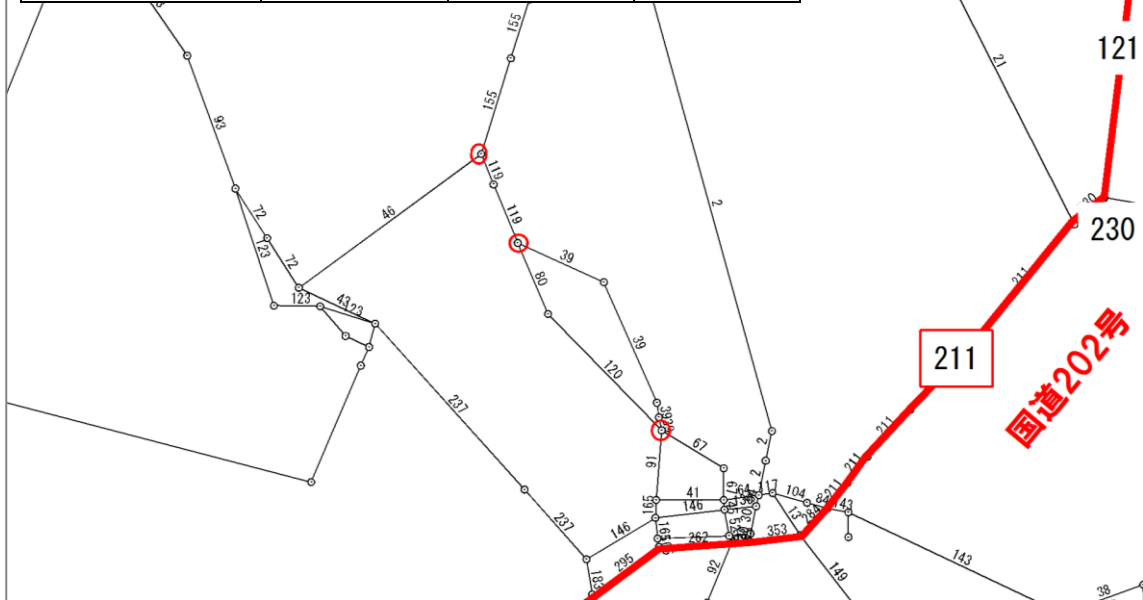


図 H21 センサス OD(単位:百台/日)

資料: 国道 204 号道路橋梁調査委託報告書(H22.3 月伊万里土木事務所) p.78 を加工

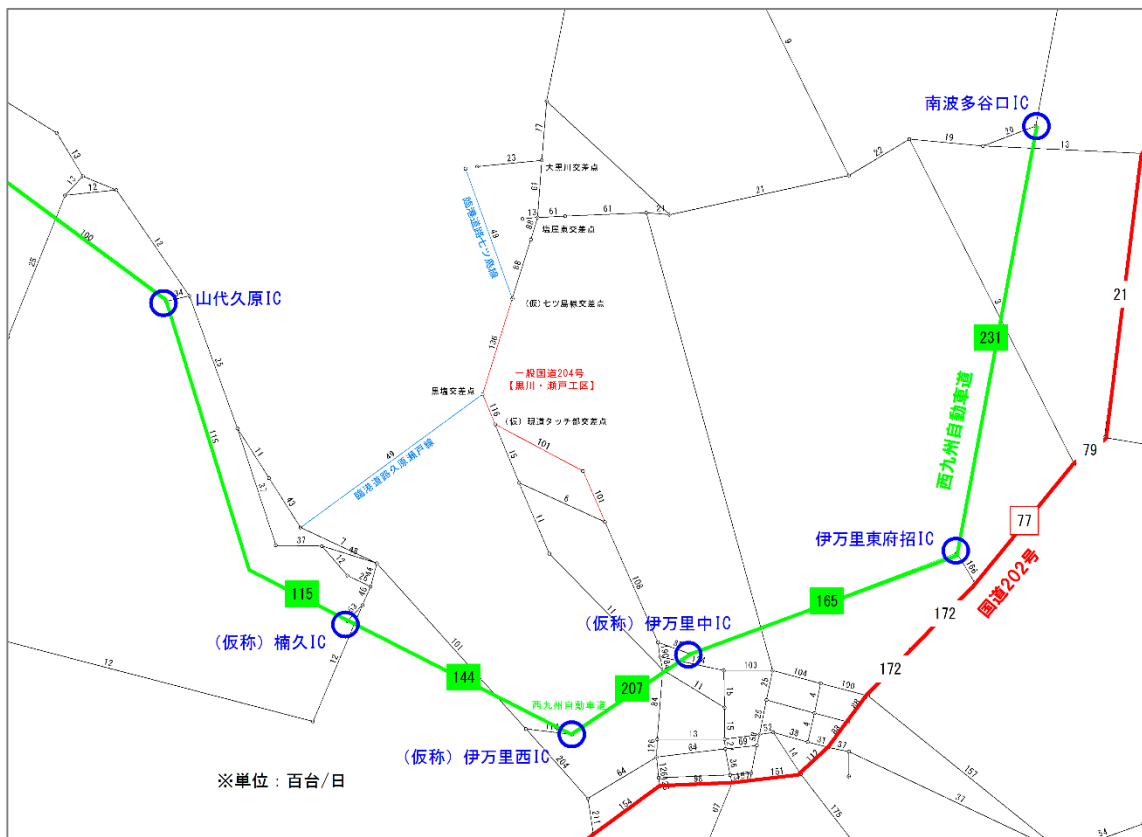


図 H42 将来交通量(単位:百台/日)

資料: 国道 204 号道路橋梁調査委託(ルート協議)報告書(H25.12 月伊万里土木事務所) p.2-20 を加工作成

## 第3章 伊万里市の現況把握

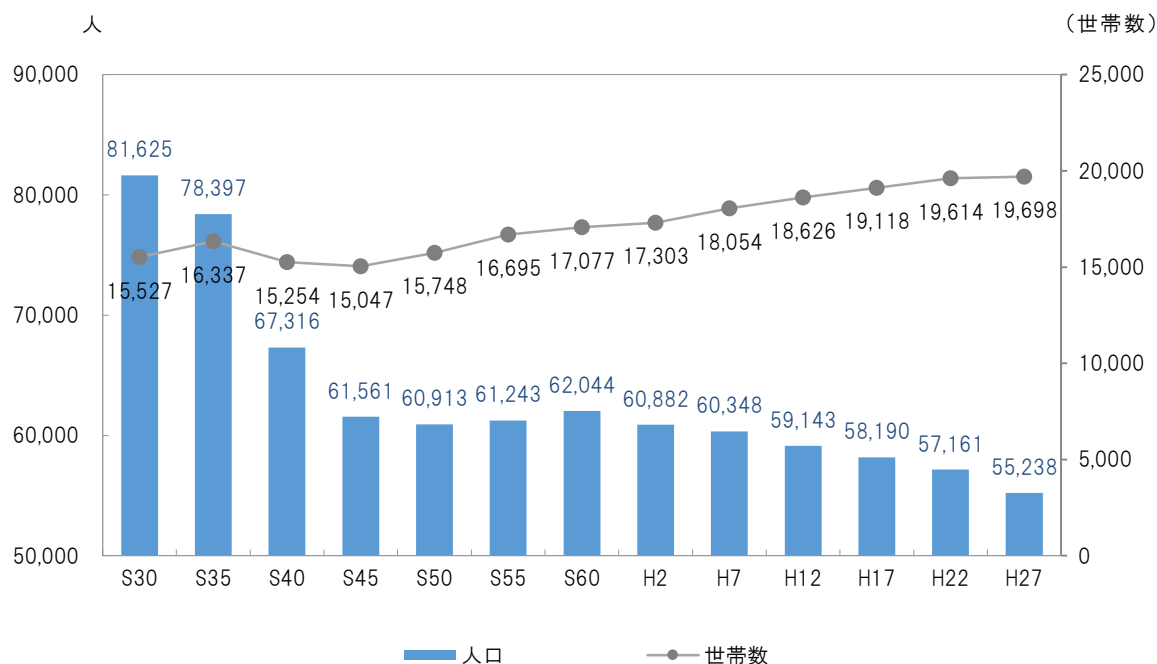
### 3-1 伊万里市の現況

#### 1. 人口動向

##### (1) 人口・世帯数の推移

- 人口 55,238 人、世帯数 19,698 世帯（H27 国勢調査）
- 昭和 30 年以降、減少傾向が続く

平成 27 年国勢調査では、人口 55,238 人、世帯数 19,698 世帯となっています。経年変化をみると、昭和 30 年に 81,625 人でしたが、国のエネルギー転換に伴う相次ぐ炭鉱の閉山により、昭和 45 年には 61,561 人まで急激に減少しました。その後は多少の増減の後、緩やかな減少傾向となっています。一方、世帯数は核家族化の影響により昭和 45 年以降、増加傾向にあります。



資料：国勢調査

図 人口・世帯数の推移

## (2) 地区別人口

- 市全域では人口減だが、用途地域内は増加傾向（H17⇒H27で970人増）
- 用途地域内のうち、伊万里駅周辺は減少、用途地域縁辺部は増加

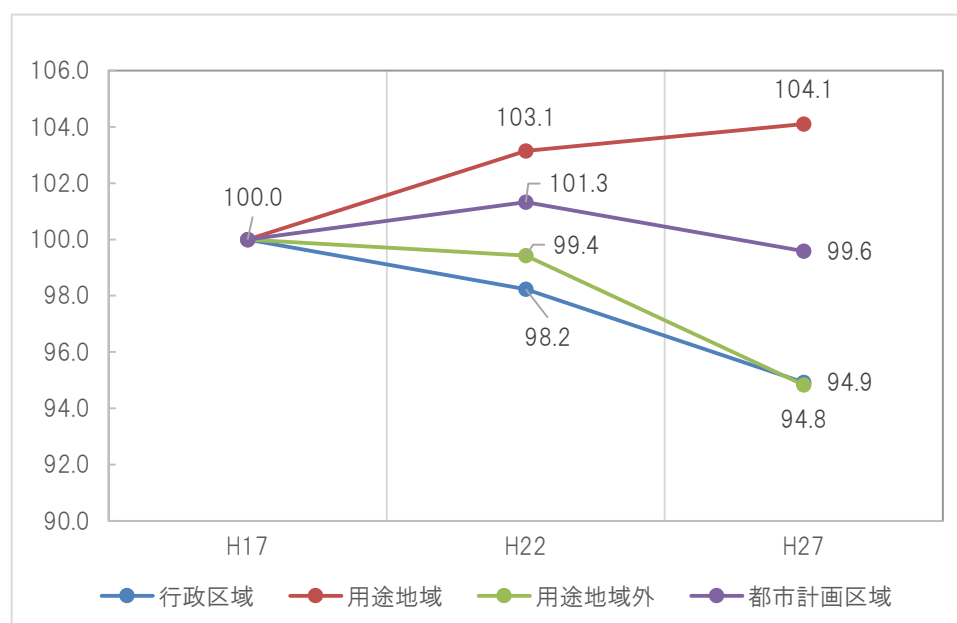
平成 17 年から平成 27 年までの用途地域内外の人口の推移をみると、用途地域内では 970 人の増加となっている一方、用途地域外では 1,162 人の減少となっています。

用途地域内について詳しくみると（次項以降の図面参照）、用途地域の中心である伊万里駅周辺の地区は仲町を除いて減少しており、中心部から離れている地区（つつじヶ丘、二里町八谷搦、立花台三丁目等）において人口増加がみられるなど、中心市街地の空洞化が顕著となっています。

表 用途地域指定区域内外の地区別人口の推移 (単位:人)

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	H17-22
行政区域	58,190	57,161	55,238	-2,952
都市計画区域	46,094	46,706	45,902	-192
用途地域	23,615	24,357	24,585	970
用途地域外	22,479	22,349	21,317	-1,162
都市計画区域外	12,096	10,455	9,336	-2,760

資料:伊万里市都市政策課



資料:伊万里市都市政策課

図 区分別人口変化 (H17=100 とした場合)

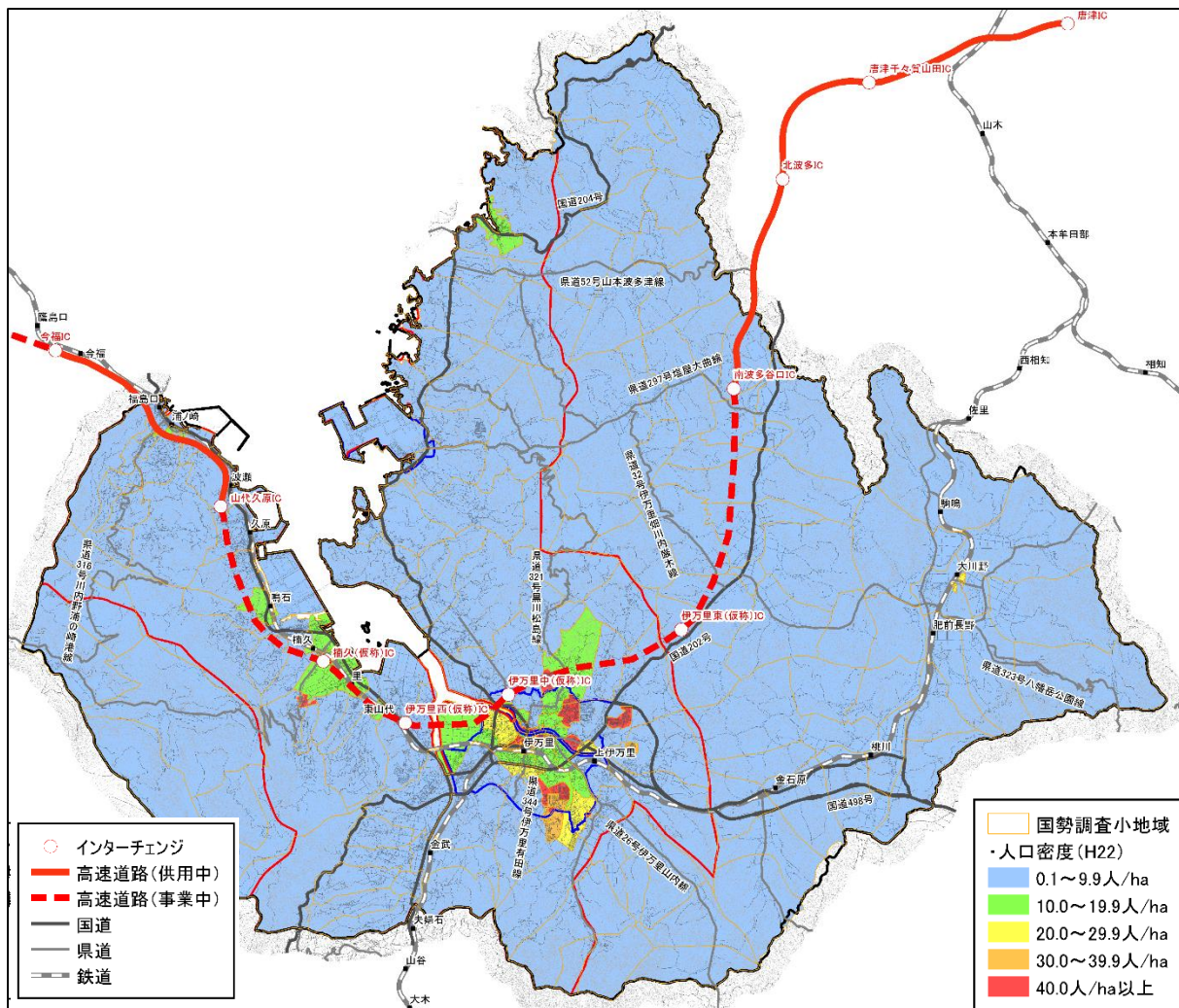


図 地区別人口密度 (資料:平成 22 年国勢調査)

※平成 29 年 3 月において、平成 27 年国勢調査の小地域別集計結果 (GIS) 未公表



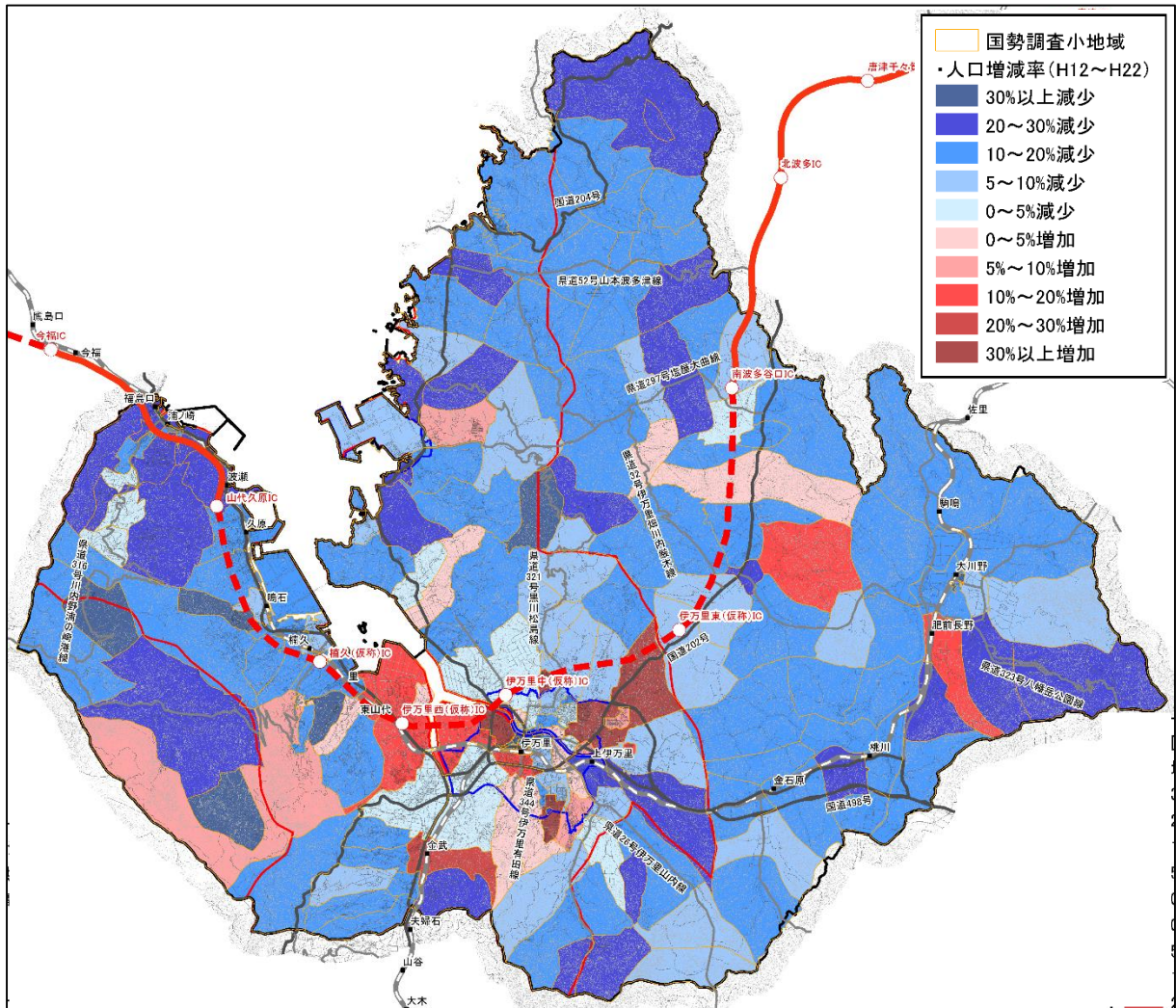


図 地区別人口の推移 (資料:平成 12～22 年国勢調査)

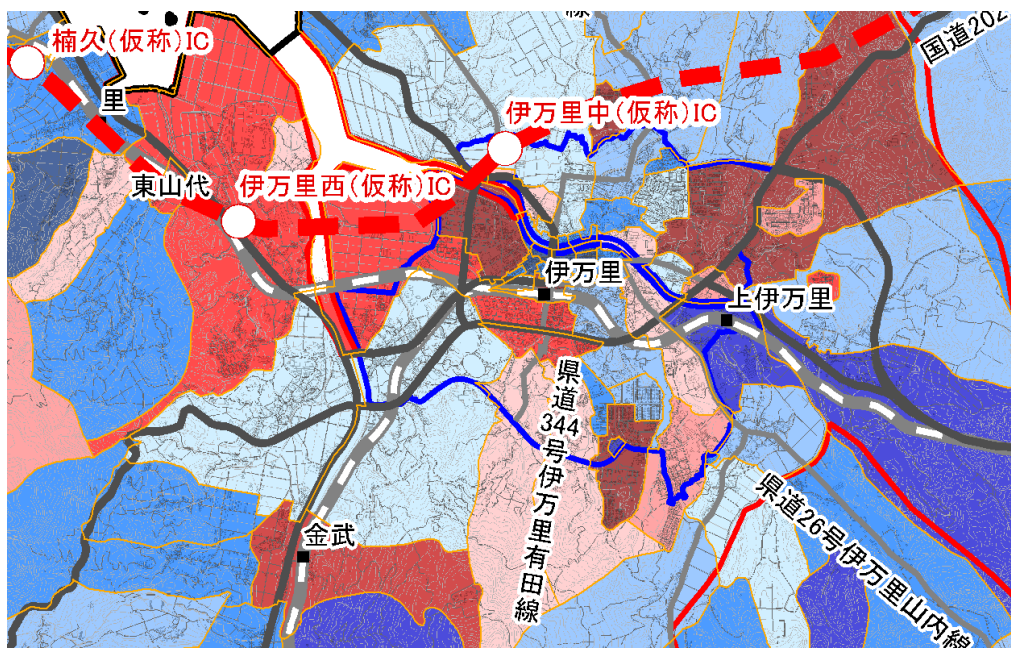


図 地区別人口の推移 中心部 (資料:平成 12～22 年国勢調査)

(3) 年齢別人口の推移

- 年少人口、生産年齢人口、老年人口割合が、14.8%、56.6%、28.6%、少子化、高齢化が進行（H27 国勢調査）
- 生産年齢人口は、H17（35,184人）からH27（31,230人）で約**4,000人減**

本市の年齢3区分別人口をみると、平成27年現在で、年少人口（0～14歳）14.8%、生産年齢人口（15～64歳）56.6%、老年人口（65歳以上）28.6%と、3人に約1人は65歳以上の高齢者となっています。

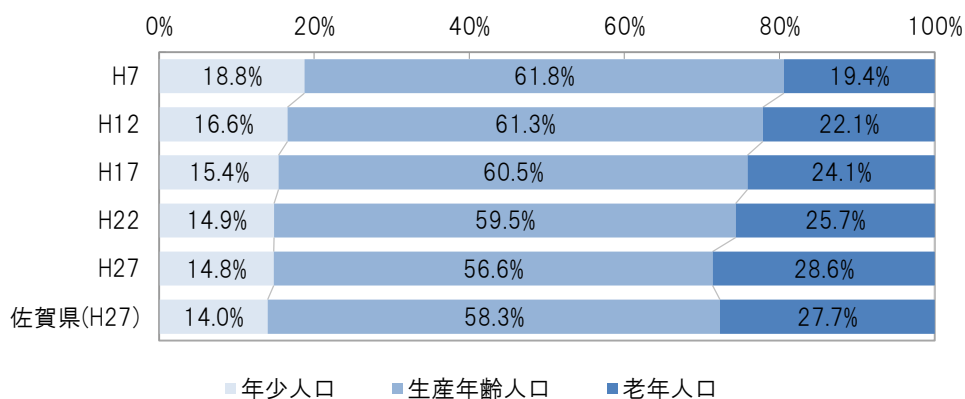
経年変化をみると、老年人口の増加、年少人口の減少が顕著に現れ、少子高齢化が急速に進行しています。

表 年齢別人口の推移

(単位:人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	佐賀県 平成27年
15歳未満	11,324	9,794	8,971	8,484	8,151	116,122
15～64歳	37,298	36,254	35,184	33,988	31,230	483,019
65歳以上	11,726	13,095	14,035	14,659	15,782	229,335
計	60,348	59,143	58,190	57,131	55,163	828,476

資料: 国勢調査



資料: 国勢調査

図 年齢別人口の推移

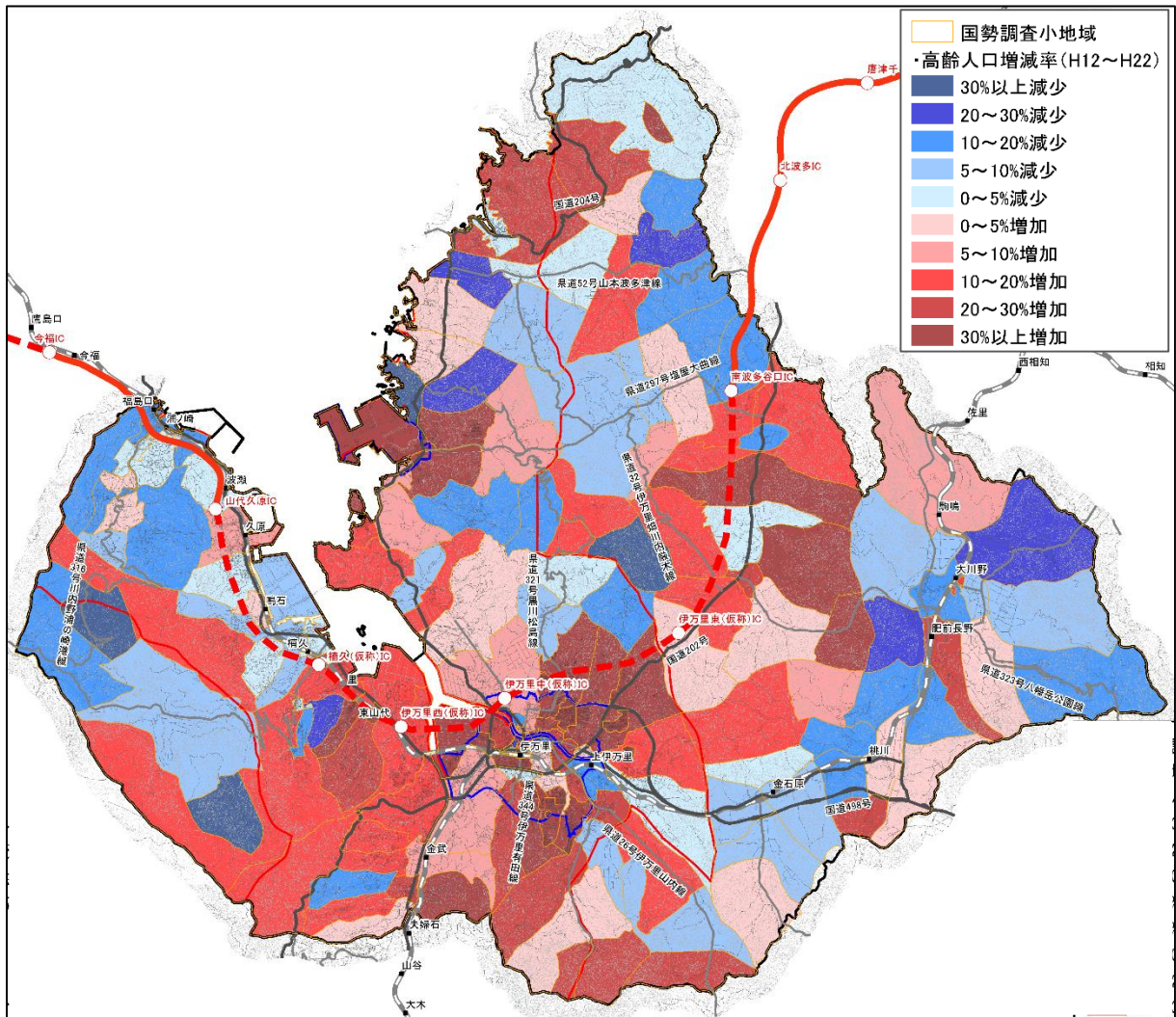


図 地区別高齢人口の推移（資料：平成12～22年国勢調査）

※平成29年3月において、平成27年国勢調査の小地域別集計結果(GIS)未公表

(4) 流出・流入人口

- 流入過多であり、周辺からの通勤・通学地となっている。
- 有田町、武雄市、唐津市との結びつきが強い。

平成 22 年国勢調査では、流出人口 5,877 人、流入人口 8,843 人と流入過多となっており、有田町、武雄市、唐津市との結びつきが強い状況です。

表: 流出・流入人口 (単位: 人, %)

	常住地による 就業・通 学者数	流出		流入		就業・通学 者比率 (従/常)	
		就業・ 通学者数	流出率	就業・通学 者数	流入率		
平成12年	33,100	4,997	15.1	35,106	7,003	19.9	106.1
平成17年	32,281	5,467	16.9	34,576	7,762	22.4	107.1
平成22年	30,705	5,877	19.1	34,064	8,843	26.0	110.9

表: 流出状況

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数
平成12年	有田町	823	唐津市	724	武雄市	549	西有田町	523	佐世保市	376
平成17年	唐津市	1,077	有田町	812	武雄市	619	西有田町	535	佐世保市	478
平成22年	有田町	1,275	唐津市	1,134	武雄市	910	佐世保市	484	松浦市	413

表: 流入状況

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
平成12年	西有田町	1,079	武雄市	780	有田町	667	唐津市	583	山内町	546
平成17年	唐津市	1,308	西有田町	1,158	武雄市	823	有田町	733	佐世保市	632
平成22年	有田町	1,878	武雄市	1,723	唐津市	1,573	松浦市	1,099	佐世保市	810

出典: 国勢調査

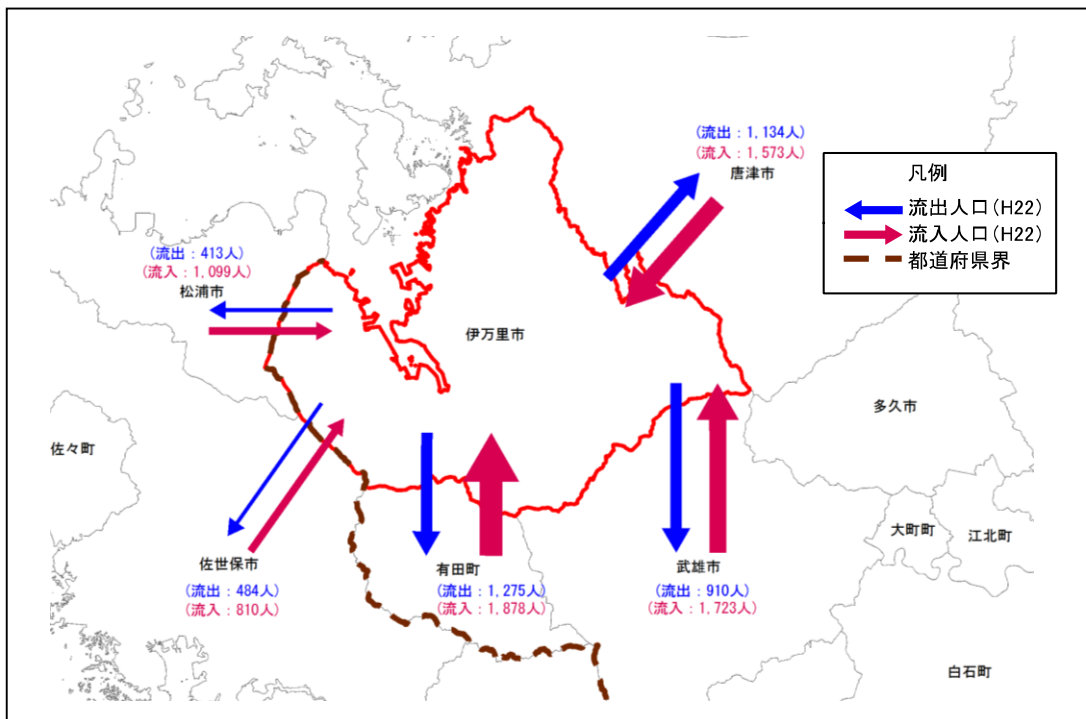


図 流出・流入人口(平成 22 年)

資料: 国勢調査

※従業地・通学地による人口・就業状態等集計の平成 27 年国勢調査データは、平成 29 年 6 月公表予定

## (5) 高校生アンケート調査結果

- 市内高校生の「市外への就職予定者」及び「進学予定者」の将来のUターン就職意向は、それぞれ1割、2割程度にとどまっている。

平成 27 年 3 月に伊万里・有田地区の高校 3 年生を対象に実施した「高校新卒者（平成 26 年度）の進路に関するアンケート調査」のうち、本市在住者の結果によると、就職予定者の 4 割以上が本市への就職を希望しており、実際に市内へ就職しています。

一方、一度県外へ就職した場合（県外への就職予定者）に、その後本市へ戻って就職したいと思うか尋ねたところ、「思う」と答えた割合は、わずか 1 割程度となっています。

また、進学希望者については、大学等を卒業した後に本市で就職したいと思うか尋ねたところ、「思う」と答えた割合は 2 割程度にとどまっています。

このように、就職や進学で一旦本市から転出した場合に本市へ戻ってくる意識は低いという結果が出ています。

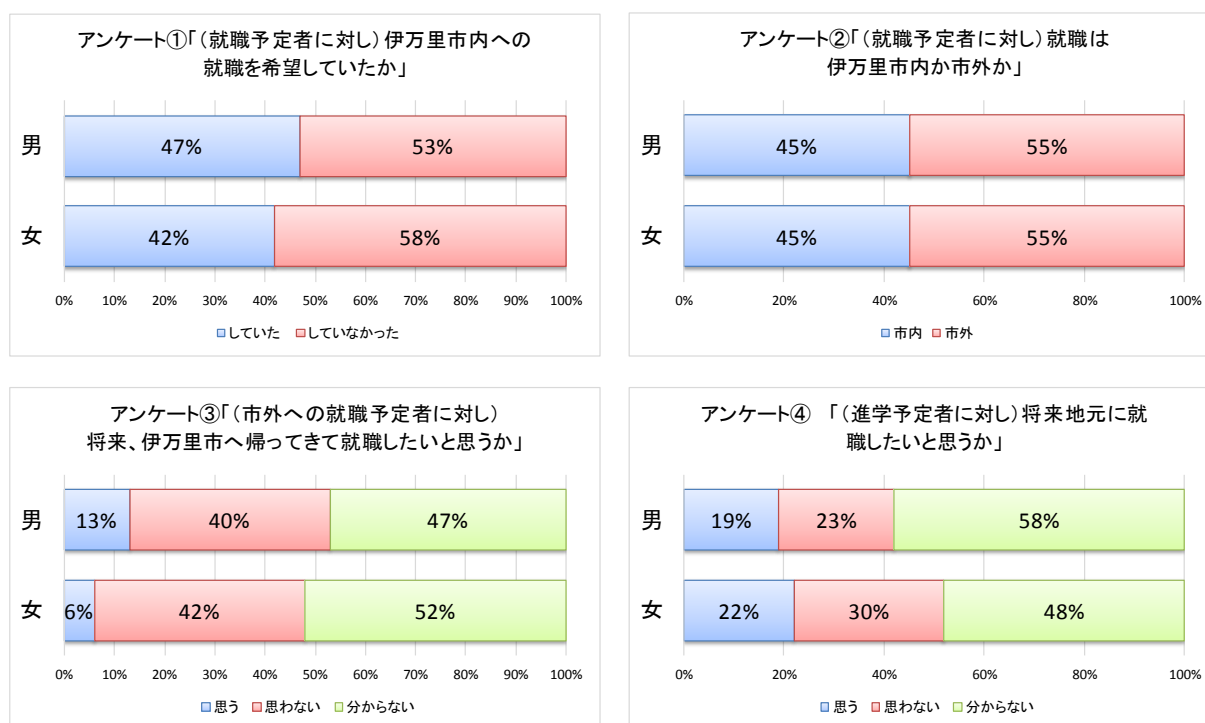


図 高校新卒者(平成 26 年度)の進路に関するアンケート調査結果

資料: 高校新卒者(平成 26 年度)の進路に関するアンケート調査(H27.3 伊万里市企業誘致・商工振興課)

## 2. 産業動向

## (1) 産業別就業人口の推移

- 就業者数は27,920人（H27国勢調査）、平成12年より減少傾向
- 第2次産業の割合が県と比較して高い傾向にある

本市の産業構造をみると、平成27年の就業者数は27,920人であり、産業別就業人口では第1次産業が2,582人、第2次産業が8,891人、第3次産業が16,304人となっています。

経年変化をみると、第3次産業は増加傾向にあり、第1次、2次産業が減少傾向となっています。

また、佐賀県と比較すると、第2次産業が8ポイント高い状況にあります。

表 産業別就業人口の推移

(単位:人)

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	佐賀県 平成27年
第1次産業	3,921	3,703	2,793	2,582	34,634
第2次産業	9,969	9,401	8,959	8,891	96,255
第3次産業	16,186	16,550	15,979	16,304	266,782
分類不能	15	47	671	143	12,566
総数	30,091	29,701	28,402	27,920	410,237

資料:国勢調査

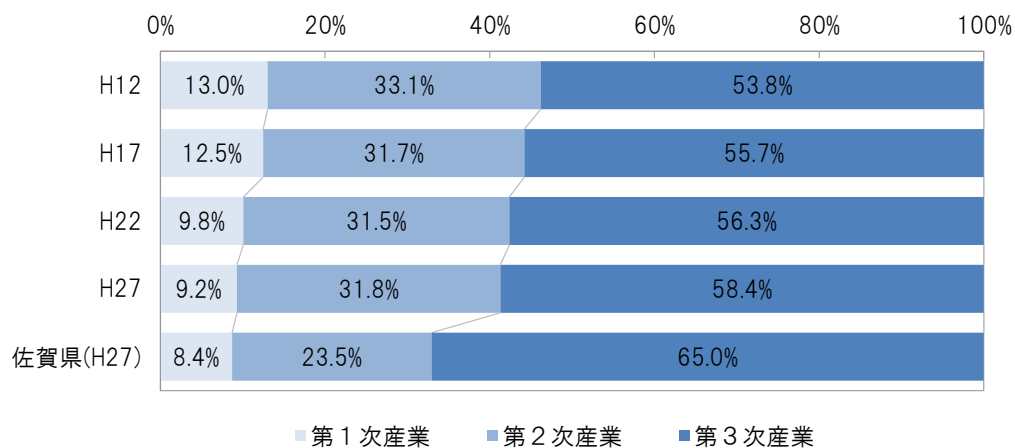


図 産業別就業人口の推移

資料:国勢調査

## (2) 産業大分類別人口

- 製造業、建設業、卸売・小売業、医療・福祉従事者が多く、特に製造業、医療・福祉は全国比較でも就業割合が高い

男女別産業大分類別人口をみると、市内就業者のうち男性は「製造業」が最も多く、「建設業」「卸売、小売業」と続いており、女性については「医療、福祉」が最も多く、「卸売、小売業」「製造業」と続いています。

本市において、ある産業に就業している構成割合を全国の同じ産業に就業している構成割合で除した特化係数※によれば、就業者数が多い男性の「製造業」、女性の「医療、福祉」は係数 1.0 を超え、全国と比較した場合に就業割合が大きいことがわかります。

また、就業者数は少数であるが、「漁業」も特化係数が 1.0 を大きく超え、全国と比較し就業割合が大きくなっています。

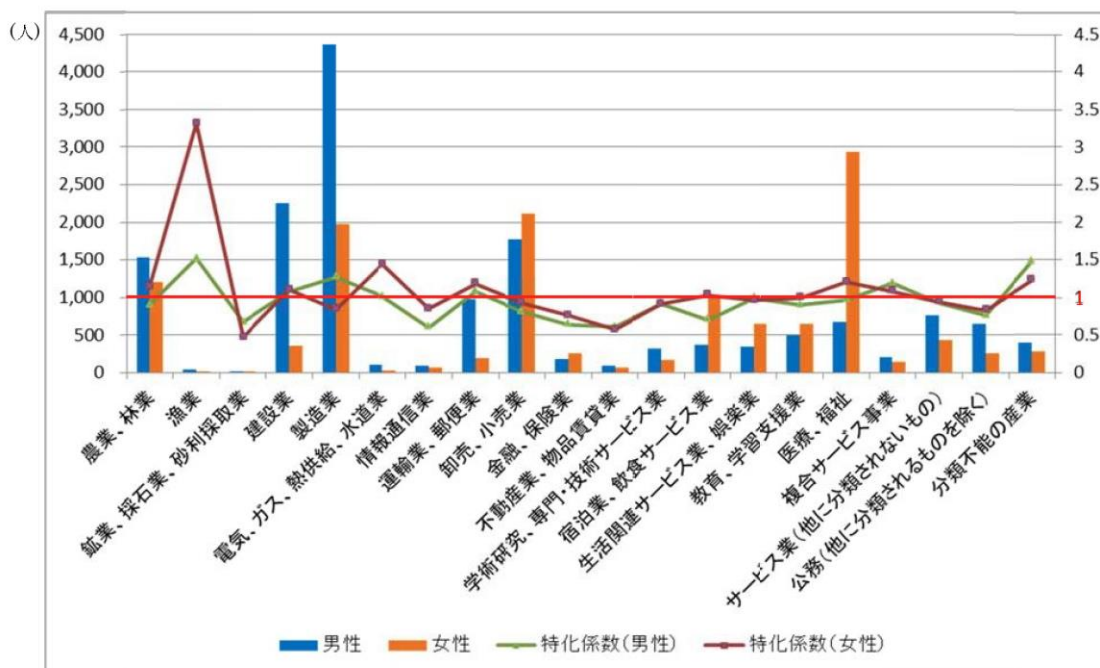


図 男女別産業大分類別人口

資料:伊万里市人口ビジョン

※ X産業の特化係数=当該地方公共団体のX産業の就業者比率/全国のX産業の就業者比率

## (3) 農業・工業・商業の状況

- 伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランドが確立している  
一方、農家戸数、農業従事者数は減少、耕作放棄地は増加
- 製造品出荷額は、平成19年をピークに減少傾向
- 商品販売額は、平成6年をピークに減少傾向

## ① 農業

伊万里牛、伊万里梨については、伊万里ブランドとして全国的に高い評価を受けています。平成27年時点で、農家数2,628戸、農業従事者人口2,940人、耕作放棄地面積663haとなっており、全国的に農家戸数が減少する中、農業従事者の高齢化と後継者不足が進むとともに、耕作放棄地も増加している状況にあります。

表 農家数、農業就業人口、耕作放棄地面積の推移

年次	H22	H27
農家数(戸)	2,933	2,628
農業就業人口(人)	3,751	2,940
耕作放棄地面積(ha)	578	663

資料：農業センサス

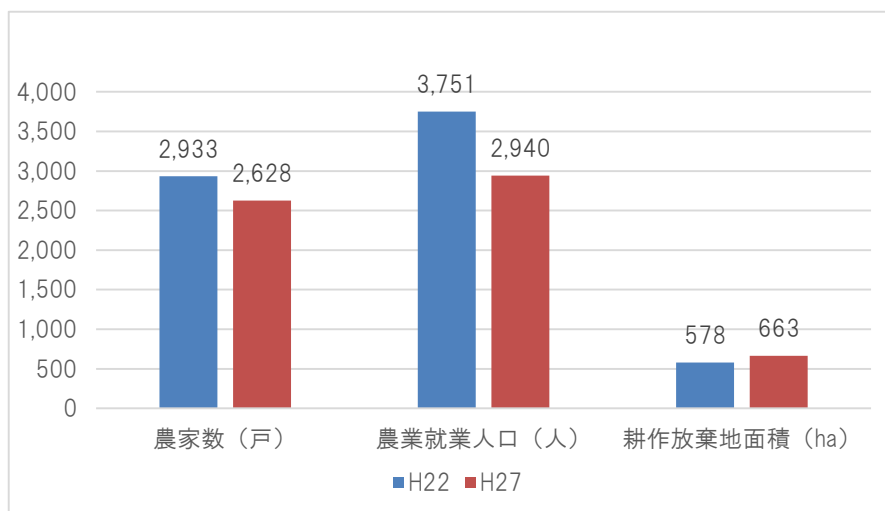


図 農家数、農業就業人口、耕作放棄地面積の推移

資料：農業センサス



## ② 工業

平成 25 年時点で事業所数 139 所、従業者数 7,033 人、製造品出荷額約 2,587 億円となっており、製造品出荷額は平成 19 年以降減少傾向となっています。

表 事業所数、従業者数、製造費出荷額等の推移

年次	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
平成10年	289	6,939	16,461,946
平成11年	282	6,718	15,894,398
平成12年	268	6,318	16,440,879
平成13年*	169	6,322	16,695,056
平成14年*	160	6,040	17,240,507
平成15年	252	6,237	19,073,902
平成16年*	151	6,337	21,369,053
平成17年	238	6,455	24,560,811
平成18年*	145	7,287	29,798,136
平成19年*	144	8,019	40,401,772
平成20年	220	8,294	37,922,789
平成21年*	135	7,833	27,355,428
平成22年*	130	7,379	34,487,853
平成23年*	148	6,278	21,538,337
平成24年*	141	7,245	29,168,161
平成25年*	139	7,033	25,874,028

資料：統計伊万里

※従業者 4 人以上の事業所が調査対象

(注) 平成 20、21、22、24、25 年は工業統計調査。平成 23 年以降は経済センサス-活動調査

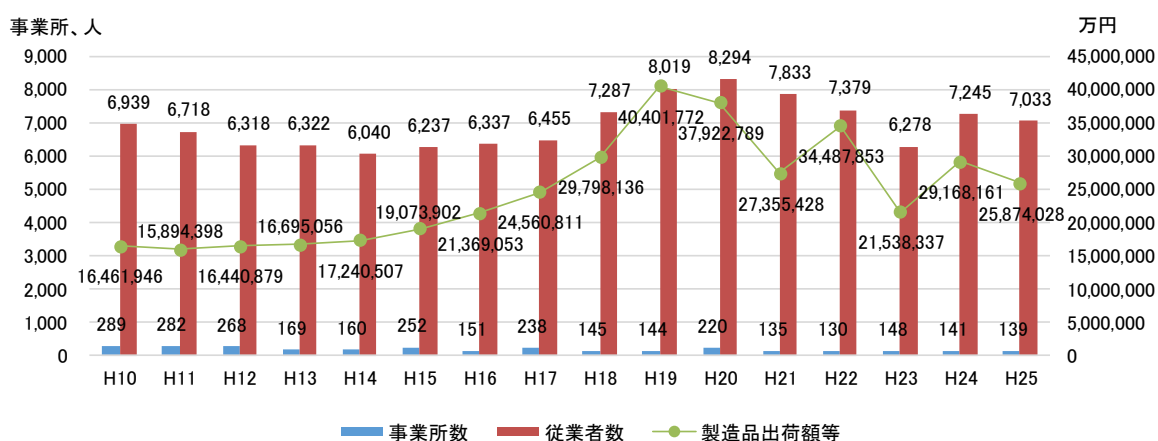


図 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

資料：工業統計調査、経済センサス

③ 商業

平成 26 年時点で商店数 566 店、従業員数 3,391 人、年間商品販売額約 880 億円となっており、年間商品販売額は平成 6 年以降減少傾向にありましたが近年増加に転じています。

表 商店数、従業員数、年間商品販売額の推移

年次	商店数	従業員数 (人)	年間商品販売額 (万円)
昭和 63 年	1,181	5,109	9,725,210
平成 3 年	1,145	5,179	11,307,717
平成 6 年	1,098	5,280	14,865,308
平成 9 年	1,086	5,031	13,983,657
平成 14 年	920	4,516	10,639,875
平成 16 年	848	4,585	10,397,888
平成 19 年	812	4,316	10,493,533
平成 24 年	572	3,371	7,871,400
平成 26 年	566	3,391	8,795,800

資料：統計伊万里、商業統計調査、経済センサス-活動調査

(注 1) 昭和 63 年、平成 3～19 年、26 年は商業統計調査、平成 24 年以降は経済センサス - 活動調査

(注 2) 平成 16 年は簡易調査

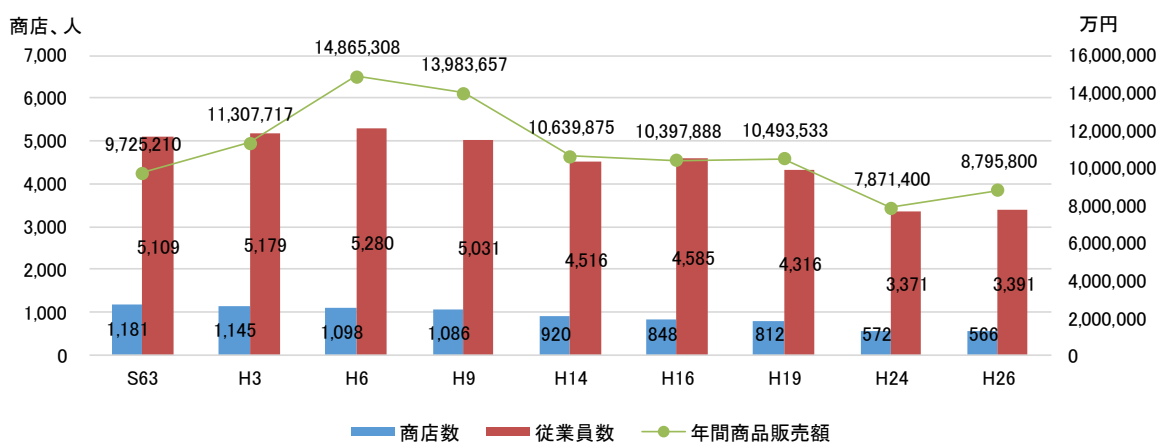


図 商店数・従業員数・年間商品販売額の推移

資料：商業統計調査、経済センサス

**(4) 伊万里港の輸出入の状況**

- 中国、韓国を中心に5航路開設
- コンテナ取扱貨物量は、九州内港湾で第5位（平成27年）、近年増加傾向
- セツ島工業団地以外には、残地がない

伊万里港は、国際海上コンテナ機能で日本海側拠点港に指定されており、外資定期コンテナ航路は中国、韓国を中心に5航路開設されています。特に、アジアのハブ港として大きく発展する釜山港とは、近年週1便から2便へ増便されています。

コンテナ取扱貨物量は、平成27年速報値では、九州内の港湾で第5位となっており、近年増加傾向にあります。

本市には産業集積地である工業団地等が11団地存在するものの、残地を有するのはセツ島工業団地の1.3haのみとなっている。

**① 外資定期コンテナ航路**

航路名	便数	備考
華南・韓国航路	週1便	輸入：香港及び華南地区より1週間で貨物到着 輸出：中国、東南アジアはもとより世界各国との輸出入が可能
大連・青島航路	週1便	中国東北三省の玄関口・大連及び青島を2日間で結ぶ
上海航路	週1便	中国の商都上海をわずか30時間で結ぶ
釜山航路	週2便	アジアのハブ港として大きく発展する釜山港と半日で結ぶ
国際フィーダー航路	週1便	神戸港を経由して、世界中との輸送が可能

資料：佐賀県伊万里港振興会

## ② コンテナ取扱貨物量

表 港湾別コンテナ取扱貨物量(上位10港)

所在地	港湾別のコンテナ取扱貨物量(2015年速報値)						港湾別のコンテナ取扱貨物量(2014年確定値)					
	2015 ランキ ング	コンテナ 取扱貨物量 (個)	外貨コンテナ		国内コン テナ (個)		2014 ランキ ング	コンテナ 取扱貨物量 (個)	外貨コンテナ		国内コン テナ (個)	
			出(個)	入(個)	出(個)	入(個)			出(個)	入(個)		
福岡県博多	1	925,593	822,192	404,276	417,916	103,401	1	975,244	861,134	423,792	437,343	114,109
福岡県北九州	2	498,798	433,076	221,769	211,307	65,722	2	484,948	425,907	216,483	209,424	59,041
鹿児島県鹿児島	3	116,657	1,677	678	999	114,980	3	99,008	0	0	0	99,008
鹿児島県志布志	4	81,881	63,856	29,432	34,424	18,025	4	92,040	70,910	31,579	39,331	21,130
<b>佐賀県伊万里</b>	<b>5</b>	<b>50,218</b>	<b>50,099</b>	<b>25,284</b>	<b>24,815</b>	<b>119</b>	<b>5</b>	<b>53,790</b>	<b>51,713</b>	<b>24,845</b>	<b>26,868</b>	<b>2,077</b>
大分県大分	6	47,035	27,736	15,771	11,965	19,299	6	40,242	29,330	16,491	12,839	10,912
宮崎県細島	7	34,538	25,101	14,216	10,885	9,437	7	33,075	24,759	13,787	10,972	8,316
熊本県八代	8	18,151	17,723	8,944	8,779	428	9	18,046	18,046	9,046	9,000	0
鹿児島県川内	9	17,802	14,874	8,666	6,208	2,928	8	20,529	17,088	9,838	7,250	3,441
長崎県福江	10	17,586	0	0	0	17,586	12	13,155	0	0	0	13,155

資料:国土交通省

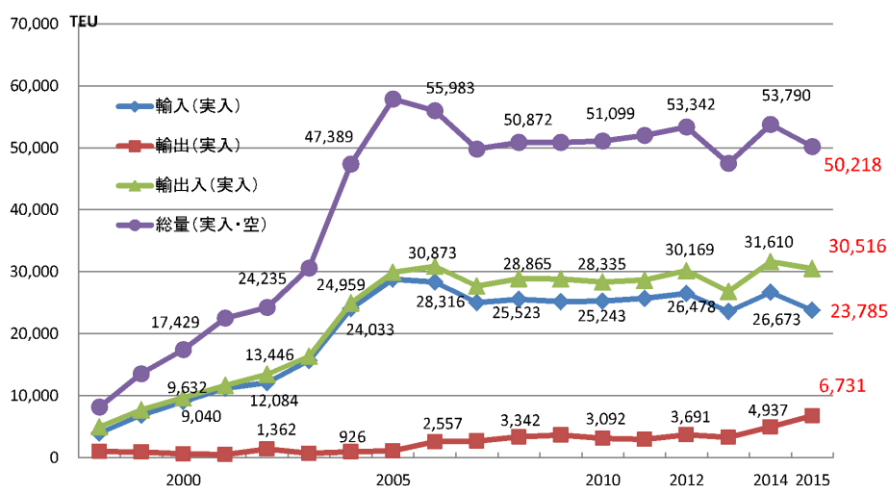


図 2015年伊万里港コンテナ貨物取扱量推移

## ③ 市内工業用地の状況

表 工業用地(平成27年12月31日現在)

団地名	完成年次	造成計画面積 m <sup>2</sup>	うち造成済面積 m <sup>2</sup>	工業用地面積 m <sup>2</sup>	分譲済面積 m <sup>2</sup>	残地面積 m <sup>2</sup>
七ツ島工業団地	昭和50年	1,882,000	1,482,000	1,281,000	1,268,000	13,000
長浜A団地	41年	82,621	82,621	82,621	82,621	-
長浜B団地	50年	18,680	18,680	18,680	18,680	-
長浜C団地	58年	206,814	206,814	199,926	199,926	-
伊万里窯業団地	40年	90,030	90,030	90,030	90,030	-
里工業団地	40年	76,885	76,885	76,885	76,885	-
久原工業団地	48年	320,520	320,520	299,000	299,000	-
南波多工業団地	60年	21,253	21,253	19,223	19,223	-
黒川工業団地	61年	30,542	30,542	30,542	30,542	-
大川工業団地	平成3年	72,776	72,776	72,776	72,776	-
伊万里団地	平成10年	1,133,000	1,133,000	947,000	947,000	-

資料:伊万里市企業誘致・商工振興課

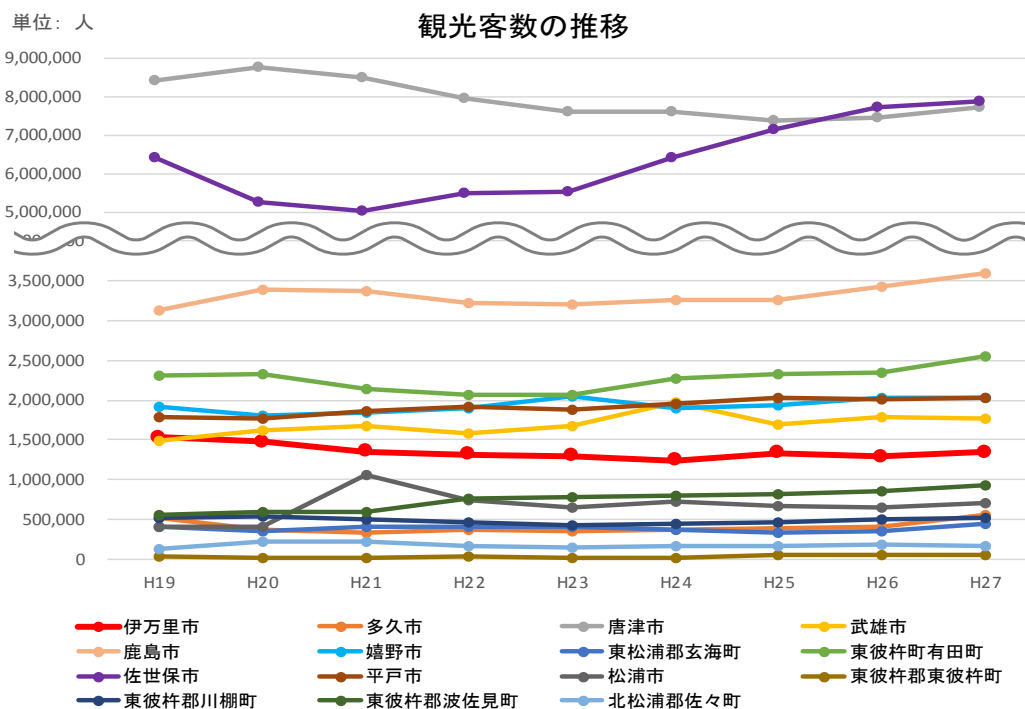
(5) 観光動向

- 観光客数は、年間 134.0 万人（H27）、近年微減傾向にあったが平成 25 年で増加に転換
- 市内観光要所における外国人観光客数は、約 2.9 万人（H27）と急増
- 平成 28 年度に、周辺の 6 市 2 町の構成で日本遺産「日本磁器のふるさと肥前」に認定

① 観光客数の推移

平成 27 年における本市の観光客数は、年間 134.0 万人となっており、近年は微減傾向にありましたが、平成 25 年で増加に転換しています。周辺の唐津市、佐世保市の観光客数は 700 万人を超えており、特に近年は佐世保市の観光客数の増加が著しい状況です。

また、近年は外国人観光客数が増加傾向にあり、平成 27 年には大川内山をはじめとする市内観光要所に約 2.9 万人が訪れています。



資料：統計年鑑、佐賀県観光客動態調査  
図 観光客数の推移

表 インバウンド客数の推移

(単位：人、%)

市内観光要所名	平成24年			平成25年			平成26年			平成27年		
	統計値	前年比		統計値	前年比		統計値	前年比		統計値	前年比	
		増減数	増減率		増減数	増減率		増減数	増減率		増減数	増減率
大川内山	1,400	910	185.7	2,415	1,015	72.5	6,265	3,850	159.4	16,555	10,290	164.2
観光協会	402	39	10.7	586	184	45.8	992	406	69.3	1,635	643	64.8
3主要ホテル	4,076	3,273	407.6	2,459	△ 1,617	△ 39.7	2,741	282	11.5	10,666	7,925	289.1
合計	5,878	4,222	255.0	5,460	△ 418	△ 7.1	9,998	4,538	83.1	28,856	18,858	188.6

資料：伊万里市観光課

## ② 観光資源

本市の観光資源の代表例としては、伊万里焼、鍋島焼の窯元が集積する「秘窯の里 大川内山」が挙げられますが、その他にも、伊万里湾岸には国の天然記念物であるカブトガニ繁殖地やイマリンビーチ、いまり夢みさき公園、南波多地区には「フルーツの里 伊万里」を代表する伊万里梨やぶどうなどのフルーツ狩りができる観光農園など、海、山の豊かな自然環境の中に多くの観光資源を有しています。

平成 28 年度には、本市の他、唐津市、武雄市、嬉野市、有田町、長崎県佐世保市、平戸市、波佐見町の6市2町の圏域で日本遺産「日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～」に認定されています。

表 本市内の観光資源（その1）

秘窯の里 大川内山 「佐賀県遺産」認定	大川内山は、江戸時代佐賀藩（鍋島家）の御用窯がおかれ、將軍家へ献上することを目的とした特別あつらえの焼き物「鍋島」が焼かれたところです。この献上品は、高い美的価値から世界の至宝と呼ばれています。現在の窯元は、藩窯で培われた高度な技法を受け継ぎながら新たな技術を取り入れるなど、300 有余年の歴史を誇る伊万里焼の中心となっています。 また、鍋島藩窯公園は、大川内山の歴史文化遺産の保護顕彰と、憩う施設を有機的に配置した焼物の里ならではの公園です。 大川内山には、鍋島藩窯として栄えた歴史と、土と炎の芸術「伊万里焼」の全てが息づいています。
玄海国定公園 竹の古場	春は、約一万本のツツジが園内を埋め尽くします。園内からは伊万里湾をはじめ、いろは島や玄界灘に浮かぶ壱岐・対馬を望むことができます。
イマリンビーチ	海洋性レクリエーション基地として、人工海浜のほか、緑地や遊歩道などが配置された風光明媚な海水浴場で、環境庁の「日本の海水浴場88選」に認定されています。
明星桜 佐賀県指定天然記念物	夜間、同樹の下で火を焚いて眺めると、花びらが火に映え、明星の趣があるところから、明星桜と名付けられたといわれています。
前田家住宅 「佐賀県遺産」認定 「国登録文化財」登録	前田家は江戸時代、代々大庄屋を務め、その住宅敷地面積は約3,100 m <sup>2</sup> あり、江戸時代後期に建てられた茅葺の主屋は、民家建築として佐賀県最大規模です。敷地内には東の蔵、西の蔵など多くの建物があり、建築学上でも高く評価されており国の有形文化財に登録され、佐賀県遺産にも認定されています。
いまり夢みさき公園	海や山などの自然にめぐまれた地域の特性を生かし、大型複合遊具や草スキー場など、無料で大人から子供まで一日中安心して過ごせる公園です。
伊万里湾 カブトガニ繁殖地	カブトガニは「生きた化石」と呼ばれ、絶滅危惧種に選定されています。多々良海岸周辺は日本有数の繁殖地であり国の天然記念物に指定されています。毎年7月末から8月上旬の大潮前後の満潮時に産卵を観ることができます。指定地そばのカブトガニの館では、成体観察や映像解説など、この貴重な生物を知ることができます。
伊万里津大橋	伊万里津の歴史を物語る古伊万里の飾り大壺
幸を呼ぶ3つの縁起橋	伊万里川に架かる「相生橋」「延命橋」「幸橋」は、「幸を呼ぶ3つの縁起橋」と呼ばれています。

資料：伊万里市観光協会 HP、旅伊万里（伊万里市観光パンフレット）

表 本市内の観光資源（その2）

伊万里・有田焼伝 統産業会館	「伊万里焼」「有田焼」が国の伝統的工芸品に指定されたことを契機に、昭和55年にオープンしました。伊万里・有田地区の窯元の作品を展示した総合展示室があり、研修室では、団体での絵付け体験もできます。
陶器商家資料館 「佐賀県遺産」認定 海のシルクロード館	白壁土蔵づくりの建物を修理復元した資料館です。江戸時代に活躍した陶器商人の暮らしを感じることができます。 古伊万里の歴史や文化を体験できる施設として平成14年5月にオープンしました。2階には、市民所蔵の古伊万里を展示した古伊万里ギャラリー、1階には「ろくろ」「絵付け」の体験工房と肥前一带の焼物販売コーナーがあり、お土産の購入に最適です。
伊万里・鍋島 ギャラリー	市所蔵の鍋島焼や古伊万里を展示する美術館で、全国でも珍しい焼き物専門のステーションミュージアムです。
伊万里市 歴史民俗資料館	伊万里市の歴史や文化に関する資料を展示しています。原始・古代の石器や土器、中近世の陶磁器、カブトガニの標本などを展示しています。
松浦一酒造 (河童のミイラ)	松浦地方で一番になりたいと銘柄へ願いを込めた「松浦一酒造」の創業は正徳6年(1716年)。建物の改築中に見つかった河童のミイラが評判になり、多くの観光客が訪れています。

資料:伊万里市観光協会 HP、旅伊万里(伊万里市観光パンフレット)



- |  |   |
|--|---|
| <p>10: 大川内鍋島窯跡<br/>11: 大川内山<br/>12: 旧犬塚家住宅 伊万里津<br/>a: 旧犬塚家住宅<br/>b: 伊万里津<br/>13: 旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢(現伊万里神社)<br/>14: 嬉野の磁器窯跡群<br/>a: (吉田)<br/>b: (志田)<br/>c: (不動山)<br/>15: 志田焼の里博物館(旧志田陶磁器株式会社工場)<br/>27: 肥前陶器窯跡(御茶盃窯跡)<br/>28: 茅ノ谷1号窯跡<br/>31: 中野窯跡</p> | <p>32: 肥前磁器窯跡<br/>a: (百間窯跡)<br/>b: (不動山窯跡)<br/>33: 無縁塔祭<br/>34: 窯業道具の供養(筆供養)<br/>35: やきもの市<br/>a: (春の窯元市)<br/>(鍋島藩窯秋祭り)<br/>b: (肥前吉田焼陶器まつり)<br/>(吉田焼辰祭り窯元市)<br/>c: (唐津やきもんまつり)<br/>(唐津焼秋の窯元ツーリズム)<br/>d: (武雄の紅葉と窯跡巡り)</p> |
|--|---|

図 日本遺産「日本磁器のふるさと 肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」構成文化財の位置

資料:文化庁日本遺産ホームページ

### 3. 土地利用動向

#### (1) DID(人口集中地区)変遷図

- DID 区域面積は、S35 から H22 で約 4 倍に拡大している一方、人口密度は、約 145 人/ha から約 44 人/ha へと低下している。
- 用途地域縁辺部においてまとまった宅地開発が実施されている。

本市の人口集中地区は、平成 22 年で人口 12,897 人、面積 291ha、人口密度 44.3 人/ha となっています。昭和 35 年と比較すると、面積は 70ha から約 4 倍に拡大している一方、人口密度は 144.6 人/ha から約 3 割に減少しています。拡大箇所をみると、大坪町や立花町などの用途地域縁辺部においてまとまった宅地開発が実施されています。

表 本市の人口集中地区(DID)における人口、面積、人口密度の推移

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口(人)	10,120	8,612	9,428	8,665	11,677	12,326	11,940	11,922	11,705	11,639	12,897
面積(ha)	70	70	130	150	230	230	250	260	263	267	291
人口密度(人/ha)	144.6	123.0	72.5	57.8	50.8	53.6	47.8	45.9	44.5	43.6	44.3

資料:国勢調査

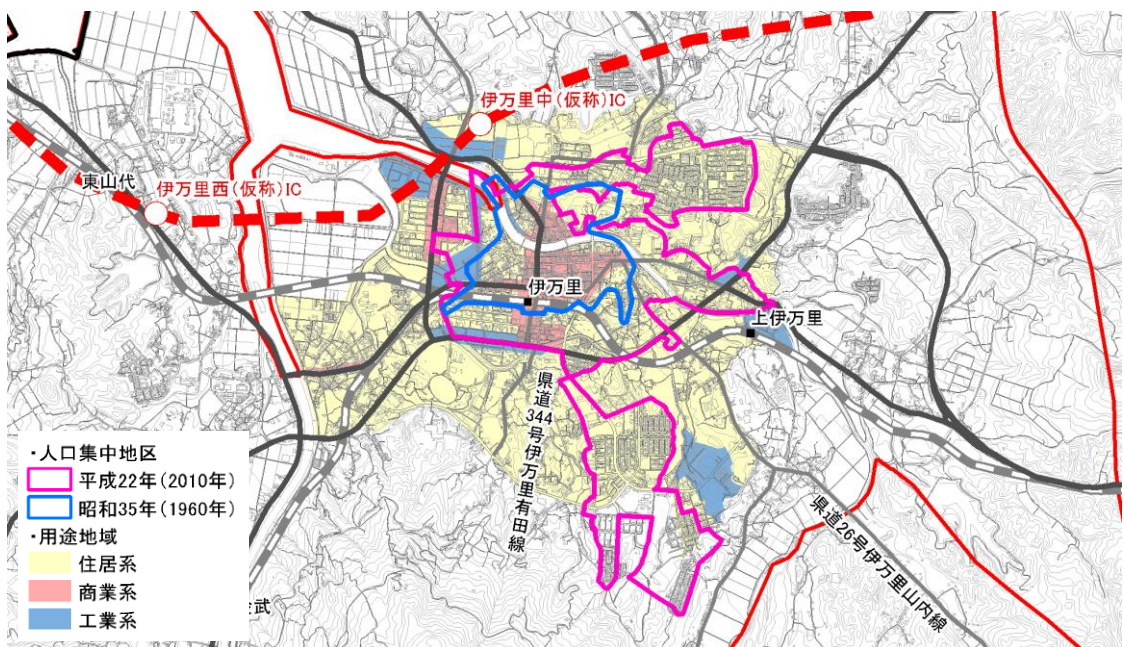


図 人口集中地区(DID)の推移(昭和35年、平成22年比較)

資料:国勢調査



(2) 空き店舗数の状況

- 平成 27 年現在、3 割強の空き店舗率
- 県内でも突出した空き店舗率

本市の空き店舗率は、平成 27 年で 31.7%となっており、県内でも突出して高くなっています。

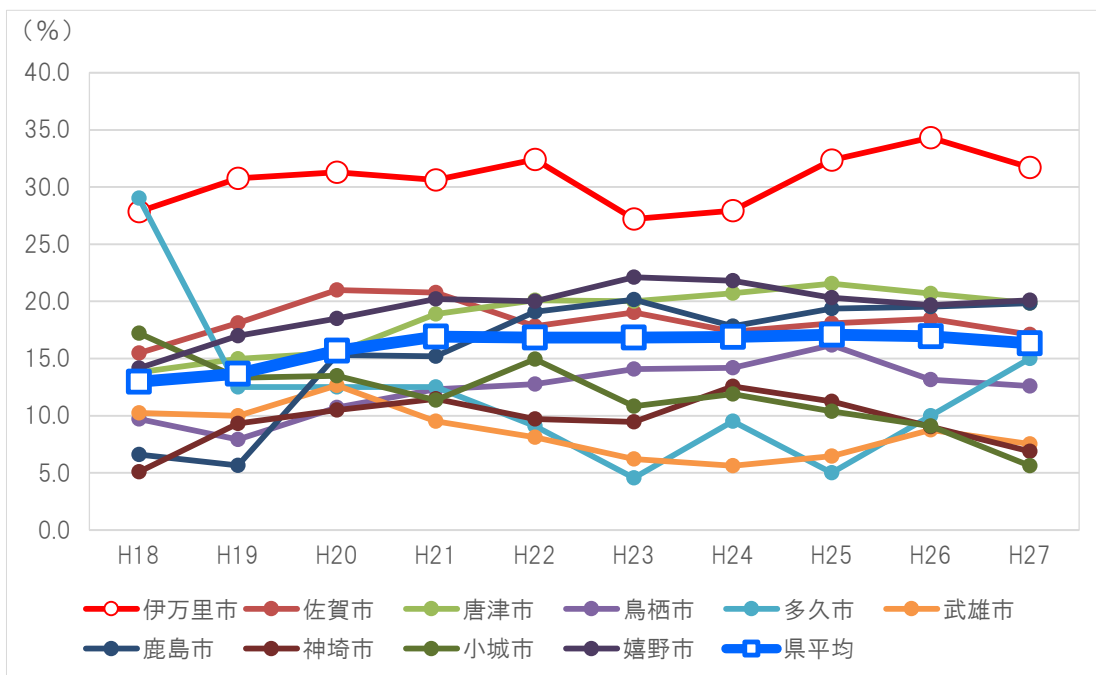


図 空き店舗率の推移

資料:市提供資料

表 県内の空き店舗率の推移

	(単位:%)										
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
伊万里市	27.9	30.8	31.3	30.6	32.4	27.2	27.9	32.4	34.3	31.7	
佐賀市	15.5	18.1	21.0	20.8	17.8	19.0	17.4	18.1	18.5	17.1	
唐津市	13.8	15.0	15.5	18.9	20.1	20.0	20.7	21.6	20.7	19.9	
鳥栖市	9.7	7.9	10.7	12.3	12.8	14.1	14.2	16.2	13.1	12.6	
多久市	29.0	12.5	12.5	12.5	9.1	4.6	9.5	5.0	10.0	15.0	
武雄市	10.2	10.0	12.6	9.5	8.1	6.2	5.6	6.5	8.8	7.5	
鹿島市	6.6	5.7	15.3	15.2	19.1	20.2	17.8	19.4	19.5	19.8	
神埼市	5.1	9.3	10.5	11.5	9.7	9.5	12.6	11.2	9.0	6.9	
小城市	17.2	13.3	13.5	11.4	14.9	10.8	11.9	10.4	9.1	5.6	
嬉野市	14.2	17.0	18.5	20.2	20.0	22.1	21.8	20.3	19.7	20.1	
県平均	13.0	13.7	15.7	16.9	16.8	16.8	16.9	17.1	16.9	16.3	

資料:市提供資料

## 4. 都市基盤整備状況

### (1) 道路網状況

- 国道 202 号、204 号、498 号が主要幹線道路として整備され、市道が網状に補完している。
- 西九州自動車道や国道 204 号バイパス、大坪・木須線の早期整備が求められている。

本市の道路網は、幹線道路として市域を南北に縦貫する一般国道 202 号や国道 204 号、国道 498 号をはじめ、主要地方道や一般県道などが整備されるとともに、これらを市道が網状に補完しています。

伊万里港の国際物流拠点としての地位向上や、周辺への企業集積に伴う交通量の増大や定時性、高速性の確保などの要請に対応し、福岡都市圏はもとより九州一円との広域的な道路網を整備するとともに、災害時などの避難路を確保するため、高規格幹線道路である西九州自動車道をはじめ、国道 204 号バイパス、大坪・木須線など幹線道路の早期整備が求められています。

市道については、新たな道路整備や国、県道の管理移管などにより管理する道路が増加しており、平成 29 年 3 月末現在の市道延長は約 947km となっています。

(2) 都市計画道路整備状況

● 都市計画道路の整備率は約 62%（西九州自動車道を除くと約 79%）

本市には、都市計画道路が 22 路線指定されており、うち 11 路線が整備済み（整備率約 62%）となっています。



図 都市計画道路の整備状況

資料：伊万里市都市政策課

(3) 公共交通状況

- 75歳以上人口のうち、約2割弱の方が交通空白地域に居住している。

市内の公共交通網は、松浦鉄道株式会社（MR）が運行する鉄道路線（長崎県佐世保市～佐賀県伊万里市～佐賀県西松浦郡有田町）及び九州旅客鉄道株式会社（JR九州）が運行する鉄道路線（唐津市～伊万里市）、西肥自動車株式会社、昭和自動車株式会社が運行する幹線のバス路線を軸として、幹線から離れた地域の交通を補完するコミュニティバスなどの枝線によって構築されています。

また、市の交通政策として、バス交通支援事業（路線バス等運行への補助）、コミュニティバス運行事業、鉄道交通支援事業（松浦鉄道の施設整備への補助等）、小学校遠距離児童通学支援事業（スクールバスの運行、通学定期券補助）、中学校遠距離児童通学支援事業（スクールバスの運行、通学定期券補助等）、障害者移動支援事業（福祉タクシーチケットの交付）に取り組み、市民の移動手段の確保に努めています。

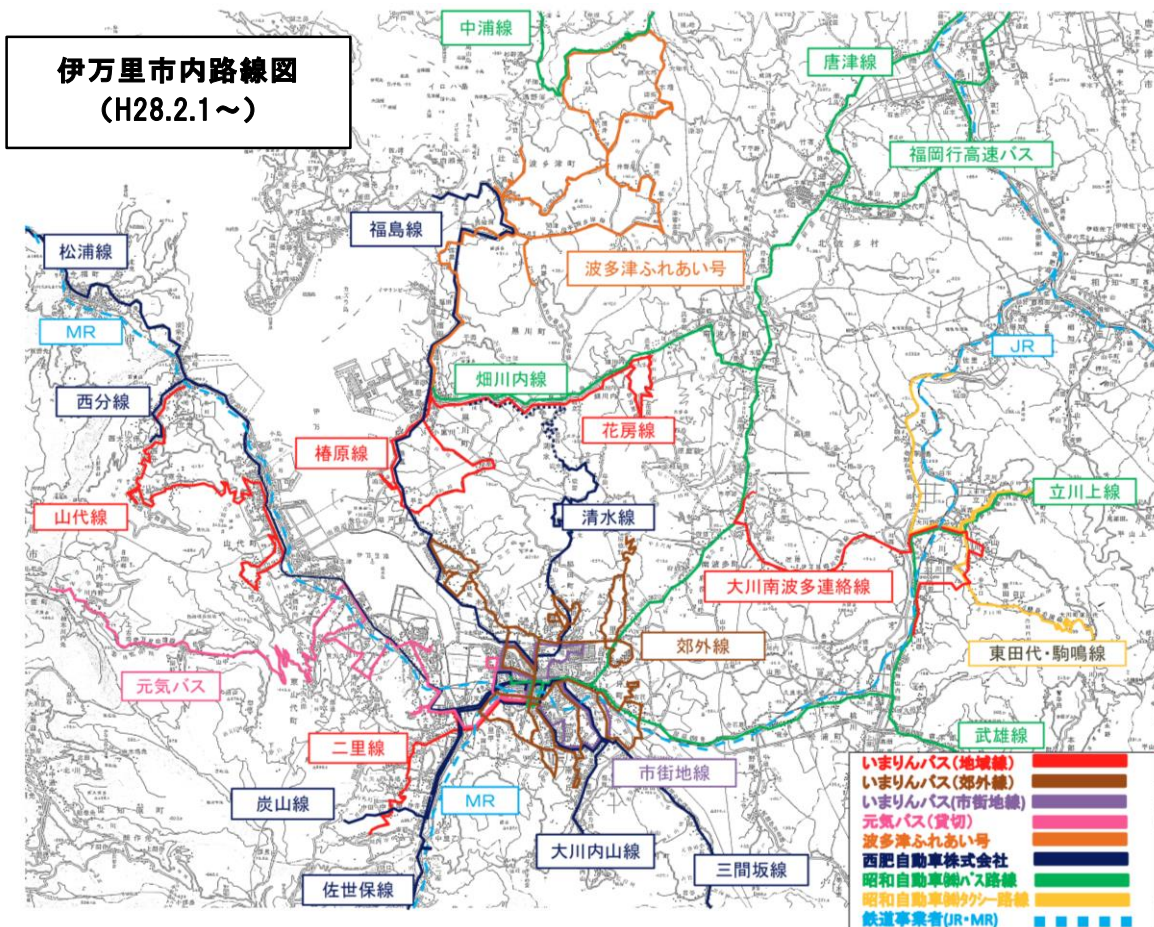


図 市内の公共交通網

資料：伊万里市地域公共交通網形成計画

① 公共交通利用状況（路線バス、JR、MR）

路線バス 16 路線のうち 12 路線において、年々利用者が減少しています。  
 松浦鉄道の乗降者数は年々減少しており、JR九州筑肥線ではここ3年ほ  
 ぼ横ばいとなっています。

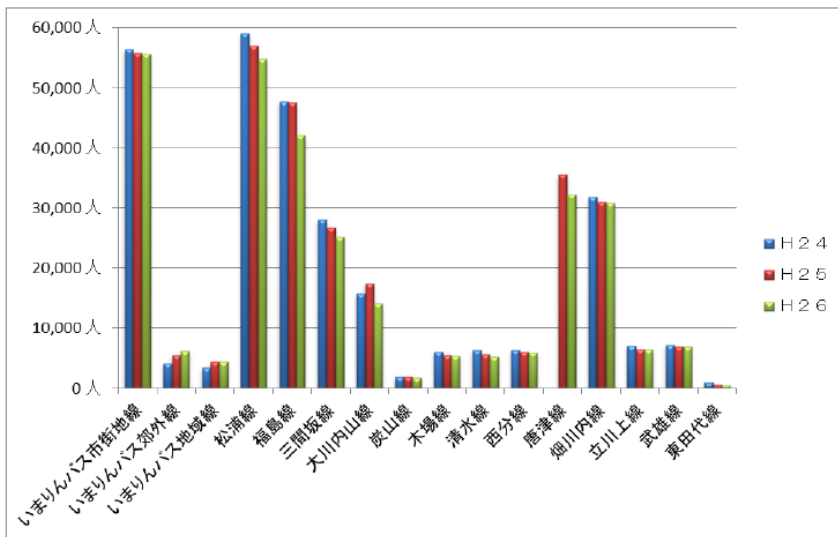


図 路線バス利用者数の推移

資料:伊万里市地域公共交通網形成計画

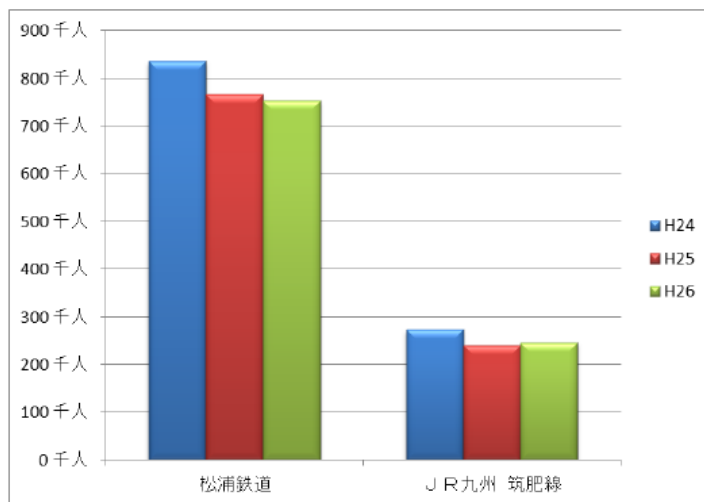


図 市内における鉄道乗降客数の推移

資料:伊万里市地域公共交通網形成計画

② 公共空白地域の現状

人口が集中している地域の大部分は、交通網が整備されていますが、集落が点在している山間部等は、交通空白地域が各地に存在している状況です。

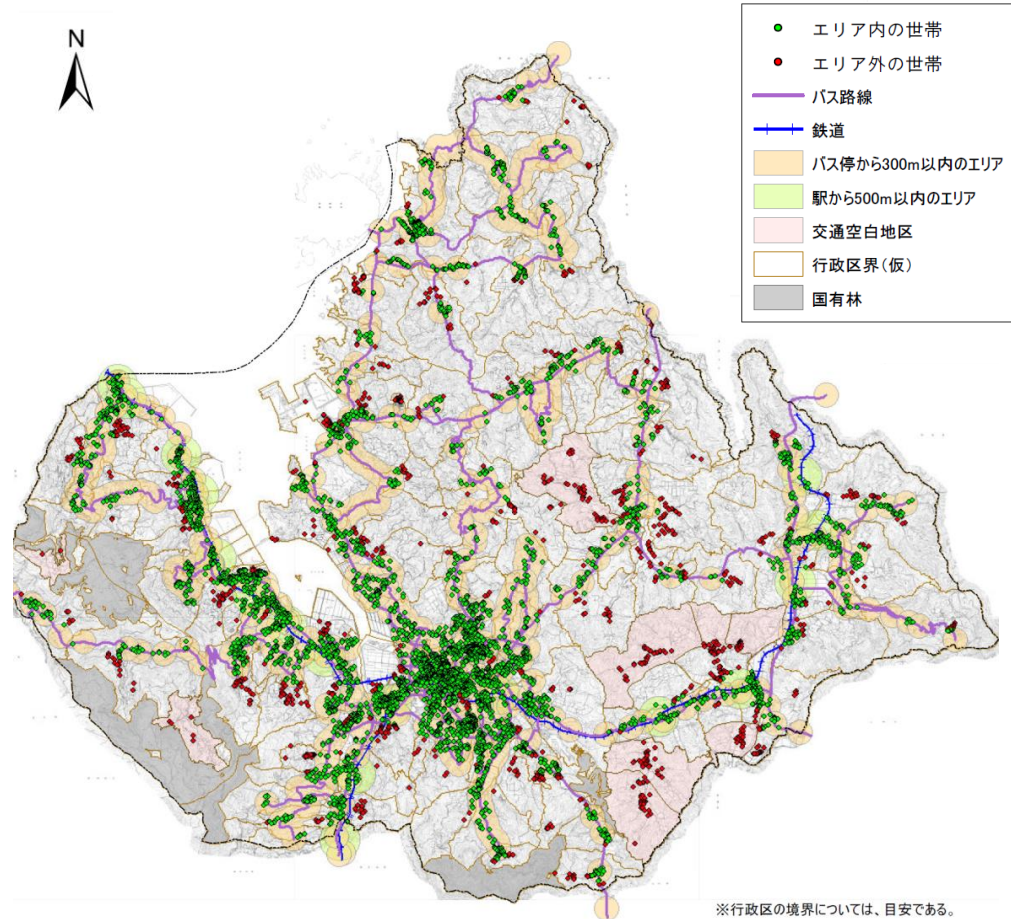


図 交通空白地域及び高齢者（75歳以上）の人口分布

資料：伊万里市地域公共交通網形成計画

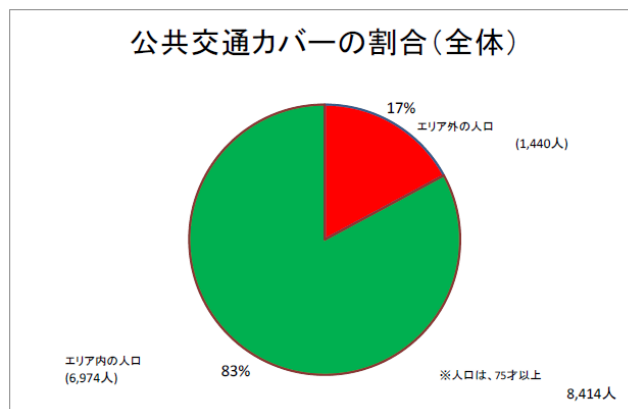


図 公共交通カバーの割合（75歳以上の高齢者のみ）

資料：伊万里市地域公共交通網形成計画

## 3-2 上位関連計画における位置づけ

上位計画における本市のまちづくりの方向性を整理します。

## 1. 第5次伊万里市総合計画後期基本計画

策定年月	平成26年6月
基本理念	市民との協働による安心と豊かさの創造
将来都市像	活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち伊万里
具体的な方針の抜粋	<p>■活気あふれる産業づくり</p> <p>【施策15 農業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消費者ニーズに対応した安全で高品質な農産物の提供や、新たな加工品開発による付加価値の向上と農業の6次産業化に取り組むとともに、積極的な情報発信による販路拡大に努め、農業経営の安定化を図ります。</li> <li>● 第2次伊万里市食のまちづくり・食育推進基本計画に基づき、食を基調とした活力あるまちづくりを推進します。</li> </ul> <p>【施策18 工業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的な企業誘致を推進するほか、既存企業の生産性の向上を図るため、道路網や港湾施設など産業基盤の充実に取り組むとともに、新たな設備投資などの事業展開に対する支援に努めます。</li> <li>● 伊万里焼については、伝統技術の継承を図るとともに、関係機関等と連携し、新商品開発や販路拡大の支援に努めます。</li> </ul> <p>【施策19 商業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中心市街地の活性化の拠点である伊万里まちなか一番館の運営や商店街におけるイベント等を支援し、活気ある商店街の形成を図ります。また、日常的な買い物客だけでなく観光客に対しても伊万里ならではの魅力をアピールし、魅力ある商店街づくりを促進します。</li> </ul> <p>【施策20 観光の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鍋島藩窯の歴史と伝統が息づく大川内山をはじめとする陶磁文化や、伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランドを観光資源として最大限に活用し、市内はもとより、福岡都市圏など市外でのイベント等を通じた魅力の発信に努め、交流人口の増加を図ります。</li> <li>● 西九州自動車道の市内区間の開通を見据え、観光地としてのさらなる魅力向上を図るため、観光客の受け入れ体制の充実に努めるとともに、周辺観光地と連携した広域観光を推進するほか、様々なメディアを活用した観光情報の積極的な発信により、主に福岡都市圏からの観光客の誘致に向けた観光施策を展開します。</li> </ul> <p>【施策21 貿易の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里港は、静穏な海域に恵まれるとともに地震の危険性が低く、また、経済発展が著しい東アジアに至近な距離にあることから、地理的優位性等を最大限に生かし、日本海側拠点港として必要な港湾機能の拡充を進めていくとともに、伊万里港の利用を国内外の企業に積極的に働きかけるなど集荷活動を推進し、貿易の拡大に努めます。</li> </ul>

<p>具体的な方針の抜粋</p>	<p>■安全で快適な地域づくり</p> <p>【施策22 道路・交通体系の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 産業や観光、交流の活性化はもとより、災害時の安全安心を確保するため、<u>西九州自動車道をはじめ、国道や県道など幹線道路の体系的な整備を促進</u>します。</li> <li>● 地域の生活道路や通学路である市道の計画的な整備や適切な維持管理に取り組むなど、<u>日常生活における安全で円滑な交通の確保</u>に努めます。</li> </ul> <p>【施策23 港湾機能の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 重点港湾と日本海側拠点港に選定されたことにより、今後も港湾整備の進展が期待されることから、伊万里港のさらなる機能強化を図るため、<u>国、県などの関係機関との連携により、港湾施設の整備を促進</u>するとともに、<u>浦ノ崎地区廃棄物処理用地</u>については、<u>産業用地としての活用が可能となるよう、早期の埋め立てを促進</u>します。</li> <li>● 伊万里港における移動の円滑性を確保する臨港道路はもとより、<u>長崎自動車道や西九州自動車へのアクセス向上のための道路整備</u>を図ります。</li> </ul> <p>【施策25 都市景観の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市街地の観光地としての魅力の向上を図るため、<u>伊万里津の歴史と文化を受け継ぐ古伊万里文化の香るまちづくりを推進</u>します。</li> <li>● 計画的なまちづくりを進めるため、用途地域の見直しを行うなど、<u>有効な土地利用と秩序ある開発を促進</u>します。</li> </ul>
------------------	---



まちづくりの目標「活気あふれる産業づくり」において、「付加価値の向上」、「新商品開発」、「魅力ある商店街づくり」、「伊万里ブランドを観光資源として最大限に活用」などの取り組みを、積極的に「情報発信」しながら「販路拡大」していくことが示されています。

その取り組みを支える方法として、まちづくりの目標「安全で快適な地域づくり」において、「西九州自動車道をはじめ、国道や県道など幹線道路の体系的な整備」や「港湾施設の整備促進」などの社会基盤整備を進めていくことが示されています。



## 2. 伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略

策定年月	平成 27 年 10 月
基本目標	<p><b>基本目標1</b>産業振興により「<u>活気あふれるまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内企業の育成とともに、本市の地域特性や潜在能力を生かした起業、創業の支援、企業誘致等に取り組むことにより、<u>雇用の場の拡大</u>を図ります。</li> <li>● 若い世代の市内就職を促進し、<u>市内定住</u>を図ります。</li> <li>● 市内企業等の生産性の向上に向け、関係機関が連携した支援を行います。</li> <li>● 若者や女性が働きやすい職場環境の創出をめざし、テレワークなどICTを活用した新しい働き方についても、民間事業者等と連携し普及を推進します。</li> <li>● 農林水産業については、後継者の確保や育成をはじめ、<u>6次産業化などによる所得の向上のための施策を推進</u>します。</li> </ul> <p><b>基本目標2</b>地域資源を生かし「<u>行きたいまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 古伊万里の積出港としてのかつての伊万里津の賑わいを現代に蘇らせるとともに、伊万里焼や伊万里牛などの<u>伊万里ブランドを生かした観光戦略の展開</u>により、インバウンド観光を含め本市の<u>交流人口の拡大</u>を図ります。</li> <li>● 大都市圏からの若い世代や中高年者世代の<u>移住を視野に入れた受け入れ体制の充実</u>を図るとともに、転出者を抑制する施策の展開により、本市から大都市圏や近隣市町に集中している人口流出の減少を目指します。</li> <li>● 市内企業への就職や本市への関心を持つ若者を増加させるため、大学等と連携し、本市の<u>情報を提供する機会の創出</u>を図ります。</li> </ul> <p><b>基本目標3</b>市民みんなで「<u>子育てしやすいまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 若い世代が安心して働くことができる職場環境をつくり出すことや多様な保育ニーズに対応する保育サービスの提供など、<u>子育て環境のさらなる充実</u>を図ることにより、子どもの出生数の増加を目指します。</li> <li>● 独身者の結婚活動の支援や母子保健の充実、地域における子育て支援の充実などの切れ目のない支援に取り組みます。</li> </ul> <p><b>基本目標4</b>時代に合った都市づくりで「<u>安心して住みたいまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各町（地区）のまちづくり協議会を核とした取組を支援し、<u>地域コミュニティの活性化</u>を図ります。</li> <li>● ふるさと伊万里にとどまり、また、転出後もふるさと伊万里に帰るきっかけとなるよう、<u>児童や生徒が郷土に愛着を持てる学習機会の提供</u>に努めます。</li> <li>● 原子力災害や自然災害などに対応できる避難体制を構築し、市民の安全・安心の確保に努めます。</li> <li>● 市民が健康に暮らすことができるよう、地域医療の充実を図ります。</li> <li>● <u>福岡都市圏や近郊都市との連携等により、産業や経済活動の活性化</u>を図ります。</li> </ul>

本市ならではの地方創生の実現のため、「活気あふれるまち」「行きたいまち」「子育てしやすいまち」「安心して住みたいまち」をつくるという4つの基本目標を柱として、地域産業の競争力強化、観光分野での交流人口の拡大、移住などの定住対策、地域連携による経済・生活圏の形成等の具体的施策を展開することが示されています。

## 第4章 各種団体ヒアリング

### 4-1 ヒアリングの目的、対象団体

#### 1. ヒアリングの目的

今後の本市におけるまちづくりの展開を考えると、行政だけでなく官民協働で取り組んでいく必要があることから、各団体において感じている課題や今後の西九州自動車道の開通を意識した取り組みなどを把握することを目的に、各種団体にヒアリング調査を実施しました。

#### 2. ヒアリング対象団体

今後の本市のまちづくりに関連の深い次の5団体にヒアリングを実施しました。

表 ヒアリング対象団体

No.	団体名	分野
1	JA伊万里	農業、畜産業
2	伊万里商工会議所	商業
3	NPO法人 まちづくり伊万里	中心市街地
4	伊万里陶磁器工業協同組合 伊万里鍋島焼協同組合	窯業
5	伊万里港振興会	港湾、流通・運送業等

## 4-2 ヒアリング結果

各種団体へのヒアリングにおいて出てきた意見について、問題点・課題と今後の展開・方向性に分類して以下に整理します。

団体名	問題点・課題	今後の展開・方向性
JA伊万里	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里牛、伊万里梨など、ブランド化した良品はあるが販売戦略に弱いので、行政と協働で取り組む必要があると考えている。</li> </ul>	<b>■市外への展開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国展開よりも福岡都市圏への集中展開へシフトする予定である。</li> <li>● 福岡都市圏では「伊万里」ブランドが浸透しているため、「伊万里牛+伊万里産野菜」など、「伊万里牛+α」という組み合わせの展開を検討中。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道の駅「ふるさと村」は、伊万里東IC供用開始後は客足減少が懸念される。</li> <li>● 伊万里にわざわざ来てもらう場をつくる必要があると考えている。</li> <li>● 伊万里のまちなかに、伊万里牛を食べたり伊万里焼を購入したりするまとまった場所がなく、今後必要と考えている。</li> </ul>	<b>■来訪者対策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里中IC(玄関口)での展開が重要と考えている。</li> <li>● 耕作放棄地を活用した都市部居住者の来訪戦略(体験農園など)も考えられるのではないかと。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里ブランド力の向上(研鑽)が必要と考えている。</li> </ul>	<b>■異業種連携(ALL伊万里の総合力勝負)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里牛や伊万里焼などが単独で勝負するのではなく、<u>コラボレーションして幅広く展開していくことが重要</u>(ALL伊万里でのブランド展開、伊万里にしかないもので総合的に勝負)と考えている。</li> </ul>
伊万里商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西九州自動車道延伸を控え、ICから伊万里港までのアクセス道路整備が必要と考えている。</li> <li>● 伊万里湾北部(浦ノ崎地区)の工業団地の早期整備が必要と考えている。</li> </ul>	<b>■ニーズに対応した的確な基盤整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 西九州自動車道の供用開始時期を見越したアクセス道路整備や受け皿となる工業団地整備等を関係機関へ働きかける必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西九州自動車道は無料であるため、伊万里港活用PRや企業誘致などの展開が重要と考えている。</li> </ul>	<b>■官民協働の取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市部での伊万里港セミナー、ポートセールス等を官民協働で実施していく予定。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福岡都市圏と一時間程度でつながるため、平戸方面への釣り客など新たな人の動きを有効に取り組んでいくことが必要と考えている。</li> </ul>	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6次産業化の展開として「なしプロジェクト」を異業種間連携で実施中(但し、窯業関係は不参加)である。</li> <li>● <u>物販だけでなく飲食も絡んだ取り組みが必要</u>と考えている。</li> </ul>	<b>■異業種連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業だけでなく窯業も含め、異業種間連携での展開が重要と考えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベント等のプレスリリースでは、取り上げてもらえなかった際の客足が芳しくないため、<u>情報発信手法の工夫</u>が必要と考えている。</li> </ul>	<b>■情報発信手法の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SNSなど、<u>的確な情報発信手法の計画的な展開</u>が今後重要になると考えている。</li> </ul>

団体名	問題点・課題	今後の展開・方向性
	<p style="text-align: center;">—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>外国人観光客の受け入れ体制が未整備</u>であることが問題である。</li> </ul>	<p>■<b>まちなか再生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IC 周辺だけでなく、まちなかの賑わい創出も合わせて進めていくことが重要と考えている。</li> </ul> <p>■<b>組織的な受け入れ体制整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「おかみさん会」など、受け入れ体制づくりを継続的に取り組んでいくことが重要と考えている。</li> </ul>
NPO法人 まちづくり伊万里	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里を離れても将来戻ってきもらえるような<u>取り組みが必要</u>(シビックプライド:個人個人が都市に抱く誇りや愛着のこと)と考えている。</li> <li>● まちなかの資源である伊万里川の活用が必要と考えている。</li> <li>● まちなかの不動産情報(空き家情報)が不足しているため、出店希望者ニーズがあっても対応できていない、チャンス逃している。</li> <li>● 行政と民間を結びつける場がない(行政へのまちづくり相談の際、縦割りのため複数個所に出向く必要がある。)</li> </ul>	<p>■<b>ふるさと伊万里に愛着・誇りを持ち、地域課題に当事者意識をもって取り組む人を育てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「子ども伊万里塾」の継続的な取り組みが重要である。</li> <li>● 20～30代の若者をターゲットに伊万里の歴史を学んでもらい、そこからSNS等で情報発信してもらうことが今後のまちなかでの取り組みに非常に重要と考えている。</li> </ul> <p>■<b>水辺などの地域資源の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里川でミズベリング(水辺の新しい活用の可能性を創造するプロジェクト)の展開を今後検討していきたい。</li> </ul> <p>■<b>空き家情報の官民協働管理・運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政が持つ情報と民間の持つ情報発信手法を融合した空き家・空き店舗情報のデータベース構築が急務と考えている。尾道市の取組が秀逸。</li> </ul> <p>■<b>官民協働の取り組み推進策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ワンストップの窓口</u>があると相談しやすく動きやすい。</li> </ul>
伊万里陶磁器工業 協同組合 伊万里鍋島焼協同組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>陶芸だけでは弱い</u>と考えているため、「桜の名勝づくり」と「食の場づくり」を検討中である。</li> <li>● <u>滞在できる場、長くいたいと思える場をつくっていくことが重要</u>である。</li> <li>● 「食」と「陶芸」など、異業種連携が重要である。</li> </ul>	<p>■<b>官民協働の取り組み推進策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>名勝づくり(景観づくり)</u>は、行政と協働で取り組むことが重要と考えている。</li> <li>● 伊万里東ICから大川内山までの<u>サインデザイン</u>を地元窯元と協働できればと考えている。</li> <li>● 既存のイベントだけでなく、新たなイベントや季節ごとのイベントを企画・実施しながら、年間を通して通える観光地に育てていくことが重要と考えている。</li> </ul> <p>■<b>異業種連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 陶芸・食のコラボ弁当を企画中。</li> </ul> <p>■<b>官民協働の取り組み推進策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>官民協働によるポートセールスの戦略的展開</u>が今後重要であると考えている。(県内立地企業への伊万里港利用促進を県と一緒に取り組んでいきたい。)</li> </ul>
伊万里港振興会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 博多港に集中しすぎているコンテナ取扱貨物量を伊万里港の利便性をPRして利用促進を図る必要がある。</li> <li>● 県内企業の伊万里港利用促進について、佐賀県とも協力体制を組み今後も進める必要がある。</li> <li>● 西九州自動車道整備に合わせ、アクセス道路の整備も重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アクセス道路(都市計画道路)の早期整備を国や県へ働きかけることが重要と考えている。</li> </ul>

### 4-3 まとめ

各種団体へのヒアリング結果を総括すると、大きく以下の3つに集約することができます。

#### ● 異業種連携による地域産業の振興

伊万里牛や伊万里梨、伊万里焼など、個々の「伊万里ブランド」は確立していますが、それだけでは発信力に乏しく大きな発展には結びついていないのが現状です。

そこで、陶芸と食文化のコラボレーションによる「陶板弁当」など、異業種連携による新しい取り組みを展開することで、相乗効果によるさらなる地域産業の振興に結びつけていく必要があります。

#### ● 官民協働による取り組み展開

伊万里ブランドの情報発信や伊万里港活用促進のポートセールスなどは、民間だけで取り組んでいくことに限界があります。一方において、地域を活性化させる原動力として様々なバックグラウンドをもった民間の力が必要な取り組みもあります。

そこで、行政と民間がそれぞれ得意とする分野を生かしつつ連携して各種取り組みを展開していく必要があります。

#### ● 時代に即した的確な情報発信手法の計画的な展開

伊万里ブランドをはじめ、本市に存在する一つ一つの資源は評価が高いものの、その情報発信の部分が弱いことから認識されていないことも多く、チャンスを逃していることも否めません。

そこで、本市を代表する伊万里ブランドのPRから本市の日常的な風景に至るまで、様々な場面の情報発信について、行政単位のPR動画の作成からSNSなどの個人発信まで、的確な情報発信手法を計画的に展開していく必要があります。あわせて、情報発信の質の向上を図るためにも、「子ども伊万里塾」などシビックプライド（個人個人が都市に抱く誇りや愛着のこと）を育むことも継続して取り組んでいく必要があります。

## 第5章 まちづくりの課題整理

### 5-1 課題の整理

前章までの本市の現況及び各種団体ヒアリングの結果を踏まえ、西九州自動車道の開通を控えた本市におけるまちづくりの課題を整理します。

項目	現状	問題点・課題	課題まとめ
1. 人口動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口 55,238 人、世帯数 19,698 世帯(H27 国勢調査)</li> <li>S30 の 81,625 人をピークに減少傾向</li> <li>市全域では人口減だが、用途地域内では増加傾向 但し、用途地域では、伊万里駅周辺は人口減少、用途地域縁辺部は人口増加</li> <li>年少人口、生産年齢人口、老年人口割合が、14.8%、56.6%、28.6%、少子化、高齢化が進行(H27 国勢調査)</li> <li>生産年齢人口は、H17(35,184 人)からH27(31,230 人)で約 4,000 人減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地の人口減少による、まちの賑わい低下が懸念される。</li> <li>生産年齢人口の低下による産業の停滞により、まちの活力低下が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少、高齢化が進む将来における持続可能な生活環境の形成が必要(課題3)</li> </ul>
2. 産業動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業者数は 27,920 人、減少傾向(H27 国勢調査)</li> <li>1 次産業 2,582 人、2 次産業 8,891 人、3 次産業 16,304 人(H27 国勢調査)</li> <li>製造業、建設業、卸売・小売業、医療・福祉従事者が多く、特に製造業、医療・福祉は全国比較でも就業割合が高い</li> <li>市内高校生の「市外への就職予定者」及び「進学予定者」の将来の U ターン就職意向は、それぞれ1割、2割程度にとどまっている。</li> <li>伊万里牛、伊万里梨、伊万里焼・鍋島焼などの伊万里ブランドが確立している 他方、伊万里ブランドが各々で展開し、協働の取り組みが少ない</li> <li>日本海側拠点港(国際海上コンテナ拠点港)伊万里港における貿易量は増加傾向</li> <li>臨海部の工業団地には製造業が集積(SUMCO など) 他方、残地が少なく企業誘致が難しい状況</li> <li>鍋島、古伊万里などの肥前磁器(日本遺産に認定「日本磁器のふるさと肥前」)</li> <li>観光客数は年間 134.0 万人(H27)、近年微減傾向にあったがH25 で増加に転換(唐津市 772.6 万人、佐世保市 788.7 万人、佐世保市は近年増加著しい)</li> <li>伊万里中 IC の乗降台数が周辺 IC より少ないことが予測されている。(H42-8,500 台/日)</li> <li>西九州自動車道南波多谷口 IC 開通後の道の駅「伊万里」利用者数が大幅に増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用の場の確保はもとより、在学中にふるさと伊万里で働きたいという意識づけが必要である。</li> <li>伊万里ブランドのさらなる知名度向上(伊万里牛、伊万里梨)及び連携による重層的な展開が必要である。</li> <li>伊万里港については、博多港と差別化を図り、さらなる貿易量増を図る必要がある。</li> <li>IC 開設を契機とした雇用創出のための新たな工業団地整備検討が必要である。</li> <li>近隣市町を含めた広域的観光への対応が必要である。</li> <li>佐世保市、唐津市で増加する観光客を本市へ取り込む仕掛けづくり、目的地となる地域づくりが必要である。</li> <li>伊万里東府招IC開通後は、道の駅「伊万里」利用者の減少が懸念される。全線開通後は、これまで伊万里市内を通過していた平戸・松浦方面の利用客が素通りすることが懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西九州自動車道整備による地理的優位性を生かした地域産業の活性化(課題1)</li> <li>広域的な観光振興策の取り組みが必要(課題2)</li> <li>異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要(課題1, 2)</li> <li>西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要(課題1, 2)</li> </ul>
3. 土地利用動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口集中地区(DID)は、H2 からの 20 年で約 40ha 拡大。用途地域縁辺部でまとまった宅地開発が実施されている。</li> <li>中心市街地での人口減少、商店街の空き店舗率は県内でも突出(県平均約 16%に対し、本市は約 32%と2倍)</li> <li>用途内に人口が集積、周辺にも複数の既存集落が存在しコミュニティが形成されている。</li> <li>都市計画道路の整備にあわせ、市街地外延部での商業施設立地が進行している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IC 周辺における開発機運の高まりによる無秩序な土地利用転換が懸念される。</li> <li>空き店舗等の増加による中心市街地の活力低下が懸念される。</li> <li>既存集落における人口減少、高齢化に伴うコミュニティの崩壊が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西九州自動車道 IC の供用開始による都市構造の変化や開発機運の高まり等を見据えた将来の土地利用計画(都市計画)が必要(課題3)</li> <li>中心市街地の活性化、周辺の既存集落や各拠点とのネットワークを強化することが必要(コンパクト+ネットワーク)(課題3)</li> </ul>
4. 都市基盤整備状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本海側拠点港(国際海上コンテナ拠点港)伊万里港の存在(強み)</li> <li>西九州自動車道、国道 204 号、大坪木須線の早期整備が求められている。</li> <li>西九州自動車道へのアクセス道路となる都市計画道路等が未整備</li> <li>JR 筑肥線(7 駅)、MR 西九州線(11 駅)存在、民間バス、いまりんバスが運行するも、公共交通空白地域に 75 歳以上人口の約2割弱の方が居住している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾計画に基づく伊万里港の機能充実が望まれる。</li> <li>西九州自動車道へのアクセス道路となる都市計画道路の早期整備が必要である。</li> <li>公共交通空白地の解消に向けた取組が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要(港⇄工業団地⇄IC など)(課題1, 2)</li> </ul>
5. その他(団体ヒアリング)	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊万里ブランドは確立されているが、個々の取り組みだけで次の発展に結びついていない。</li> <li>ポートセールスや空き店舗対策など、民間、行政それぞれの取り組みでは限界がある。</li> <li>良質な資源はあるものの、情報発信力が弱くチャンスを逃がしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異業種連携による地域産業の振興が必要である。</li> <li>官民協働による取り組みが必要である。</li> <li>時代に即した的確な情報発信手法の計画的な展開が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要(課題2) (再掲)</li> </ul>

前項の課題を整理すると、以下の3つの課題に集約されます。

### 課題1 産業振興に関する課題

- 西九州自動車道整備による地理的優位性を生かした地域産業の活性化が必要
- 異業種連携による ALL 伊万里での取り組みが必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要

基幹産業である農畜産業や地域産業である窯業については、西九州自動車道整備による地理的優位性を生かした販路拡大等の取り組みはもとより、6次産業化や異業種連携等による「伊万里ブランド」の育成・強化にも取り組む必要があります。

また、新たな雇用創出につながる起業支援等にも取り組んでいく必要があります。

あわせて、本市が有する伊万里港の物流拠点としての機能を産業振興に最大限結束させていくためにも、港湾機能の強化促進やアクセス道路整備促進などを関係機関へ働きかけていく必要があります。

### 課題2 観光振興に関する課題

- 広域的な観光振興策の取り組みが必要
- 異業種連携による ALL 伊万里での取り組みが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要

観光分野においては、福岡都市圏からの玄関口となる本市の地理的優位性を生かした取り組みを進める必要があります。その際には、本市単独で取り組むのではなく、周辺自治体と連携した広域的な取り組み体制を整えるとともに、各観光資源の磨き上げや異業種連携による取り組みなど、ALL 伊万里で観光振興に取り組むことで、本市が素通りされることなく目的地となるよう取り組む必要があります。

### 課題3 生活・暮らしの場充実に関する課題

- 人口減少、高齢化が進む将来における持続可能な生活環境の形成が必要
- 西九州自動車道 IC の供用開始による都市構造の変化や開発機運の高まり等を見据えた将来の土地利用計画（都市計画）が必要
- 中心市街地の活性化とともに、周辺の既存集落や各拠点とのネットワークを強化することが必要（コンパクト+ネットワーク）

西九州自動車道の IC 開設を好機と捉えた産業振興、観光振興の展開を進めるためにも、まずは、その原動力となる本市に暮らす住民自身の生活が豊かになるまちづくりを進める必要があります。特に、人口減少、少子化、高齢化が進行する将来を見据え、今の地域で生活を続けていくことができるような将来の土地利用計画（都市計画）を進める必要があります。

## 第6章 都市形成戦略

西九州自動車道の開通を好機と捉え、本市がこれからどのような取り組みを進めていくべきか、前章までの上位計画における位置付けや課題整理を踏まえ、将来像及び基本戦略を設定します。

### 6-1 将来像の設定

西九州自動車道の開通を契機とした都市形成戦略は、広域交通体系の劇的な変化による外からの流れを市内に呼び込むと同時に、市内の資源を外へ売り込む仕掛けづくりが必要となることから、産業振興および観光振興に重点的に取り組むこととします。

但し、その根底には、住んでいる人自らが安心して快適に暮らせるまちであることが必要であり、その上で市民生活・暮らしの中でこの広域交通体系の整備による恩恵を享受でき、市民はもちろんのこと、他都市住民からも**選ばれるまちづくり**を進めることが重要です。

以上を踏まえ、本都市形成戦略の基本理念は、第5次伊万里市総合計画の将来都市像である「**活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里**」の実現とし、交通体系の変化を見据えた本戦略における将来像として以下の3つを掲げ、今後の都市形成戦略を推進します。

#### 活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里

○競争力を備えた産業が育つまち 伊万里

○西九州北部の観光拠点 伊万里

○選ばれるまち 伊万里



### < 3つの将来像の関係性 >

各将来像の関係性は、下図の通りです。

西九州自動車道開通を契機としたまちづくりにおいては、産業振興と観光振興が基本となるものの、その根底となる「生活・暮らしの場の充実」が何よりも重要です。生活・暮らしの場が充実している上で、農畜産業、窯業、商業などの「産業」がしっかりと育ち、それを展開・発展させる手段として「観光」施策を展開し、より産業が潤い、人々の生活・暮らしの場も豊かになるという流れを示しています。

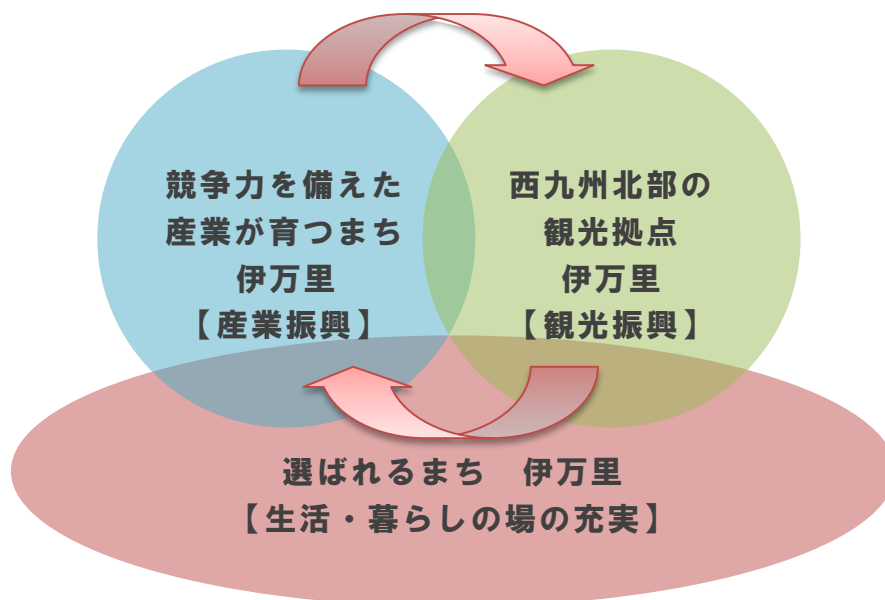


図 3つの将来像の関係性イメージ図

6-2 基本戦略の設定

将来像の実現に向けて、下記8つの基本戦略を設定し展開します。

<課題>

**課題1 産業振興に関する課題**

- 西九州自動車道の整備による地理的優位性を生かした地域連携による産業の活性化が必要
- 異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要

<将来像>

**将来像1 (産業振興)【活気あふれるまち】**

■競争力を備えた産業が育つまち 伊万里

農畜産・窯業の伊万里ブランドのさらなる強化、重要港湾伊万里港の活用などにより、地域産業の振興を展開します。

<基本戦略>

<戦略1> 基幹産業(農業・製造業)や地域産業(窯業・商業)の活性化

<戦略2> ゲートウェイ機能の強化促進

**課題2 観光振興に関する課題**

- 広域的な観光振興策の取り組みが必要
- 異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要

**将来像2 (観光振興)【行きたいまち】**

■西九州北部の観光拠点 伊万里

西九州北部の各地域観光の周遊起点としての機能を備えた拠点の確立を図るとともに、わざわざ行きたくなる観光地となるよう、多様な取り組みを重層的に展開します。

<戦略3> ALL伊万里による観光戦略の展開

<戦略4> 広域連携による観光施策の展開

<戦略5> 観光拠点(玄関口)としての受入れ・情報発信の強化

**課題3 生活・暮らしの場充実に関する課題**

- 人口減少、高齢化が進む将来における持続可能な生活環境の形成が必要
- 西九州自動車道 IC の供用開始による都市構造の変化や開発機運の高まり等を見据えた将来の土地利用計画(都市計画)が必要
- 中心市街地の活性化とともに、周辺の既存集落や各拠点とのネットワークを強化することが必要(コンパクト+ネットワーク)

**将来像3 (生活・暮らしの場充実)**

【安心で住みたいまち】【子育てしやすいまち】

■選ばれるまち 伊万里

住民自身の生活が豊かになるまちづくり、市外への人口流出を抑え、市外からの人口流入を促す「選ばれるまち」となる施策を展開します。

<戦略6> 計画的なまちづくりの推進

<戦略7> 魅力的で訪れたくなる中心市街地の活性化

<戦略8> 中山間地域等の活力の維持向上を図る定住環境の形成

## 将来像1（産業振興）【活気あふれるまち】

### ■競争力を備えた産業が育つまち 伊万里

基幹産業である農畜産業や地域産業である窯業・商業については、「伊万里ブランド」の育成・強化、生産性向上や販路拡大などの取り組みを進めるとともに、起業支援による新たな雇用環境の創出に取り組みます。

また、日本海側拠点港に位置付けられている伊万里港は、東アジア諸国の活力を引き込み、地域の新たな発展の機会を創出するための重要なゲートウェイ（玄関口）であることから、港湾機能の強化など地域経済発展に貢献する取り組みを関係機関へより一層働きかけていきます。

上記の取り組みにより、本市の持つ強みを相乗的に発揮させ、競争力を備えた産業が育つまちを目指します。

### <戦略1> 基幹産業（農業・製造業）や地域産業（窯業・商業）の活性化

伊万里中IC（仮称）供用開始を契機に、基幹産業や地域産業の活性化を図るため、6次産業化や異業種連携等による伊万里ブランドの育成・強化、ICTを活用した産業振興、起業をはじめ新たな雇用創出に向けた取り組みの支援等を進めます。

#### 1) 「伊万里ブランド」の育成・強化

伊万里梨、伊万里牛、伊万里焼などの「伊万里ブランド」の更なる魅力の増大を図るため、生産性向上に向けた支援や農産物直売所等による加工・販売等の6次産業化や流通、サービス業等の企業、団体等との異業種連携に取り組みます。

あわせて、福岡都市圏を中心に様々な媒体を活用したPR活動を継続的に実施することにより、「伊万里ブランド」の育成・強化を図ります。

##### 【具体的取り組み】

- 農産物直売所の戦略的展開検討
- 6次産業化支援
- 新商品開発及び新規販路開拓（新商品販路開拓支援事業）
- 伊万里ブランドコラボ企画の展開（例「伊万里牛の重箱御膳」：伊万里牛と伊万里焼の「伊万里ブランド」を、飲食店と窯元が協働開発・展開）

#### ■市内における先行的取り組み：土や水にこだわるねぎ名人の6次産業化

- ・ 中国等アジア地域から安価な生鮮品が輸入され、競争の激化による売上高減少への危機感が高まり、加工品の製造販売による付加価値向上を決意
- ・ 首都圏の見本市に出展した際に、ねぎ加工品の高い市場性を感じ、土や水にこだわって栽培したねぎを用いて、平成21年から乾燥ねぎ、ねぎスープ等の加工品の開発を実施
- ・ 売上増、雇用者数の増加などの効果がでている

（出典：6次産業化の取組事例集 <http://www.maff.go.jp/j/shokusan/renkei/6jika/pdf/jireisyu.html>）



## 2) ICT技術の活用による産業振興

IC供用開始に伴う福岡都市圏等市場への流通環境向上を産業振興へと結びつけるため、ICT技術を活用したスマート農業の促進、生産・流通システムの高度化など、農業分野の生産性向上を図る取り組みを促進します。

### 【具体的取り組み】

- 生産管理分野へのICTの活用促進

## 3) 新たな雇用創出に向けた取り組み支援

基幹産業や地域産業の活性化とともに、IC供用開始を契機とした新たな雇用創出を図るため、首都圏企業のサテライトオフィスの誘致活動やPORTO3316 IMARIとの連携による起業活動への支援に取り組みます。

### 【具体的取り組み】

- PORTO 3316 IMARIとの連携による起業支援（働く場の創出）
- 公共施設を活用したリノベーション事業（伊万里市駅ビル、旧婦人文化会館等：シェアオフィス、ゲストハウスなど）

## 4) ロードサイド型賑わい機能の誘導

伊万里中IC（仮称）周辺については、広域的なアクセス利便性向上を地域活性化につなげていくためにも、中心市街地との役割分担のもと、官民連携による賑わい機能の誘導を検討します。

### 【具体的取り組み】

- 官民連携による賑わい機能の誘導検討

### ■市内における先行的取り組み:ICTを活用した新規ビジネス創造拠点

#### 「PORTO 3316 IMARI」

- ・本市では、「都市と地方を結ぶ次世代人材育成によるクラウド型企業誘致事業」に取り組み中
- ・当事業は、地域の産業（農業や伝統産業等）や観光と最新のテクノロジー（ICT技術等）の融合による新たなビジネスの創造、更にはそれに伴う人材育成や都市部のIT企業との連携、誘致を目指すもの
- ・その拠点施設として、伊万里まちなか一番館の2階をリノベーションしてオープンさせた



(出典:PORTO 3316 IMARI HP [https://peraichi.com/landing\\_pages/view/porto3316/](https://peraichi.com/landing_pages/view/porto3316/))

## ＜戦略2＞ ゲートウェイ機能の強化促進(伊万里港の国際物流拠点)

### 1) 伊万里港の機能充実及び交通ネットワークの強化

国際競争力強化のため、伊万里港港湾計画に基づく整備や、アクセス道路となる都市計画道路二里黒川線の早期完成を関係機関へ働きかけ、輸送時間短縮による利便性向上や新規市場開拓を支援します。

#### 【具体的取り組み】

- 伊万里港の国際物流ターミナル整備促進
- アクセス道路の整備による港湾利用の効率性、利便性の向上、農畜製品の輸送時間短縮による新規販路開拓への展開支援

### 2) 新規工業団地の整備による新たな雇用の場の創出

松浦地区や浦ノ崎地区における新たな工業団地の整備など、西九州自動車道や国道498号などの広域交通体系の充実にあわせた新たな雇用の場の創出を図ります。

#### 【具体的取り組み】

- 松浦地区における新規工業団地整備の推進
- 浦ノ崎地区における工業団地開発促進(県)
- IC周辺における新規工業団地整備の検討

### 3) 伊万里港の利活用促進

伊万里港の利用を国内外の企業に積極的に働きかけるなど、官民協働による伊万里港の利用促進策を展開します。

#### 【具体的取り組み】

- ターゲットを明確にした戦略的なポートセールスの展開
- 県との連携による利活用促進のための支援策の検討
- クルーズ船寄港検討

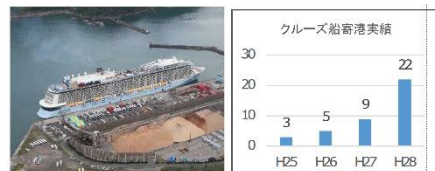
#### ■他都市事例：油津港でのクルーズ船誘致の取り組み(宮崎県日南市)

○国、県、近隣自治体、民間事業者等との連携、市民参加のおもてなし

- ・クルーズ船寄港の経済効果をより効果的に波及させるため、国の出先機関や県、県南部の10市町、民間事業者などで宮崎県南部広域観光協議会を設立
- ・広域で連携して誘致し、広域物産展の開催や広域のかつ多彩な観光ルートの提案などを行い、地域の魅力を最大限に生かした受入を実施
- ・クルーズ船の寄港に合わせ、通訳ボランティアを配置するとともに、高校生による観光ガイドを実施

(出典：地方創生事例集(国土交通省))

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/souseikaigi/h28-12-14.html>



○クルーズ船の寄港状況

○寄港実績



○エアドームテントの活用

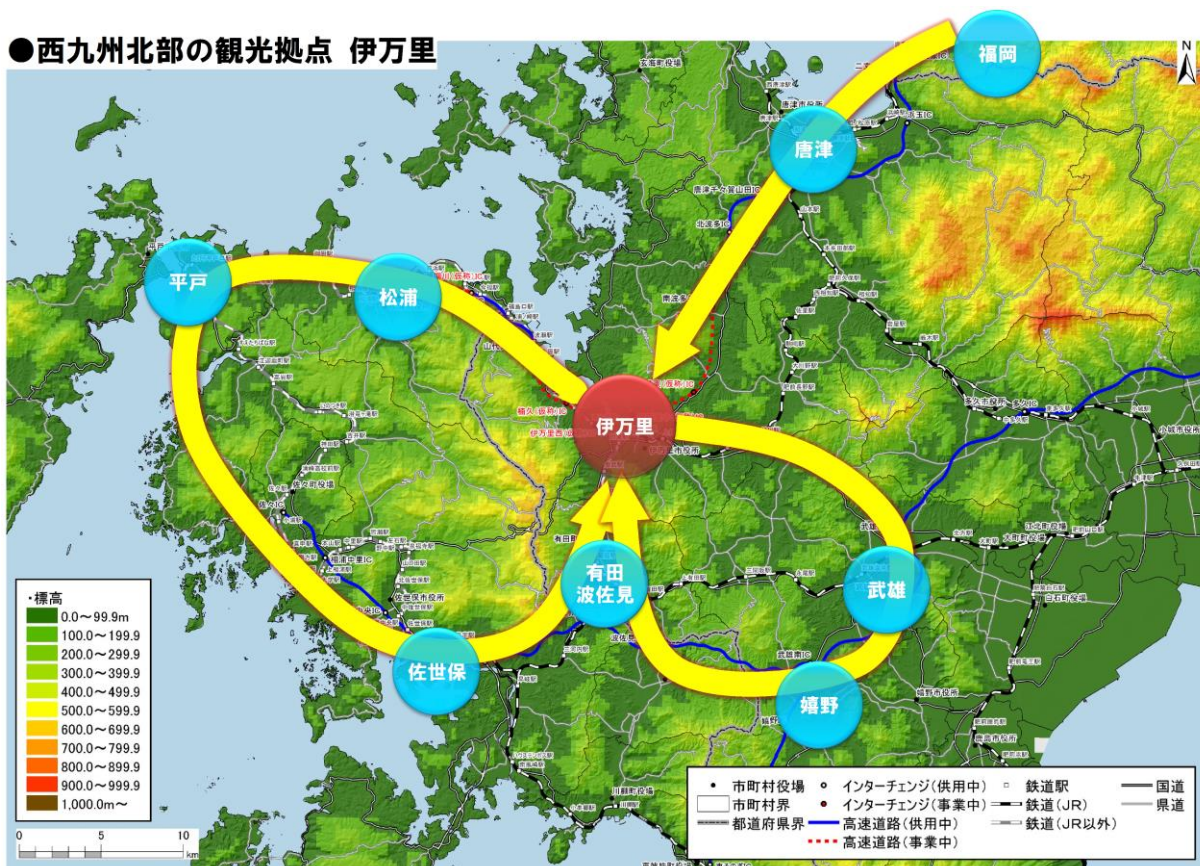
○地元高校生による英語での観光ガイド

## 将来像 2（観光振興）【行きたいまち】

## ■西九州北部の観光拠点 伊万里（わざわざ行きたくなるまち伊万里）

本市は、西九州自動車道の整備により、西九州北部観光の周遊起点として非常に優位な位置に存在します（西周りでは松浦市、平戸市、佐世保市、東周りでは武雄市、嬉野市、有田町、波佐見町）。この優位性を最大限に活用し、通過点ではなく観光の起点として「わざわざ行きたくなる観光地」となるよう、地域資源のレベルアップや宿泊施設の充実を含めたおもてなし体制づくり、広域連携の強化、時代に応じた情報発信手法の活用など、多様な取り組みを重層的に展開し、西九州北部の観光拠点としての確立を目指します。

## ●西九州北部の観光拠点 伊万里



## <戦略3> ALL伊万里による観光戦略の展開

本市が有する豊かな食文化や自然環境、歴史・文化等の地域資源を磨き上げ、伊万里ブランドの強化を図るとともに、異業種連携や宿泊施設の充実を含めた受け入れ体制づくりなど、ALL伊万里による観光戦略を展開します。

### 1) 観光戦略づくり

観光地域まちづくりの展開に向け、広域的な観点、多様な分野との連携、新たな情報技術の活用など、様々な視点をふまえて観光戦略プランを見直します。

#### 【具体的取り組み】

- 伊万里市観光戦略プランの見直し

### 2) 地域資源のレベルアップ

伊万里ブランドをはじめ、地域資源の研鑽により、より魅力的な観光資源となるよう整えます。また、既存のまつりの継承や新たなイベントの展開など、各々が主体となって育てていきます。

#### 【具体的取り組み】

- 伊万里ブランドによる福岡都市圏等でのイメージ戦略継続展開
- 伝統文化の継承及び新たなイベントの企画展開
- 大川内山の景色の維持（大川内山活用計画の推進）
- 大川内山でのエリアリノベーション（古民家再生）

### 3) 異業種連携による取り組み展開

伊万里牛や伊万里焼など、単体で勝負するのではなく、「伊万里ブランド」として幅広い分野と連携して戦略的にブランド展開することで、域内滞在時間の延長や消費額の向上などの相乗効果を狙います。また、異業種間での企画検討の機会を継続的に設けるよう支援します。

#### 【具体的取り組み】

- 体験型観光（食＋体験＋泊）、（地元食材＋地元出身料理人）＋ $\alpha$   
（例：畑の中のレストラン、民泊、DINING OUT in IMARI の開催など）
- 異業種座談会（仮称）の定期開催
- 耕作放棄地を活用した体験型農業、週末農家の展開⇒定住促進

#### 4) 継続的なおもてなし体制づくり（ホスピタリティ強化）、広報戦略展開

観光産業従事者だけでなく、市民のおもてなし（挨拶、笑顔）も含めて総合的なおもてなし体制づくりを継続的に実施します。併せて、Wi-Fi 環境や多言語サイン導入など観光インフラ整備を進め、情報発信についても戦略的に展開します。

##### 【具体的取り組み】

- 観光案内所のリニューアル
- ボランティアガイド（まちあるきガイド）、観光コンシェルジュの育成
- 伊万里未来プランナーの養成
- 観光インフラの整備拡充（サイン計画、Wi-Fi スポット→直ぐに SNS 発信）
- SNS や web を活用した広報戦略の展開
- インバウンド対策（多言語サイン計画、免税店登録奨励事業など）

### <戦略4> 広域連携による観光施策の展開

観光施策の展開に向け、広域的な観光戦略の推進組織づくりを周辺自治体と連携して進めます。平成 28 年に肥前窯業に関する文化財が日本遺産に認定され、この歴史的、文化的魅力を伝える「肥前窯業圏」の取り組みを推進するとともに、ストーリー性の高い新たな広域観光周遊ルートの形成など、周辺自治体や民間事業者と一体となった広域連携による取り組みを進め、稼げる地域となることを目指します。

##### 【具体的取り組み】

- 観光客受け入れ体制の再構築（観光関係団体の連携強化（日本版 DMO など新規団体等の創設））
- 肥前窯業圏の取り組み推進（活性化推進協議会との連携）
- 広域観光周遊ルートの形成（平戸市、松浦市との連携）
- 九州オルレ「伊万里コース」の整備
- 観光客誘致活動の効果的展開（民間旅行会社等との連携）

### <戦略5> 観光拠点（玄関口）としての受入れ・情報発信の強化

本市中心部に最も近い場所開設される（仮称）伊万里中 IC 周辺を、本市及び広域観光の拠点（玄関口）として位置づけ、様々な情報等を入手できる場として展開します。

##### 【具体的取り組み】

- 産地直売所、情報発信・収集機能などの整備検討（観光案内所の新規整備、市所蔵肥前陶磁器の展示など）
- 循環バスなど、公共交通事業者との連携
- 観光案内板の新規設置（伊万里東府招 IC、西九州自動車道沿線）



## 将来像3（生活・暮らしの場充実）【安心で住みたいまち】【子育てしやすいまち】

### ■選ばれるまち 伊万里

西九州自動車道の開通により移動の利便性が向上することから、人々の生活圏が拡大していくことが予想されます。産業振興や観光振興による本市の活力創出は重要ですが、本市に暮らす住民自身の生活が豊かになるまちづくりを進めることが最も重要です。中心市街地の再生、公共交通の充実、子育て環境の充実および地域コミュニティの維持などにより、市外への人口流出を抑え、市外からの人口流入を促す施策を展開し、様々な場面において「選ばれるまち」となることを目指します。

### <戦略6> 計画的なまちづくりの推進

西九州自動車道や国道498号バイパスなどの広域交通網や補助幹線道路となる都市計画道路大坪木須線などの整備に伴い、本市の都市構造は大きく変化します。少子化、高齢化の進行が今後も予測されている中、これからも安心して住み続けられるよう将来を見据えたまちづくり計画を策定し、計画に基づいた具体的取り組みを進めていきます。

#### 1) 将来を見据えた都市計画の検討

総合計画や総合戦略で掲げた将来都市像の実現に向けて、都市計画分野からどのように取り組んでいくか、将来のまちづくりの基本方針となる「伊万里市都市計画マスタープラン」を策定します。また、安心して住み続けられる地域づくりのため、公共施設等についての計画的な維持管理の実施、施設再配置計画の検討を進めます。

##### 【具体的取り組み】

- 伊万里市都市計画マスタープランの策定
- 公共施設等総合管理計画に基づく計画的な維持管理の実施及び施設再配置計画の検討

#### 2) 定住促進策、子育て支援策の検討

市外からの居住人口流入を促すため、移住体験ツアーの実施や奨励金等の助成金制度の拡充検討を進めます。あわせて、本市の子供たちが、ふるさとへの愛着や誇りを高め、将来において本市に戻ってくるような意識づけを働きかける取り組みも進めます。

##### 【具体的取り組み】

- 移住体験ツアー・空き家ツアー（伊万里の生活体験・空き家の内覧など）
- 定住促進施策（助成金など）の拡充検討
- 子ども伊万里塾の開催
- 伊万里市インターンシップ実習（就業体験）

## <戦略7> 魅力的で訪れたいくなる中心市街地の活性化

外から魅力的に映るまちは、「まちの顔」となる中心市街地が魅力的です。伊万里市民が日常において利用したくなるとともに、来訪者も訪れてみたいと感じる魅力ある中心市街地の活性化に向け、市民協働による取り組みを進めます。

### 【具体的取り組み】

- 中心市街地の活性化に向けたまちづくり構想（将来像）等の検討
- まちなかイベントの開催（市街地・商店街活性化イベント開催支援事業）
- 伊万里川河川敷地空間を活用した賑わいのあるまちづくり（ミズベリング）
- 空き家・空き店舗対策（リノベーションまちづくり（番館構想）、データベース構築など、官民協働による取り組み検討）
- ワンストップ行政窓口の設置

## <戦略8> 中山間地域等の活力の維持と向上を図る定住環境の形成

本市には、伊万里中心部の他、周辺に複数の自治区域が形成されています。中心市街地の再生とともに、旧来から地域の中心として形成されてきた複数の自治区域についても安心して住み続けることができるよう、生活利便機能や都市機能等の一定の基礎条件を確保し、豊かな定住環境の形成を図ります。

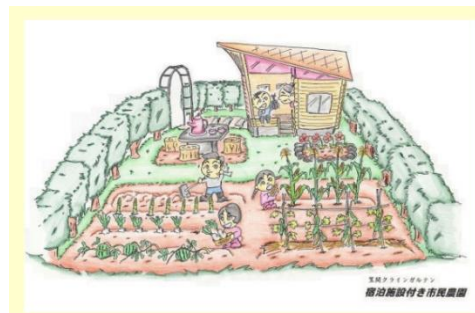
また、滞在型市民農園、農家レストラン、農家民泊、地域の伝統行事への参加、農村留学及び修学旅行受入れなど、福岡都市圏をはじめ都市部住民との交流機会を増やすことは、地域の魅力の再発見を促す機会や地域活力の維持・向上につながることから、そのような取り組みを推進します。

### 【具体的取り組み】

- 「小さな拠点」の形成（拠点形成、ネットワーク（交通）の確保）
- 伝統文化の継承（まつり）⇔地域コミュニティの維持
- 未利用農地等を活用した観光農園（クラインガルテン等）の推進
- 未利用公共施設の活用検討（宿泊施設、ドローン学校など）

### ■事例：滞在型市民農園による地域住民と都市住民の交流～笠間クラインガルテン～ （茨城県笠間市）

- ・ 就農者の減少・高齢化を背景に、地域資源をいかした特色あるサービスを都市住民に提供するとともに、地域の活性化を図る
- ・ 施設内に宿泊施設付市民農園と日帰り市民農園を整備



（出典：笠間クラインガルテン）<http://www.kasama-kg.jp/main/kkg.htm#syuku>

### 6-3 ゾーニング計画（将来都市構造）

前項までに設定したまちづくりの将来像の実現のために、将来都市構造を設定します。

#### 1. 将来都市構造を考える上での留意点

##### (1) 高速交通体系との連携

西九州自動車道の市内 IC の供用開始に伴い、広域交通網の拡大による交流人口の拡大が期待されます。他方、福岡都市圏への流出が懸念されます。



高速交通体系の充実を見据え、中心市街地の再生、伊万里港の機能強化促進、観光施策との連携など、**他都市圏への流出抑制と通過点とならないまちづくりが必要**

##### (2) 市内ネットワーク機能の充実・強化

本市には、伊万里中心部の他、周辺に複数の自治区域が形成され、伊万里中心部を拠点とした生活圏が形成されています。しかしながら、モータリゼーションの進展やライフスタイルの変化等による生活圏の拡大、少子化高齢化の進行など、社会的環境が変化した結果、伊万里中心部の賑わいが低下しています。



中心部の賑わい再生、西九州自動車道の利用利便性向上のためにも、**周辺地域、中心部、西九州自動車道 IC を連絡するネットワーク機能の充実・強化が必要**

## 2. 都市構造の構成要素

前項で示した将来都市構造を考える上での留意点をもとに、都市の骨格を形成する道路・鉄道・山林・河川などを主体とした将来都市構造図を整理します。

### (1) ゾーン

⇒それぞれの地域の特徴を明確にし、地域特性に応じたまちづくりを行っていくためにも、概ねの機能毎に区分した土地のまとまりを「ゾーン」として設定します。

市街化を進める区域や、自然と調和、一体化した居住環境等を確保する区域を中心に、5つのゾーンを設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
ゾーン	<b>①市街地ゾーン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 市中心部の主に都市活動を行う区域に指定します。</li> <li>▶ 都市軸沿い・交差点を中心として、まとまりのある市街地の形成、都市の活性化に必要な都市機能の配置等を進め、快適便利な定住の場としての役割を担います。</li> </ul>	◆主に用途地域が指定されている区域
	<b>②地域生活・環境共生ゾーン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 市街地周辺部に広がる平坦地や田園地帯、台地など、地域の都市活動を行う区域、田園・里山との共存を図る区域、農業生産の促進を図る区域に指定します。</li> <li>▶ 地域生活拠点を核として、地域内での生活に必要な都市機能の配置等を周辺の自然との調和に配慮して進め、快適でゆとりある居住の場としての役割を担います。また、優良農地についてはその保全に努め、農業生産地としての役割を担います。</li> </ul>	◆山代、東山代、二里、黒川、波多津、南波多、大川、松浦、大川内、大坪、立花、牧島の各地域生活拠点周辺 ◆郊外部の優良農地一帯や河川沿いの平坦地、漁村集落など
	<b>③自然環境ゾーン（海）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 沿岸地域の保全等を目的とした区域に指定します。</li> <li>▶ 玄海国定公園に指定された美しい沿岸景観であり、保全を図るとともに、市民および観光客の癒しの場・交流の場としての役割を担います。</li> </ul>	◆玄海国定公園に指定された海岸部
	<b>④自然環境ゾーン（山）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 主に森林の保全等を目的とした区域に指定します。</li> <li>▶ 都市環境を支える豊かな自然として、防災等の観点からも保全を図るとともに、市民および観光客の癒しの場・交流の場としての役割を担います。</li> </ul>	◆市街地ゾーンを取り囲む山地
	<b>⑤産業ゾーン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 伊万里港湾部の工業団地一体に指定します。</li> <li>▶ 主要産業の集積地として機能充実及び維持を促進します。</li> </ul>	◆港湾部の工業団地

## (2) 拠点

⇒効率的・効果的なまちづくりを推進するためにも、「ゾーン」内でも特に活動の中心や地域の中核となる場を「拠点」として設定します。

伊万里市の中心市街地、周辺地域の旧来の生活中心の場、観光・交流の場、産業活動の場などを中心に、4つの拠点を設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
生活圏における拠点	<b>①中心拠点</b> ▶ 広域的な圏域を持つ行政、商業、観光、医療等の様々なサービス機能や観光・交流資源等が集積し、市民や来訪者で賑わう「伊万里の顔」としての役割を担います。 ▶ 伊万里市全体の活力をけん引する「伊万里の顔」として、様々な都市機能が周辺部に拡散することなくまとまって集積するコンパクトな市街地形成を目指します。	◆市街地ゾーンのうち、伊万里駅を中心とした区域（中心市街地）
	<b>②地域生活拠点</b> ▶ 身近な生活需要に対応した、地域生活の中心の場としての役割を担います。 ▶ 行政、公共交通、近隣商業等の身近な生活サービス機能の集積、 <u>地域特性の活用</u> により地域生活拠点の維持を図り、 <u>周辺の集落での生活も支える地域生活の中心の場の形成</u> を目指します。	◆各地域の拠点
	<b>③景観・観光・交流拠点</b> ▶ 各景観・観光振興ゾーンにおける中心的役割の場所に位置し、県内外からの来訪者へのもてなしの場としての役割を担います。 ▶ <u>景観保全や観光情報提供をはじめ地域内外の景観観光交流を促す場づくり</u> など、市内観光発展による地域振興を目指します。	◆市街地ゾーン、大川内山、道の駅周辺、いまり夢みさき公園等を含む一帯
	<b>④産業拠点</b> ▶ 本市を代表する産業の拠点として、また高速交通体系との連携による新たな産業拠点として、地域活力の向上に重要な役割を担います。 ▶ 高速交通体系の結節点の強化とともに、利便性を生かした本市流通産業、業務機能の拠点形成により、優先的に産業集積を図り、市内産業の振興を目指します。	◆伊万里港 ◆臨港部の工業団地 ◆新工業団地（予定）

## (3) 軸

⇒広域交通や都市間交通、地域内交通などの交通網の整備は、地域間の交流や観光を通しての交流など、まちづくりに寄与することが期待できることから、ネットワークや交流を担う線形、動線を「軸」として設定します。

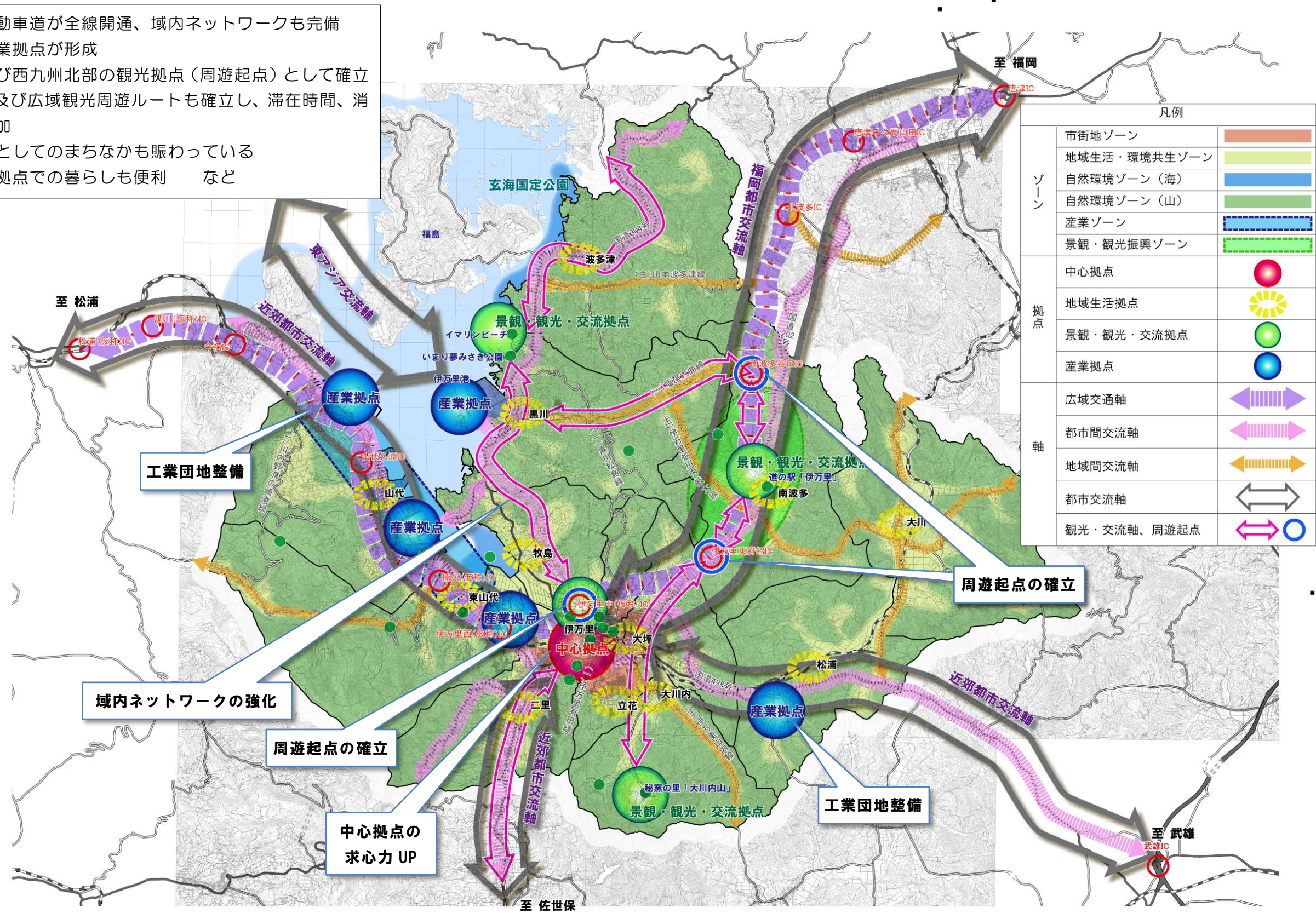
市内外の様々な都市活動の場を結ぶ幹線道路や、都市環境の向上に資する河川、来訪者の観光動線等を中心に、8つの軸を設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
都市軸	<b>①広域交通軸</b> ▶ 本市と福岡都市圏とを結びつけ、広域的な交流を促す役割を担います。	◆西九州自動車道 ◆鉄道
	<b>②都市間交通軸</b> ▶ 広域交通軸の機能を補完し、本市と周辺市町の交流を促す役割を担います。	◆国道 202 号 ◆国道 204 号 ◆国道 498 号 ◆鉄道
	<b>③地域間交通軸</b> ▶ 都市中心拠点、地域生活拠点、観光・交流拠点等様々な拠点を結びつけ、日常生活や観光・交流の利便性を高める役割を担います。	◆各種県道 ◆鉄道
地域軸	<b>④河川軸</b> ▶ 市民の身近な憩いの場として、また、自然や歴史を巡ることのできる動線としての役割を担います。	◆伊万里川など
交流軸	<b>⑤観光・交流軸</b> ▶ 本市の景観・観光資源をネットワークした、主要な観光周遊ルートとして、本市の観光振興の主軸としての役割を担います。	◆各 IC を起点とした市内及び広域観光周遊ルート
	<b>★周遊起点</b> ▶ 福岡都市圏からの来訪者の観光ルートの起点となる地域として重要な、情報発信などのもてなしの場としての役割を担います。	◆伊万里中（仮称）IC、南波多谷口 IC および伊万里東府招 IC 周辺
	<b>⑥東アジア交流軸</b> ▶ 伊万里港の国際物流港として機能強化を促進し、東アジア諸国との人・物・情報など多面的な交流の広がりによる産業や経済活動の活性化を図る主軸としての役割を担います。	◆伊万里港から東アジア
	<b>⑦福岡都市圏交流軸</b> ▶ 西九州自動車道の完成に伴い、産業や生活、文化などの様々な分野における福岡都市圏との交流強化の役割を担います。	◆西九州自動車道
	<b>⑧近郊都市交流軸</b> ▶ 近郊都市との人や物の交流の円滑化を図る役割を担います。	◆国道 202 号 ◆国道 204 号 ◆国道 498 号



### ● 将来の目指すべき都市構造

- 西九州自動車道が全線開通、域内ネットワークも完備
- 新たな産業拠点が形成
- 伊万里及び西九州北部の観光拠点（周遊起点）として確立し、市内及び広域観光周遊ルートも確立し、滞在時間、消費額も増加
- 中心拠点としてのまちなかも賑わっている
- 地域生活拠点での暮らしも便利 など





## 第7章 リーディングプロジェクト

### 7-1 リーディングプロジェクトの設定

前章までの各戦略の中から、まちづくりを牽引していくべきリーディングプロジェクトを検討します。

#### 1. リーディングプロジェクトの考え方

リーディングプロジェクトは、戦略を踏まえた具体的プロジェクトの中から、単純に現在実施中の施策や具体化している事業等を設定するのではなく、先導的に取り組むことで、その他のプロジェクトや施策を牽引していくもの、あるいは波及効果が大きいものを設定し、重点的に取り組んでいくものとします。

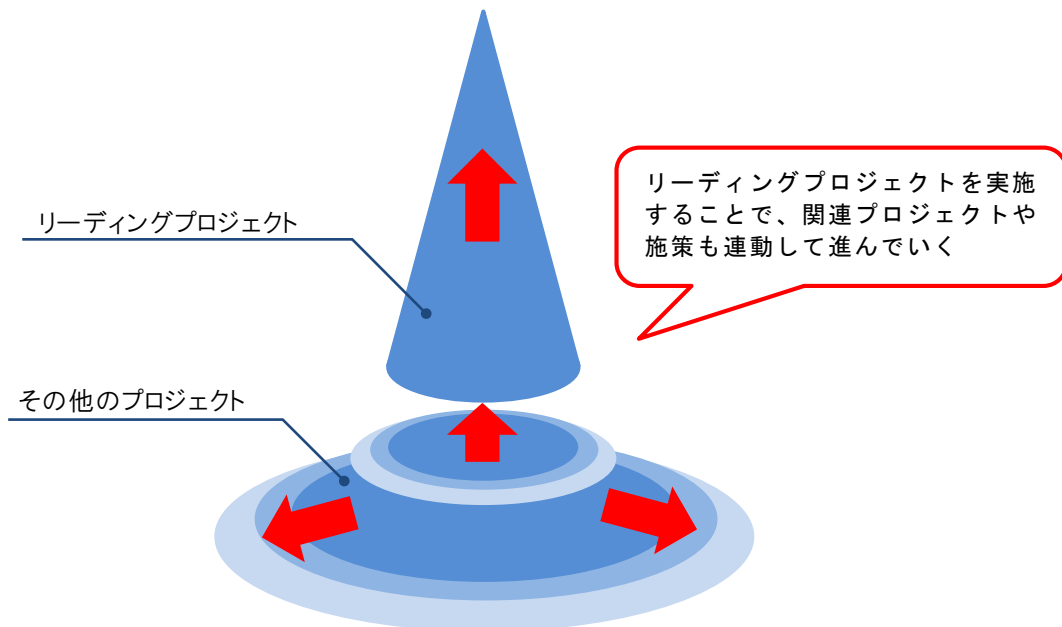


図 リーディングプロジェクトのイメージ

#### 2. リーディングプロジェクトの設定

リーディングプロジェクトの考え方を踏まえ、西九州自動車道の整備による影響が最も大きくなることが考えられる「伊万里中 IC（仮称）周辺部」及び伊万里市のまちなかの顔となる「中心市街地」をリーディングプロジェクトの対象とします。

##### (1) リーディングプロジェクト1

「伊万里中 IC（仮称）周辺部」では、西九州北部観光の起点となるウェルカムゲートとして、広域からの観光客等のニーズをとらえた魅力的な情報発信等の機能を集約し、広域的に人を引き付ける目的地となる場を形成します。

## (2) リーディングプロジェクト2

「中心市街地」では、リーディングプロジェクト1の伊万里中 IC（仮称）周辺部に集まってきた観光客等が市内あるいは近隣の観光地へ展開していく上での目的地の一つとして選ばれる場を形成します。特に中心市街地は、本市のまちの顔として市全体の活力を牽引していく必要があることから、市民自らが楽しめる場づくりをすすめ、その延長上に観光客も楽しめる場となることを目指します。

### 3. リーディングプロジェクト同士の関係性

リーディングプロジェクト1、2それぞれの推進とともに、ウェルカムゲートとなる伊万里中 IC（仮称）周辺の賑わいを中心市街地及びその他観光拠点等に波及させるよう、人々の回遊を促進する施策も同時に展開します。方策としては、道路網の整備や多様な移動手段の確保など交通ネットワーク強化によるモビリティの向上、経路上の誘導サイン整備、風景撮影や食べ歩きなどの寄りたくなるスポットづくりなど、官民協働で展開します。

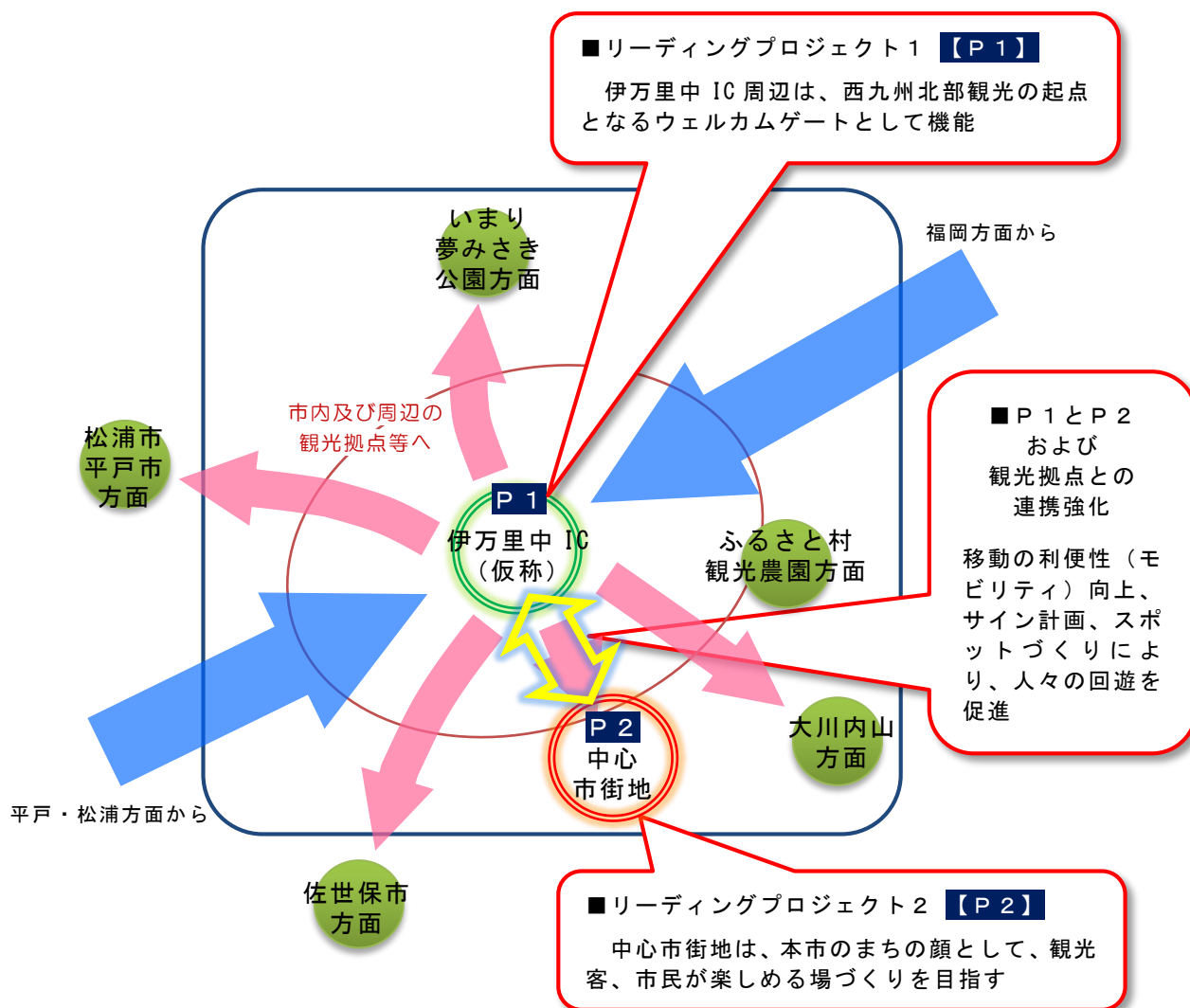
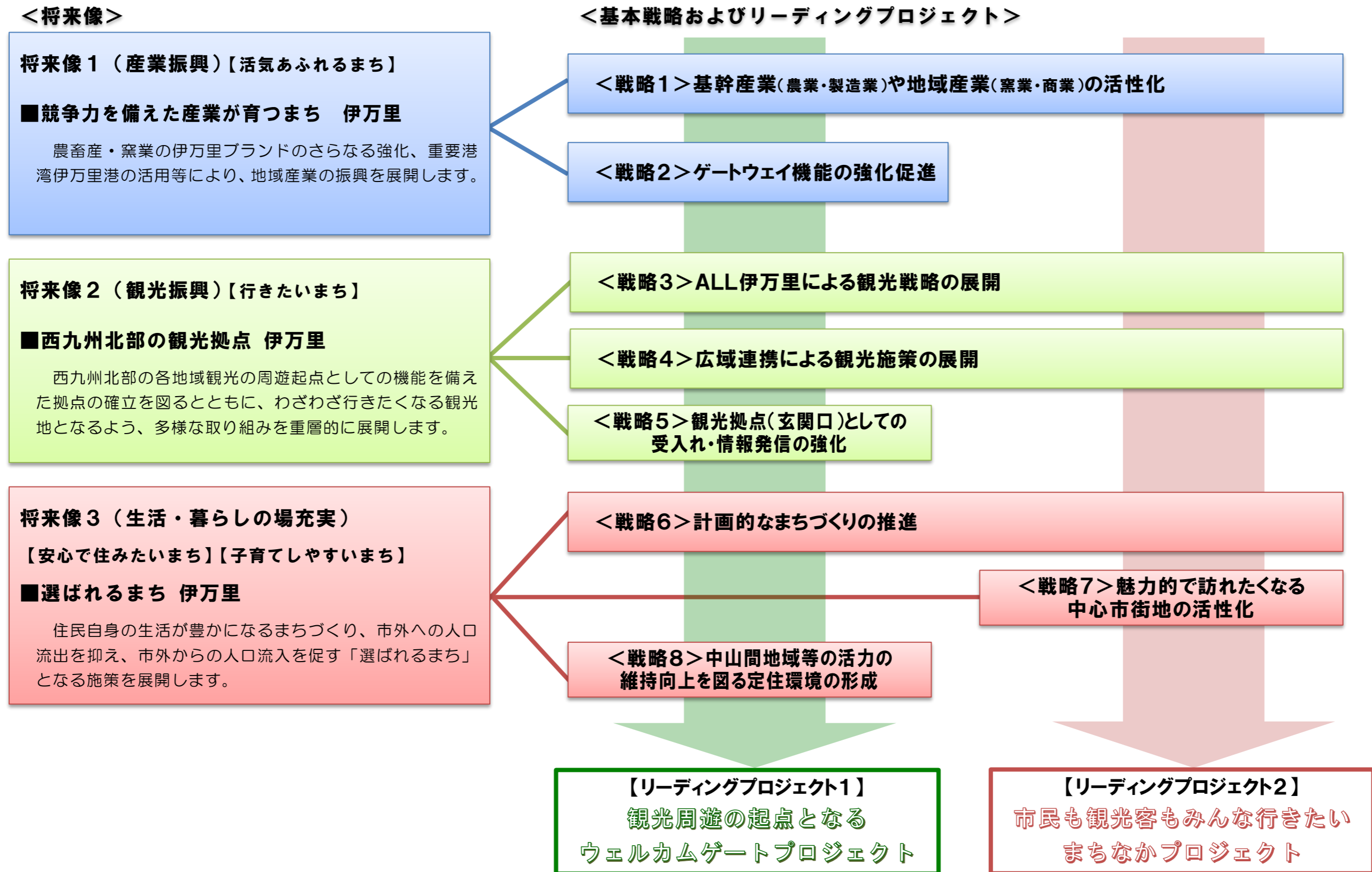


図 リーディングプロジェクト同士の関係性イメージ

4. 将来像及び基本戦略とリーディングプロジェクトとの関係

前章で設定した3つの将来像及び8つの基本戦略とリーディングプロジェクトとの関係を以下に示します。



## 7-2 リーディングプロジェクト

## 1. リーディングプロジェクト1

## 観光周遊の起点となるウェルカムゲートプロジェクト

## ■概要

西九州自動車道は通行料が無料でインターチェンジの出入りが自由であるため、本線上に休憩施設が整備されていません。本市は、西九州自動車道が全線開通すると福岡市から車で約1時間の距離にあり、休憩をとるよいタイミングの時間距離となります。

本市の地理的強みを生かし、福岡都市圏からの観光客等を本市へ流入させるため、伊万里中 IC（仮称）周辺を「西九州北部観光の玄関口（ウェルカムゲート）」として位置づけ、伊万里を目的としない通過交通についても「伊万里に寄っていこう」と思わせる「わざわざ寄りたくなる場所」（プラットフォーム）となる仕掛けづくり・目的づくりを進めます。

その際、本市単独で取り組むのではなく周辺自治体と連携を図りながら広域的に取り組むことで、多様化する観光ニーズに幅広く対応した「稼げる地域」づくりを進めていきます。また、来訪者がウェルカムゲートのみにとどまるのではなく、まちなかや周辺の観光地へも回遊し波及効果を与えることにも配慮します。



図 伊万里観光のプラットフォームのイメージ

## ■リーディングプロジェクトの展開について

「観光周遊の起点となるウェルカムゲートプロジェクト」の推進にあたっては、伊万里中 IC（仮称）開業時期を見据えた短期的な取り組みから、施設整備や観光周遊を促すための中長期的な継続的取り組みまで重層的に取り組むことが重要です。

以下に、リーディングプロジェクトの展開の大きな流れを3つのフェーズに分けて示します。

### ◆フェーズ1：広域観光の推進体制づくり

広域的な観光地域づくりの母体となる運営組織を、平戸市や松浦市などの近隣自治体と連携して立ち上げます。

### ◆フェーズ2：目的地となる場所づくり及び観光コンテンツづくり

農産物直売所等の民間開発と連携した場所づくりを進めます。

あわせて、観光資源の磨き上げや既存資源の連携による新たな魅力づくり、それらにつながりをもたせることによる観光周遊ルートづくり、さらには観光コンシェルジュ等の人づくりなど、様々な観光コンテンツづくりを進めます。

### ◆フェーズ3：移動手段や情報収集等の観光インフラづくり

福岡都市圏から自家用車や高速バスで到着した観光客等について、フェーズ2において取り組んだ観光コンテンツ等を利用してもらうため、ウェルカムゲートから市内中心市街地や周辺観光拠点までの移動手段として、巡回バス、新たな交通サービスなどの導入を検討します。

あわせて、情報収集におけるICT技術の活用や個人旅行者によるSNS等への情報発信へのしかけづくりなど、観光インフラに対する整備も検討します。

フェーズ1

広域観光の推進体制づくり

フェーズ2

目的地となる場所づくり  
及び  
観光コンテンツづくり

フェーズ3

移動手段や情報収集等の  
観光インフラづくり

■施策、活動内容及び取り組み事例

◆フェーズ1：広域観光の推進体制づくり

①観光地域づくりを推進する組織づくり【官・民】

戦略に基づいた稼げる観光地域づくりを進める際には、単独自治体ではなく広域連携による取り組みが重要です。そのため、肥前窯業圏の自治体や近隣の松浦市、平戸市などと連携し、日本版DMO※（観光地域づくり推進法人）などの広域的な観光地域推進体制づくりを進めます。

※日本版DMO（Destination Management Marketing Organization）：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人

■日本版DMO設立および展開への流れ



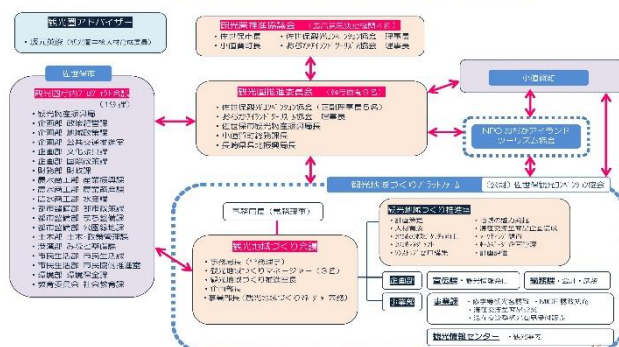
日本版 DMO は、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる組織です。

勘と経験に頼りがちであった観光施策について、データ分析に基づいた明確な戦略策定、KPIの策定、PDCA サイクルによる取り組みの推進により、稼げる観光地域づくりを進めます。

■事例：ブランド観光地域づくりをマネジメントする「観光地域づくりプラットフォーム」とそれを牽引する「観光地域づくりマネージャー」（長崎県佐世保市・小値賀観光圏）

- 観光圏※では、「観光地域づくりマネージャー」を構成員とする「観光地域づくりプラットフォーム(PF)」を設置しており、この PF が主体となって、行政区域を跨ぐ地域間連携、官民の連携、産業間の連携など、多様な地域関係者との連携を図りながら各種取組を進めています。
- 佐世保・小値賀観光圏では、行政内の横断的連携強化のため「佐世保市庁内プロジェクト会議」、地域内の各種団体や法人、住民等との連携強化のための「“海風の国”ネットワーク協議会」を設置し、地域内の連携強化を図っています。

平成25年度「海風の国」佐世保・小値賀観光圏 推進体制図



(出典：観光地域づくり事例集

(国土交通省・観光庁)<http://www.mlit.go.jp/kankochu/shisaku/kankochi/ikiiki.html>

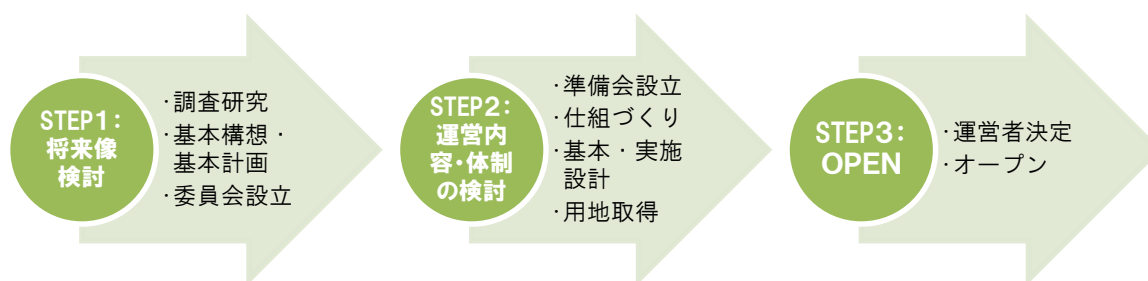
※観光圏とは、自然・歴史・文化等において密接な関係のある観光地を一体とした区域であって、区域内の関係者が連携し、地域の幅広い観光資源を活用して、観光客が滞在・周遊できる魅力ある観光地域づくりを促進するもの

## ◆フェーズ2：目的地となる場所づくり及び観光コンテンツづくり

## ②農産物直売や情報収集等の目的地となる場づくり【官・民】

福岡都市圏からの玄関口となる伊万里中 IC 周辺においては、伊万里らしさを感じることができる景観形成に努めるとともに、伊万里牛、伊万里梨、伊万里焼などの「伊万里ブランド」はもとより、伊万里らしさを感じることができるここにしかない地域のこだわりの特産品等を「買う・食べる・体験する」場、わざわざ寄りたくなる目的地となる場を官民連携により創出します。その際、本市だけではなく、松浦市、平戸市、佐世保市などの周辺市町の観光情報や特産品も広く取り扱うなど広域連携により取り組むことで、多様化する観光ニーズに応えられる場を創出します。

## ■（例）道の駅登録の場合の流れ



伊万里中 IC 周辺は、民間開発との連携を視野にいれて取り組む必要があります。まずは、当地区の将来ビジョンとなる「基本構想」を官民協働で策定し、関係機関等とビジョンを共有します。その後、具体的な運営体制、事業内容等を含めた「事業計画」を策定します。「道の駅」の場合は、市より国土交通省へ登録申請し、認可を受けて供用開始となります。

## ■事例：道の駅を核とした農業プラス観光～川場田園プラザ～(群馬県川場村)

- ・ 地域産業を一同に集積した出店体制、ファーマーズマーケットは農家と一体となった出荷販売体制
- ・ コメ、地ビール、ハム、地酒など、ここにしかないこだわりの商品を進化させながら提供
- ・ 観光交流人口の増加により、農業所得の向上にも大きく貢献



(出典：道の駅かわば <https://www.denenplaza.co.jp/>)

## 【観光資源づくり（観光コンテンツの充実）】

伊万里中 IC 周辺部へ立ち寄った観光客の多様なニーズに対応できる魅力ある観光コンテンツを充実させます。

### ③伊万里ブランドの育成・強化【官・民】

農林水産業の更なる魅力の増大を図るため、農林水産物の加工や農産物直売所等の活用、6次産業化や農商工連携の促進等による経営の安定化に向けた取り組みを促し、伊万里ブランドの育成・強化を図ります。

### ④体験型観光プログラムの充実【官・民】

来訪者に本市のイメージを訴求させるためのツールとして体験型観光プログラムの充実を図ります。単に観光スポットを巡らせる従来型の観光ではなく、地域との絆を感じてファンになってもらうため、やきものの作陶体験や「畑の中のレストラン」（生産地である畑の中で採れたて野菜などの地域食材を使った料理を生産者や料理人の話も交えながら楽しむプログラム）、九州オルレ伊万里コースの設定など、観光客と地域の人との交流を組み込んだ伊万里でしか味わうことのできないプログラムの充実を図ります。

### ⑤観光周遊ルート of 構築【官・民】

日本遺産に指定された「肥前窯業圏」について、活性化推進協議会との連携により SNS などの情報発信ツール活用による認知度アップに努めるとともに、より魅力的な観光周遊ルートとなるようルート上の観光資源の研鑽に取り組みます。

また、西九州北部の観光拠点となるべく、まずは北松浦半島の平戸市・松浦市と連携した「北松浦半島広域観光連携協議会」を立ち上げ、民間旅行代理店等とも連携した観光資源の再発掘及び物語性を持った観光資源作りに取り組みます。また、戦略的な観光情報発信手法についても合わせて検討します。

#### ■市内取り組み紹介：畑の中のレストラン（伊万里市）

- ・ 消費者が「旬の食材」をテーマに、生産現場へ出向き、農作業を体験したり、地域の方の手作り料理を味わったり、生産者の農業への思いや苦労話を聞いたりして交流を深めてもらう取り組み

（出典：伊万里グリーンツーリズム推進協議会 HP  
<http://www.kite-mite-imari.jp/main/160.html>）





## 【観光担い手育成】

### ⑥ ボランティアガイド、観光コンシェルジュの育成【官・民・市民】

目的地となる場の整備においては、ハード整備だけでなくソフト施策も重要です。特にインターネットなど膨大な観光情報が飛び交う現代において、信頼のおける人や団体等が提供する旬な情報には高い価値があります。そのようなことから、多様な観光ニーズに対応できる「ボランティアガイド」や「観光コンシェルジュ」を育成し、より深く魅力的な地域づくりを進めます。

#### ■事例：観光コンシェルジュがいる道の駅「みそぎの郷きこない」(北海道木古内町)

- 北海道新幹線木古内駅前にある「みそぎの郷きこない」は、木古内町をはじめ江差や松前など道南西部9町の観光情報の発信拠点として土産物が並ぶ。
- 観光情報に精通したコンシェルジュも常駐。地元ならではの最新観光情報やディープなご当地ネタも教えてもらえる。

(出典：道の駅「みそぎの郷きこない」[http://kikonai.jp/tourist\\_info/](http://kikonai.jp/tourist_info/))



◆フェーズ3：移動手段や情報収集等の観光インフラづくり

【交通手段】

⑦周辺観光地やまちなかへの交通手段となる二次交通の整備【官・民】

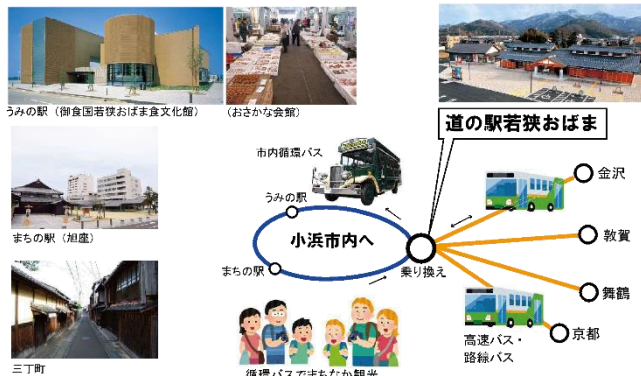
福岡都市圏方面から自家用車や高速バスで本市へアクセスしてきた観光客等に対して、次の目的地への二次交通手段の整備を検討します。例えば、市中心部や市内主要観光地を定時に連絡する小型バスの導入や電動アシスト付きレンタサイクル、あるいはパーク&サイクルライドによる周遊観光の検討などを検討します。

■事例：高速バスの運行と道の駅駐車場を活用したパーク&ライドの社会実験

（福井県小浜市）

- ・ ICに近接する道の駅・市街地をSAのように利用するSSA（スローサービスエリア）の考え方
- ・ 高速バスの試験運行、道の駅駐車場のパーク&ライド駐車場の有効性、パーク&ライド利用者のバス待ち環境としての道の駅の有効性などに関して利用者ニーズを調査

〔パーク&ライドによる小浜まちなか観光のイメージ〕



（出典：小浜市ホームページ

<http://www1.city.obama.fukui.jp/obm/shakaijikken/>）

■民間の取り組み事例：サイクルツアー（全国各地）

- ・ 本格的な自転車愛好家をターゲットとした自転車観光ツアー
- ・ 魅力的な地形、風景の中を、ご当地グルメを堪能したり史跡名勝を探索したりと、サイクリングインストラクターが同伴するツアー

●事例：冬の日帰りグルメサイクリング 日生、赤穂、相生の牡蠣海道サイクリング

冬の味覚の王者、牡蠣！！  
岡山日生で伝説となったB級グルメ、カキオコのお昼ごはん(自由食)の後、冬でも暖かい瀬戸内沿いの播磨シーサイドロードを追い風背に受けてのサイクリング。  
赤穂浪士ゆかりの赤穂城大石神社に立ち寄り、ブランド牡蠣「坂越」おさい市場でお買い物  
ゴールは相生とれとれ市場で牡蠣だけでなく豊富な海の幸でバーベキュー



（出典：サイクリングツアーズジャパン <http://www.cyclingtoursjapan.jp/>）

## 【情報発信】

## ⑧観光情報発信の戦略的展開（SNSの活用促進）【官・民・市民】

観光情報発信ツールとして、近年個人でも手軽に情報発信できる SNS 等を活用した展開を図ります。具体的には、行政による地域 PR 動画コンテスト開催や個人旅行者が SNS に発信したくなるような場所や話題提供など、個人の自発的行動と本市ブランディングが連動した取り組みを展開します。

## ■事例：地域 PR 動画コンテストの開催（小田原市）

- ・ 地域観光のPR手法として、誰でも手軽に作成・応募できる数秒の動画による地域PR動画コンテストを開催
- ・ 入賞作品は、小田原市のPR動画として活用
- ・ 入選するためには、これまでの地域資源を如何に魅力的に切り取れるか、新しい視点はないかなど、地域のことを深く考えるため、地域に愛着が生まれる、動画を見た人も記憶に残り、観光に行こうと思うきっかけとなる等の効果が期待できる。

（出典：小田原 PR 動画コンテスト HP <http://odawara-prmovie.com/>）



## 2. リーディングプロジェクト2

### 市民も観光客もみんな行きたいまちなかプロジェクト

#### ■概要

外から魅力的に映るまちは、「まちの顔」となる中心市街地に賑わいがあります。本市の中心市街地は、駅通商店街、本町名店街、仲町観音通りなどの商店街に多くの店舗が集積し、様々な人が行き来し賑わいを見せていました。しかしながら、全国的な傾向と同様に人口減少やモータリゼーションの進展による郊外店との競合等により、県内でも高い空き店舗率となっており、かつての賑わいが失われている状況にあります。

また、今後の高齢化を見据えた場合、車に過度に依存せず買い物や通院などの日常生活を行える利便性の高い場所を形成していく必要があります、その場所として望ましいのは中心市街地です。

今後、西九州自動車道開通を好機と捉えたまちづくりを進めていく上で、「まちの顔」となる中心市街地の活性化は非常に重要な課題です。しかし、かつての賑わいを取り戻す商店街の再開発等は現実的ではないことから、異なるアプローチで取り組む必要があります。また、中心市街地活性化の素材として歴史的建物の活用についても合わせて検討していくことが必要です。

現在、中心市街地では、空き店舗リノベーションやイベント開催など、NPO等の団体によるまちづくりの動きが出てきています。これら組織と行政が連携しながら、今できることをしっかりと取り組みつつ、将来のまちの姿を見据えたまちづくりを進めていくことが重要です。

そのようなことから、中心市街地を魅力的な賑わいの場として活性化させるため、**「市民も観光客もみんな行きたい場」**として位置づけ、様々な発見がある街として**「中心部に行ってみよう」**と思わせる仕掛けづくり・目的づくりを市民協働で進めます。

## ■リーディングプロジェクトの展開について

「市民も観光客もみんな行きたいまちなかプロジェクト」の推進にあたっては、まちなかの将来像を共有するとともに、まちづくり団体ができること、行政ができることなどを明確にしながら協働で取り組んでいくことが重要です。

以下に、リーディングプロジェクトの展開の大きな流れを3つのフェーズに分けて示します。

### ◆フェーズ1：中心市街地の将来像の共有

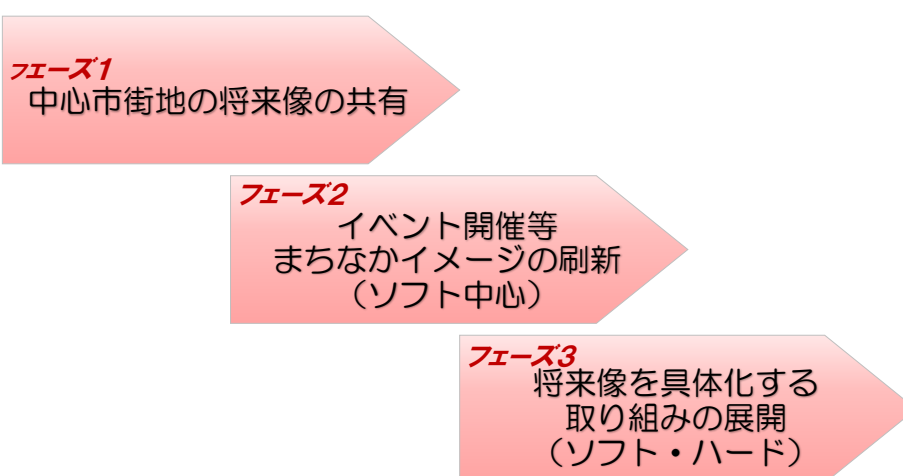
より魅力的な中心市街地を取り戻すため、街の歴史を踏まえながら、どんな中心市街地にしていきたいか、まちの将来像を官民協働で作成・共有します。

### ◆フェーズ2：イベント開催等まちなかイメージの刷新(ソフト中心)

「行きたくなるまちなか」の実現に向け、商店街や伊万里川あるいは歴史的建物を活用したイベント開催など、まずは既存のまちなかイメージを刷新するような短期的に着手できる取り組みを官民協働で継続的に推進します。

### ◆フェーズ3：将来像を具体化する取り組みの展開(ソフト・ハード両面)

フェーズ2によりまちなかイメージが刷新されてきた状況にあわせ、空き店舗や未利用公共施設等のリノベーション事業や歴史的建物活用を含めた中心市街地における観光まちづくりなど、将来像を具体化する様々なソフト・ハード両面の取り組みを官民協働で推進します。



## ■施策、活動内容及び取り組み事例

### ◆フェーズ1：中心市街地の将来像の共有

#### ①中心市街地の将来像の共有化【官・民】

中心市街地の活性化に向けては、多数のまちづくり団体や商店街、市民など様々な方が関わっていくことが重要です。そのため、街の歴史を踏まえながら中心市街地の将来像（どんな中心市街地にしたいか）を地域の方々と共に考え作成し思いを共有することで、目指すべき方向性を明確にし、皆で将来像に向かって進んでいけるようになります。

#### ■将来像の検討・共有の流れ



将来像の共有化のためには、まずは仲間づくり（組織づくり）からスタートさせます。その中で、思いを共有し、まちづくりの方向性を模索しながら、将来像を設定します。将来像の実現手法や役割分担を事業企画としてまとめ、一つずつ挑戦していきます。

### ◆フェーズ2：イベント開催等のまちなかイメージの刷新（ソフト中心）

#### 【イベント・社会実験】

#### ②まちなかイベントの実施（まちなかイメージの刷新）【官・民】

かつて買い物客などでにぎわっていたまちなかに人々を呼び戻すきっかけとして、現在実施しているえびす祭りや土曜夜市などに合わせて、小さくても特徴あるイベントや歴史的建物を活用したイベントを継続的に実施します。それにより、「まちなかではいつも何か面白いことをやっている」と地元住民の意識も変わり、商店街再生へとつながっていきます。

#### ③河川空間の活用検討（ミズベリング）【官・民】

まちなかを流れる伊万里川を、地域の魅力的な資源の1つとしてまちづくりに活用することを検討します。具体的には、河川管理用道路等の空間における仮設店舗等での物品販売や飲食店の出店など、仮設空間としての利用から常設空間としての利用まで、NPO等のまちづくり団体と行政・民間が連携し、社会実験などを通してイベントを開催しながら、中心市街地の活性化のための魅力の一つとして活用することを検討します。

■ イベント開催・ミズベリング実現までの流れ



何のためにイベント等の開催が必要か、最初に目的を明確にし、事業計画にまとめます。事業計画に基づいて、社会実験でイベント等を実行し、その効果や課題を検証します。社会実験結果を踏まえ、事業計画を修正してイベント等を再実行します。また、社会実験を通して見えてきた新しい企画について STEP1に戻り実行します。

■ 事例：まちゼミ(愛知県岡崎市他)

- ・ 商店街の店主やスタッフが講師となり、プロならではの専門的な知識や情報、コツを無料で受講者に伝える少人数制のゼミ
- ・ 商店側は新たな顧客を獲得でき、客側は商品知識やコツなどを無料で習得でき、街には活気がふえる「三方良し」の事業
- ・ 全国に波及している。

(出典：得する街のゼミナール「まちゼミ」HP)

<http://machizemi.org/>



■ 事例：さがクリークマルシェ(佐賀県佐賀市)

- ・ かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクト「ミズベリング」の佐賀市バージョン
- ・ 佐賀のまちなかを網の目のようにめぐるクリーク。その魅力を再び見直し、暮らし・遊び・観光・まちづくりに生かして未来につなぐ活動

(出典：さがクリークネット)

<https://www.facebook.com/sagacreeknet/>



## ◆フェーズ3：将来像を具体化する取り組みの展開（ソフト・ハード両面）

## 【行政窓口】

## ④ワンストップ行政相談窓口の設置検討【官】

中心市街地でのまちづくり活動を進めるにあたっては、建物の用途変更等の許認可や法律上の規制確認など、各タイミングにおいて行政手続きが必要となります。現在は、各分野で相談窓口が異なるなど時間がかかってしまうことから、まちづくり活動を効率的に支援するためにも、行政への各種相談窓口を一本化した庁内横断的な窓口の開設をまちづくりの機運の高まりに合わせて検討します。

## 【ストック活用】

## ⑤官民協働による魅力的な空き家・空き店舗掲示板（仮称）の構築【官・民】

本市の中心市街地では、NPO 等のまちづくり団体を中心に、空き店舗をリノベーションした店舗の出店などの点的な活動が徐々に広がりを見せています。しかしながら、その資源となる空き家・空き店舗のオーナーが不明であることから、せっかく中心市街地に出店したいという話があってもその受け入れ先となる店舗が見つからないなど、チャンスを逃していることもあります。そのため、行政・民間・まちづくり団体の各々が持つ情報収集・発信力、展開・実現力などの様々な能力について、互いに連携・補完しながら、まちなかの賑わいづくりにつながる魅力的な「空き家・空き店舗掲示板（仮称）」を構築します。

## ■事例：空き家を活用したまちづくり（広島県尾道市）

- 空き家を単にデータベース化するだけでなく、新たな活用手法も含めて市内外の興味ある方々が参加し再生・提案し、ほかにはない尾道らしいまちづくりを展開しています。

（出典：尾道空き家再生プロジェクト HP）

<http://www.onomichisaisei.com/index.php>





## 【ストック活用】

## ⑥リノベーションまちづくりの推進【官・民】

NPO等のまちづくり団体により、中心市街地において広がりを見せている空き家・空き店舗のリノベーション事業について、前頁の「空き家・空き店舗揭示版（仮称）」の構築を行いつつ、リノベーションスクール等の起爆剤となるイベントや歴史的建物の活用を組み込みながら、点から面的な広がりへと展開（エリアリノベーション）させます。その際、行政としては、民間と協働してリノベーションまちづくり構想を策定するとともに円滑な事業推進のための行政相談窓口のワンストップ化や関係機関への事業説明、事業のPR支援などの側面支援を行います。

また、中心市街地に点在する未利用公共施設についても、都市部企業のサテライトオフィスや個人旅行者向けのゲストハウス等としての再生を検討します。

## ■市内取り組み紹介：リノベーションまちづくり

「伊万里まちなか一番館」を中心とした半径 400m のエリアにおいて、空き家・空き店舗のリノベーションを行うことにより人が集う場を創設し、各スポットの回遊性を創造するまちづくり構想を展開中。

＜リノベーションの実績＞

zakka bonmine、LIB coffee IMARI、Cafe museum、PORTO 3316 IMARI

## ■事例：リノベーションまちづくり(福岡県北九州市)

- ・ 遊休不動産をリノベーションの手法により再生することで、都市型産業の集積、雇用創出、コミュニティ再生、エリア価値の向上などを図る。
- ・ リノベーションスクールを通じたまちづくり人材の育成
  - 行政や住民との連携の下、リノベーションにより、雇用の創出と賑わいづくりを図ることを目的とした「小倉家守構想」を策定。
  - リノベーションスクールでは、全国のリノベーション実践者を講師として招き、実在する空き店舗などの遊休不動産を題材に、受講者がリノベーションプランを作成。最終日には、プランを不動産オーナーに提案し事業化を目指す実践的なカリキュラム。
- ・ 民間資金によるリノベーション投資
  - 補助金はリノベーションスクールの開催のみに活用し、個別のリノベーション事業は全て民間資金で実施。

(出典：地方創生事例集(国土交通省))

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/souseikaigi/h28-12-14.html>

リノベーション事例(メルカート三番街)



リノベーションスクール



(資料)北九州市

小倉中心市街地(魚町商店街)における1日あたりの歩行者数推移

	人数/日
平成22年	11,006人
平成26年	14,221人

## 【観光インフラ整備】

## ⑦インバウンド対策も含めた観光インフラの整備充実【官・民】

中心市街地に存在する伊万里駅は、鉄道を利用する観光客等の玄関口となることから、観光協会の活性化を促進するとともに、これらの団体等と連携しながらまちなか観光や広域観光の情報発信機能の充実及び特産品販売機能の整備を図り、伊万里中 IC（仮称）周辺地区と同様に観光情報発信拠点を形成します。

また、Wi-Fi 環境の整備や多言語案内板整備、免税店登録やクレジットカード決済登録支援などのインバウンド対策とともに、スマートフォンアプリ等の ICT を活用した観光情報発信等のコンテンツの充実を図り、全ての来訪者に対してわかり易い観光インフラの整備充実を進めます。

**■事例：ICT を活用した街なか観光ツール～うきはさんぼ（観光アプリ）～（福岡県うきは市）**

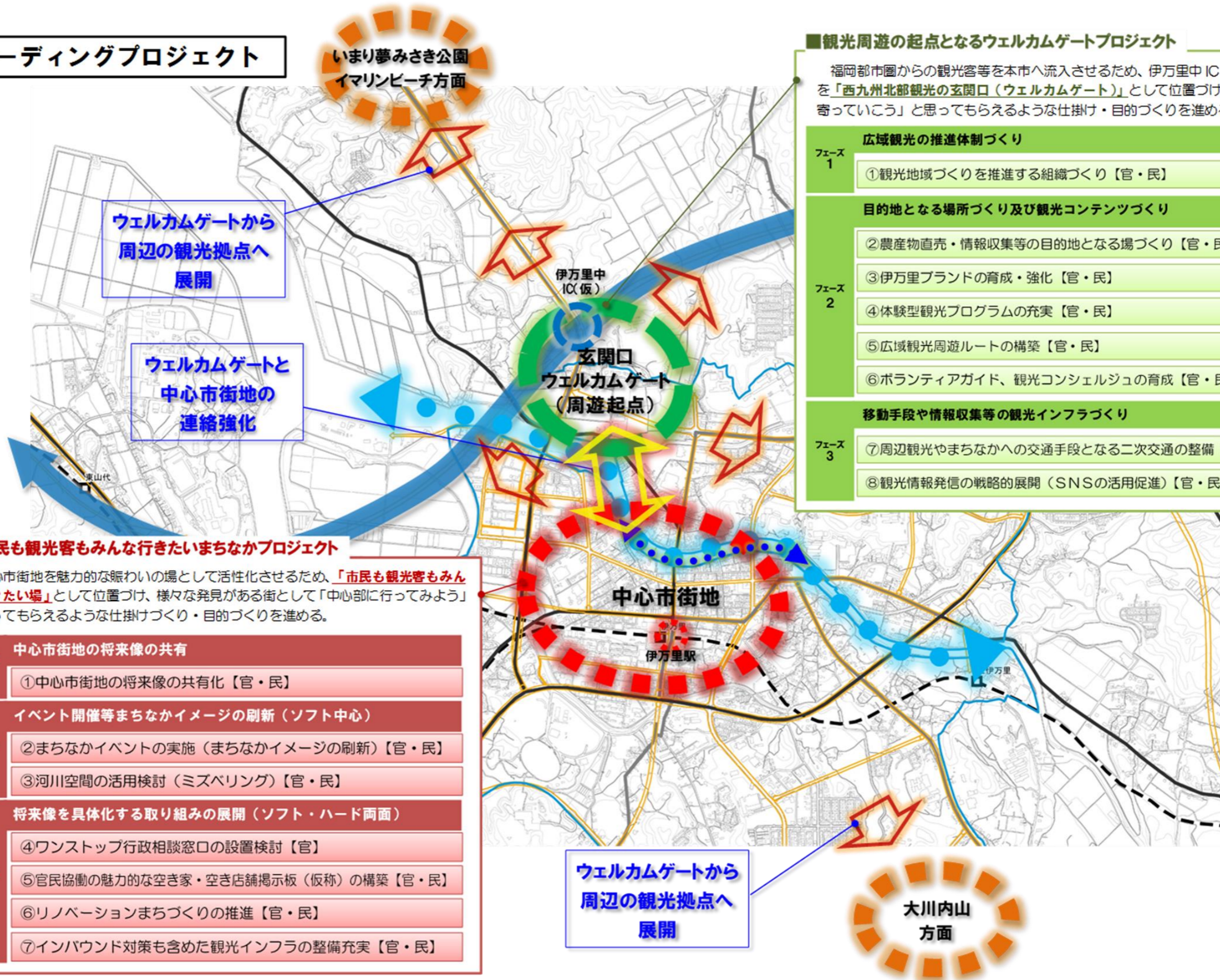
- 地域の観光名所や店舗に設置されたセンサーから発信された案内情報やお得なクーポンを、アプリを使って自動的に観光客のスマートフォンに届け、当地への誘導を促進する。
- 地元の小学生が子供目線のおすすめスポット地図を作成し優秀作品はアプリに反映されるなど、ICT教育と観光が連携している。

（出典：Beacon を活用した観光ガイドアプリ

<http://www.rands-co.com/lb/beacon.html> ）



## ■リーディングプロジェクト



### ■観光周遊の起点となるウェルカムゲートプロジェクト

福岡都市圏からの観光客等を本市へ流入させるため、伊万里中 IC（仮称）周辺を「西九州北部観光の玄関口（ウェルカムゲート）」として位置づけ、「伊万里に寄っていこう」と思ってもらえるような仕掛け・目的づくりを進める。

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 広域観光の推進体制づくり                    |                                 |
| フェーズ 1                          | ①観光地域づくりを推進する組織づくり【官・民】         |
| 目的地となる場所づくり及び観光コンテンツづくり         |                                 |
| フェーズ 2                          | ②農産物直売・情報収集等の目的地となる場づくり【官・民】    |
|                                 | ③伊万里ブランドの育成・強化【官・民】             |
|                                 | ④体験型観光プログラムの充実【官・民】             |
|                                 | ⑤広域観光周遊ルートの構築【官・民】              |
| ⑥ボランティアガイド、観光コンシェルジュの育成【官・民・市民】 |                                 |
| 移手段や情報収集等の観光インフラづくり             |                                 |
| フェーズ 3                          | ⑦周辺観光やまちなかへの交通手段となる二次交通の整備【官・民】 |
|                                 | ⑧観光情報発信の戦略的展開（SNSの活用促進）【官・民・市民】 |

### ■市民も観光客もみんな行きたいまちなかプロジェクト

中心市街地を魅力的な賑わいの場として活性化させるため、「市民も観光客もみんな行きたい場」として位置づけ、様々な発見がある街として「中心部に行ってみよう」と思ってもらえるような仕掛けづくり・目的づくりを進める。

- |                             |                                   |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 中心市街地の将来像の共有                |                                   |
| フェーズ 1                      | ①中心市街地の将来像の共有化【官・民】               |
| イベント開催等まちなかイメージの刷新（ソフト中心）   |                                   |
| フェーズ 2                      | ②まちなかイベントの実施（まちなかイメージの刷新）【官・民】    |
|                             | ③河川空間の活用検討（ミズベリング）【官・民】           |
| 将来像を具体化する取り組みの展開（ソフト・ハード両面） |                                   |
| フェーズ 3                      | ④ワンストップ行政相談窓口の設置検討【官】             |
|                             | ⑤官民協働の魅力的な空き家・空き店舗掲示板（仮称）の構築【官・民】 |
|                             | ⑥リノベーションまちづくりの推進【官・民】             |
|                             | ⑦インバウンド対策も含めた観光インフラの整備充実【官・民】     |

ウェルカムゲートから  
周辺の観光拠点へ  
展開



# リーディングプロジェクト

いまり夢みさき公園  
イマリンビーチ方面

# 観光周遊の起点となるウェルカムゲートプロジェクト

福岡都市圏からの観光客等を本市へ流入させるため、伊万里中 IC(仮) 周辺を「西九州北部観光の玄関口(ウェルカムゲート)」として位置づけ、「伊万里に寄っていこう」と思ってもらえるような仕掛け・目的づくりを進める。

フェーズ 1	<b>広域観光の推進体制づくり</b>
	①観光地域づくりを推進する組織づくり【官・民】
	<b>目的地となる場所づくり及び観光コンテンツづくり</b>
	②農産物直売・情報収集等の目的地となる場づくり【官・民】
フェーズ 2	③伊万里ブランドの育成・強化【官・民】
	④体験型観光プログラムの充実【官・民】
	⑤広域観光周遊ルートの構築【官・民】
	⑥ボランティアガイド、観光コンシェルジュの育成【官・民・市民】
	<b>移動手段や情報収集等の観光インフラづくり</b>
フェーズ 3	⑦周辺観光やまちなかへの交通手段となる二次交通の整備【官・民】
	⑧観光情報発信の戦略的展開 (SNSの活用促進)【官・民・市民】

ウェルカムゲートから  
周辺の観光拠点へ  
展開

ウェルカムゲートと  
中心市街地の  
連絡強化

伊万里中  
IC(仮)  
玄関口  
ウェルカムゲート  
(周遊起点)

中心市街地

伊万里駅

# 市民も観光客もみんな行きたいまちなかプロジェクト

中心市街地を魅力的な賑わいの場として活性化させるため、「**市民も観光客もみんな行きたい場**」として位置づけ、様々な発見がある街として「中心部に行ってみよう」と思ってもらえるような仕掛けづくり・目的づくりを進める。

フェーズ 1	<b>中心市街地の将来像の共有</b>
	①中心市街地の将来像の共有化【官・民】
	<b>イベント開催等まちなかイメージの刷新(ソフト中心)</b>
フェーズ 2	②まちなかイベントの実施(まちなかイメージの刷新)【官・民】
	③河川空間の活用検討(ミズベリング)【官・民】
	<b>将来像を具体化する取り組みの展開(ソフト・ハード両面)</b>
	④ワンストップ行政相談窓口の設置検討【官】
フェーズ 3	⑤官民協働の魅力的な空き家・空き店舗掲示板(仮称)の構築【官・民】
	⑥リノベーションまちづくりの推進【官・民】
	⑦インバウンド対策も含めた観光インフラの整備充実【官・民】

ウェルカムゲートから  
周辺の観光拠点へ  
展開

大川内山  
方面

## 第8章 戦略の実現に向けて

前章までに整理した基本戦略及びリーディングプロジェクトについて、具体的な展開スケジュールを整理します。また、戦略の実現に向けた基本的な考え方と具体の実現方策について整理します。

### 8-1 展開スケジュール

#### 1. 展開スケジュールの基本的考え方

展開スケジュールは、短期、中・長期の期間で検討します。

短期は、おおよそ伊万里中IC（仮称）が供用開始されるまでの期間と想定し、リーディングプロジェクトが実行され、本市が「わざわざ行きたくなる場」として認知されていることをゴールと設定します。

中長期は、リーディングプロジェクトに牽引され、他の施策等が動き出し、住んでいる人自らが安心して快適に暮らせるまち、市民はもちろんのこと、他都市住民からも選ばれるまちとなっていることをゴールと設定します。

	短期 (伊万里中IC 供用開始)	中・長期 (全線開通)
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わざわざ行きたくなる場として認知されている</li> <li>※全線開通までに、本市の知名度を上げる（目的地となる場をつくっておく）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住んでいる人自らが安心して快適に暮らせるまち、市民はもちろんのこと、他都市住民からも選ばれるまちとなっている</li> </ul>

## 2. 展開スケジュール

以下に、戦略別展開スケジュールを示します。

将来像	戦略	プロジェクト	施策・事業等
<b>■競争力を備えた産業が育つまち 伊万里</b>			
<b>&lt;戦略1&gt; 基幹産業や地域産業の活性化</b>			
1) 「伊万里ブランド」の育成・強化			
●農産物直売所の戦略的展開検討			
●6次産業化支援			
●新商品開発及び新規販路開拓（新商品販路開拓支援事業）			
●伊万里ブランドコラボ企画の展開（例「伊万里牛の重箱御膳」 ：伊万里牛と伊万里焼の「伊万里ブランド」を、飲食店と窯元が協働開発・展開）			
2) ICT技術の活用による産業振興			
●生産管理分野へのICTの活用促進			
3) 新たな雇用創出に向けた取組み支援			
●PORT03316IMARIとの連携による起業支援（働く場の創出）			
●公共施設を活用したリノベーション事業 （伊万里市東駅ビル、旧婦人文化会館等：シェアオフィス、ゲストハウスなど）			
<b>&lt;戦略2&gt; ゲートウェイ機能の強化促進（伊万里港の国際物流拠点）</b>			
1) 伊万里港の機能充実及び交通ネットワークの強化			
●伊万里港の国際物流ターミナル整備促進			
●アクセス道路の整備による港湾利用の効率性、利便性の向上、 農畜産品の輸送時間短縮による新規販路開拓への展開			
2) 新規工業団地の整備による新たな雇用の場の創出			
●松浦地区における新規工業団地整備の推進			
●浦ノ崎地区における工業団地開発促進（県）			
●IC周辺における新規工業団地整備の検討			
3) 伊万里港の利活用促進			
●ターゲットを明確にした戦略的なポートセールスの展開			
●県との連携による利活用促進のための支援策の検討			
●クルーズ船寄港検討			
4) ロードサイド型賑わい機能の誘導			
●官民連携による賑わい機能の誘導検討			

※緑文字は、リーディングプロジェクト1、

赤文字は、リーディングプロジェクト2を示します。



将来像	戦略	プロジェクト	施策・事業等
<b>■西九州北部の観光拠点 伊万里（わざわざ行きたくなるまち伊万里）</b>			
<b>&lt;戦略3&gt; ALL伊万里による観光戦略の展開</b>			
1) 観光戦略づくり			
●伊万里市観光戦略プランの見直し			
2) 地域資源のレベルアップ			
●伊万里ブランドによる福岡都市圏等でのイメージ戦略継続展開			
●伝統文化の継承及び新たなイベントの企画展開			
●大川内山の景色の維持（大川内山活用計画の推進）			
●大川内山でのエリアリノベーション（古民家再生）			
3) 異業種連携による取り組み展開			
●体験型観光（食+体験+泊）、（地元食材+地元出身料理人）+α （例：畑の中のレストラン、民泊、DINING OUT in MARの開催など）			
●異業種座談会（仮称）の定期開催			
●耕作放棄地を活用した体験型農業、週末農家の展開⇒定住促進			
4) 継続的なおもてなし体制づくり（ホスピタリティ強化）、広報戦略展開			
●観光案内所のリニューアル			
●ボランティアガイド、観光コンシェルジュの育成			
●伊万里未来プランナーの養成			
●観光インフラの整備拡充（サイン計画、WiFiスポット→直ぐにSNS発信）			
●SNSやwebを活用した広報戦略の展開			
●インバウンド対策（多言語サイン計画、免税店登録奨励事業など）			
<b>&lt;戦略4&gt; 広域連携による観光施策の展開</b>			
●観光客受け入れ体制の再構築 （観光関係団体の連携強化（日本版DMOなど新規団体等の創生））			
●肥前窯業圏の取り組み推進（活性化推進協議会との連携）、 広域観光周遊ルートの形成（平戸市、松浦市との連携）			
●九州オルレ「伊万里コース」の整備			
●観光客誘致活動の効果的展開（民間旅行会社等との連携）			
<b>&lt;戦略5&gt; 観光拠点（玄関口）としての受入れ・情報発信の強化</b>			
●産地直売所、情報発信・収集機能などの整備検討 （観光案内所の新規整備、市所蔵肥前陶磁器の展示など）			
●循環バスなど、公共交通事業者との連携			
●観光案内板の新規設置（伊万里東府招IC、西九州自動車道沿線）			

※緑文字は、リーディングプロジェクト1、

赤文字は、リーディングプロジェクト2を示します。



リーディングプロジェクト		短期	中・長期	事業主体		
P 1	P 2	伊万里中IC 供用開始まで		行政	民間	市民
①		→		●		
		→		●	●	●
④		→		●	●	●
	⑥	→		●	●	●
		→		●	●	
		→		●	●	
		→		●	●	
④		→		●	●	
⑥		→		●	●	●
⑥	②	→		●	●	●
⑧	⑦	→		●	●	●
⑧	⑦	→		●	●	●
	⑦	→		●	●	
		→				
①	⑦	→		●	●	
⑤	⑦	→		●	●	
④		→		●	●	●
⑤		→		●	●	
		→				
②		→		●	●	
⑦		→		●	●	
⑤		→		●	●	

※赤矢印は、リーディングプロジェクトに関する施策・事業を示します。

将来像	戦略	プロジェクト	施策・事業等
<b>■選ばれるまち 伊万里</b>			
<b>&lt;戦略6&gt; 計画的なまちづくりの推進</b>			
<b>1) 将来を見据えた都市計画の検討</b>			
●伊万里市都市計画マスタープランの策定			
●公共施設等総合管理計画に基づく計画的な維持管理の実施 及び施設再配置計画の策定			
<b>2) 定住促進策、子育て支援策の検討</b>			
●移住体験ツアー・空き家ツアー（伊万里の生活体験・空き家の内覧など）			
●定住促進施策（補助金など）の拡充検討			
● <b>子ども伊万里塾の開催</b>			
●伊万里市インターンシップ実習（就業体験）			
<b>&lt;戦略7&gt; 魅力的で訪れたいくなる中心市街地の再生</b>			
● <b>中心市街地再生に向けたまちづくり構想（将来像）策定</b>			
● <b>まちなかイベントの開催（市街地・商店街活性化イベント開催支援事業）</b>			
● <b>伊万里川河川敷地空間を活用した賑わいのあるまちづくり（ミズベリング）</b>			
● <b>空き家・空き店舗対策（リノベーションまちづくり（番館構想）、データベース構築など、官民協働による取り組み検討）</b>			
● <b>ワンストップ行政窓口の設置</b>			
<b>&lt;戦略8&gt; 中山間地域等の活力の維持と向上を図る定住環境の形成</b>			
●「小さな拠点」の形成（拠点形成、ネットワーク（交通）の確保）			
●伝統文化の継承（まつり）⇄地域コミュニティの維持			
● <b>未利用農地等を活用した観光農園（クラインガルテン等）の推進</b>			
● <b>未利用公共施設の活用検討（宿泊施設、ドローン学校など）</b>			

※**緑文字**は、リーディングプロジェクト1、

**赤文字**は、リーディングプロジェクト2を示します。

リーディングプロジェクト		短期	中・長期	事業主体		
P 1	P 2	伊万里中IC 供用開始まで		行政	民間	市民
				●		●
				●	●	
				●	●	
				●		
⑥	②			●	●	●
				●	●	
	①			●	●	●
	②			●	●	●
	③			●	●	●
	⑤			●	●	
	④			●		
				●	●	●
				●		●
④				●	●	●
④				●	●	

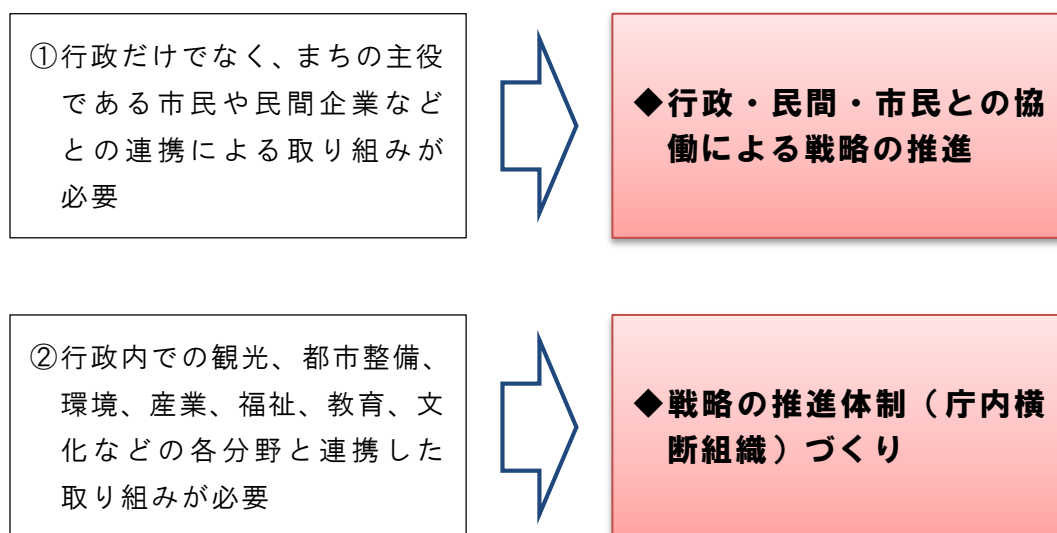
※赤矢印は、リーディングプロジェクトに関する施策・事業を示します。

## 8-2 戦略の実現に向けた基本的な考え方

前章までに整理した基本戦略やリーディングプロジェクトの遂行による将来像の実現のためには、何よりも行政だけでなく、まちの主役となる市民や民間企業等との協働による取り組みが重要です。

また、IC開設を契機とした戦略の推進には、観光や都市整備に関する分野だけでなく、環境、産業、福祉、教育、文化など、様々な分野と関連した取り組みが重要です。

そのようなことから、戦略の実現に向けては、様々な立場や分野との連携・協働により取り組むことが重要であり、以下の点に注意しながら推進します。



### 8-3 戦略の実現に向けて

#### 1. 行政・民間・市民との協働による戦略の推進

本戦略の実現のためには、行政はもとより市民・企業等それぞれが、適切な役割分担のもとに協力しあう「協働」による取り組みを進めることが重要です。

リーディングプロジェクトを遂行する際には、計画段階から市民や各種団体等と一緒に取り組み、維持・管理段階における市民等の積極的な参画を促進します。

#### 2. 戦略の推進体制（庁内横断組織）づくり

今後、本戦略を進めていくためには、庁内においても部署間を超えた連携を図りながら実現化に向けて取り組んでいく体制づくりが必要です。

このため、基本戦略やリーディングプロジェクトを進める際には、都市政策や観光関係部署だけでなく、環境、産業、福祉、教育、文化など、様々な分野の関連部署との横断的な取り組み組織（（仮称）「伊万里市都市形成戦略推進プロジェクトチーム」）を設置します。

当プロジェクトチームが、リーディングプロジェクト全体の協働・連携・各種調整機能を担い、取り組みに対する協議や情報交換、必要に応じた本都市形成戦略の修正・変更を行います。

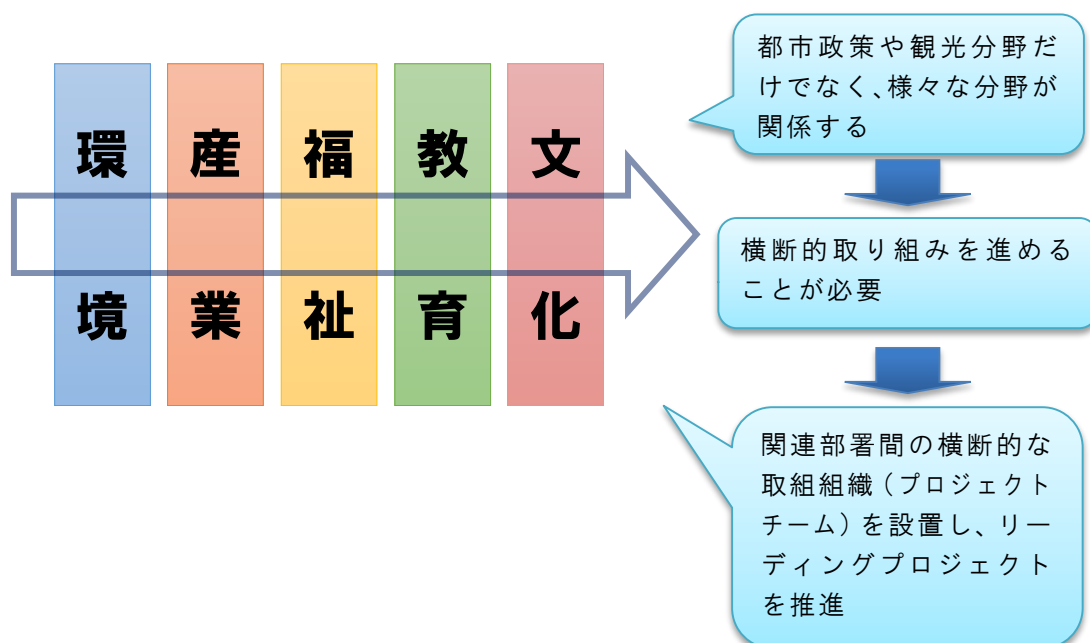


図 実現化に向けた横断的組織のイメージ